

エルサルバドル国
エルサルバドル観光省 (MITUR)

エルサルバドル国
東部地域観光開発能力強化プロジェクト
事業完了報告書

平成 25 年 7 月
(2013 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

産公
JR
13-110

エルサルバドル国
エルサルバドル観光省 (MITUR)

エルサルバドル国
東部地域観光開発能力強化プロジェクト
事業完了報告書

平成 25 年 7 月
(2013 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

目次

第1章	プロジェクトの概要	1
1.1.	本プロジェクトの背景	1
1.2.	プロジェクト目標	2
1.3.	上位目標	2
1.4.	プロジェクトの成果	2
1.5.	プロジェクト対象地域	2
第2章	活動実施スケジュール	4
2.1.	プロジェクトの流れ	4
2.2.	作業工程の実績	5
2.3.	活動計画表（P0）の計画と実績	6
第3章	プロジェクトの成果	8
3.1.	成果1：東部地域の観光開発の方向性が導き出される（ガイドライン）	8
3.1.1.	活動1-1：東部地域における観光開発に関する現状調査	9
3.1.2.	活動1-2：東部地域におけるポテンシャルの高いエリアの分析	18
3.1.3.	活動1-3：東部地域における観光開発の指針案を策定する	21
3.2.	成果2：パイロットプロジェクト地域におけるパイロットプロジェクト 実施を通じて地域独自の資源を活用した観光開発に係る知識が向上する	22
3.2.1.	活動2-1：観光委員会との協議のもと CORSATUR の調整により パイロットプロジェクトの選定基準を作成する	22
3.2.2.	活動2-2：パイロットプロジェクトを選定し、実施する。	23
3.2.3.	活動2-3：パイロットプロジェクト活動のモニタリング・評価を実施し、 教訓をひき出す。	56
3.3.	成果3：パイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会の能力が 向上する	107
3.3.1.	活動3-1：観光委員会/観光協会やその関係者の研修ニーズを調査し、 研修を実施する	107
3.3.2.	活動3-2：各観光委員会や観光協会において規約や定款の作成もしくは 改善を行う	121
3.3.3.	活動3-3：大学やNGO、観光業者、行政機関などの関連機関と 観光委員会/観光協会のネットワークを強化する	122
3.3.4.	活動3-4：観光委員会/観光協会相互の交流（第三国研修を含む）を 強化する	123
3.3.5.	活動3-5：関係する観光委員会/観光協会ごとに観光開発に関する コンセプトを作成する	127
3.3.6.	活動3-6：観光委員会/観光協会のドナー機関やNGO に対する資金 協力を含む支援依頼にかかるプロポーザル作成能力を強化する	128
3.4.	成果4：MITUR 及び CORSATUR におけるパイロットプロジェクト地域の観光 委員会/観光協会支援能力が向上する（MITUR/CORSATUR の能力向上）	129

3.4.1.	活動 4-1：MITUR 及び CORSATUR の観光委員会 / 観光協会との コミュニケーション能力を強化する	129
3.4.2.	活動 4-2：MITUR 及び CORSATUR による、他ドナーや NGO からの資金提供 を受けるために必要な観光委員会 / 観光協会のプロポーザル作成及び プロジェクトの企画・運営等の能力強化にかかる支援を実施する。 (本邦研修を含む)	129
3.4.3.	活動 4-3：MITUR 及び CORSATUR は、パイロットプロジェクト地域において 法人格を持たない観光委員会の法人化を行う	132
3.5.	成果 5：観光委員会/観光協会の活動モデルが開発され、東部地域に普及される	134
3.5.1.	活動 5-1：成果 1 から 4 を通じて、観光委員会/観光協会能力強化の ための提言をまとめ、モデルを構築する	134
3.5.2.	活動 5-2：東部地域に対してモデル普及のためのセミナーを開催する	135
第 4 章	投入実績	141
4.1.	専門家派遣実績	141
4.2.	研修員受入実績	141
4.2.1.	本邦研修	141
4.2.2.	第三国研修	148
4.3.	供与機材実績	152
4.4.	現地業務費実績	152
第 5 章	プロジェクト実施運営上の工夫、教訓	153
5.1.	PDM の解釈 - セミナーの開催地域とプロジェクト対象地域 -	153
5.2.	プロジェクトの実施体制	154
5.3.	C/P の拡大	154
5.4.	CDT/ADT の関心を高める	154
5.5.	CDT / ADT の能力	154
5.6.	地方選挙の影響	154
5.7.	現況調査の重要性	155
第 6 章	PDM の変遷	155
6.1.	PDM 変遷の概要	155
6.1.1.	議事録 (RD) 締結時	155
6.1.2.	第 2 年次における CORSATUR との協議	155
6.1.3.	第三年次中間レビュー調査	156
6.2.	PDM	157

目 次

図 1.5-1	「エルサルバドル国東部地域観光開発能力強化プロジェクト」対象地域	3
図 2.1-2	プロジェクトの流れ	4
図 2.2-1	作業工程の実績	5
図 2.3-1	活動計画表（P0）の計画と実績	7
図 3.1-1	「エ」国における産業構造（資料：2007年センサス）	9
図 3.1-2	エルサルバドル国における貧困地図（2005年、FISDL）	9
図 3.1-3	CAT事務所の位置図	12
図 3.1-4	全国におけるCORSAURとCDTの関係	12
図 3.1-5	CAT事務所への訪問者数	13
図 3.1-6	フォンセカ湾岸地域13市における人口および人口密度	14
図 3.1-7	東部地域におけるポテンシャルの高いエリア	19
図 3.1-8	現地調査において確認された観光資源	20
図 3.2-1	パイロットプロジェクトの選定フロー	23
図 3.2-2	プロジェクトタイプの長期的変化	25
図 3.2-3	プロジェクトサイトの位置的变化	26
図 3.2-4	フォンセカ湾を一体化する基礎となるプロジェクト	26
図 3.2-5	パイロットプロジェクトの位置	27
図 3.2-6	パイロットプロジェクトとプロジェクト目標の関係	29
図 3.2-7	モニタリングおよび評価のスケジュール	58
図 3.5-1	活動モデルの枠組み	134
図 3.5-2	県別普及テーマと普及のための材料	136
図 3.5-3	東部地域の観光開発の推進体制	137

表 目 次

表 3.1-1	県別・地域別人口、人口密度、人口増加率、および都市・農村人口割合	8
表 3.1-2	ホテルの利用率（2009年）	10
表 3.1-3	「エ」国におけるCDTの設立と法人化の状況	11
表 3.1-4	「エ」国におけるCDTの設立と法人化の状況	13
表 3.1-5	13市の宿泊施設	15
表 3.1-6	13市のレストラン	15
表 3.1-7	CDTの設立、法人化、および役員会の更新状況	15
表 3.1-8	市役所のCDT担当課および担当者	16
表 3.1-9	CDTの活動実績と活動に対する市からの支援内容	17
表 3.2-1	最終的なパイロットプロジェクトとその採否	27

表 3.2-2	パイロットプロジェクト選定のプロセス	28
表 3.3-1	各 CDT を対象とした研修	108
表 3.3-2	起業セミナー（観光関連）の概要と成果（第二年次）	109
表 3.3-3	接客サービス（レストラン）研修の概要と成果	110
表 3.3-4	接客サービス（ホテル）研修の概要と成果	110
表 3.3-5	手工芸・民芸品（貝）研修の概要と成果（第二年次）	111
表 3.3-6	手工芸・民芸品（水草）研修の概要と成果	112
表 3.3-7	手工芸・民芸品（ヒカロ）研修の概要と成果	113
表 3.3-8	料理研修の概要と成果	114
表 3.3-9	リーダー育成研修の概要と成果	115
表 3.3-10	手工芸・民芸品（貝）研修の概要と成果（第三年次）	116
表 3.3-11	手工芸・民芸品（竹）研修の概要と成果	116
表 3.3-12	手工芸・民芸品（アルミ細工）研修の概要と成果	117
表 3.3-13	起業セミナー（観光関連）の概要と成果（第三年次）	118
表 3.3-14	観光開発基礎セミナーの概要と成果	119
表 3.3-15	観光開発に関するコンセプトにおける 13 市の優先プロジェクトと支援実績	128
表 3.4-1	CDT / ADT の種類	133
表 3.5-1	セミナープログラム（ウルスタン県）	137
表 3.5-2	セミナープログラム（モラサン県）	138
表 3.5-3	セミナープログラム（サンミゲル県）	139
表 3.5-4	セミナープログラム（ラウニオン県）	140
表 4.1-1	門家チーム派遣実績	141
表 4.2-1	本邦研修日程	144
表 4.2-2	グアテマラ研修旅行の工程	149
表 6.1-1	改定 PDM と現行 PDM の比較	156

略語表

略語	名称	和訳
ADESTI	Asociación de Desarrollo Turístico de Intipucá	インティプカ観光開発協会
ADT	Asociaciones de Desarrollo Turístico	観光協会
AJPI	Asociación de Jóvenes para la Preservación de Intipucá	インティプカ環境保全のための青年会議
ASIGOLFO	Asociación Intermunicipal del Golfo de Fonseca	フォンセカ湾岸地域行政協会
ASOTUR	Asociación de Touroperadores	旅行業者協会
CAT	Centro de Amigos del Turista	観光公団出先機関
CCAD	Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo	中米環境開発委員会
CDT	Comites de Desarrollo Turístico	観光委員会
C.E	Centro Escolar	学校
CDMYPE	Centro de Desarrollo de Micro y Pequeñas Empresas	中小企業開発センター
CODECA	Asociación Coordinadora de Comunidades para el Desarrollo de Cacahuatique	カカウアティケ・コミュニティ開発協会
CONAMYPE	Comisión Nacional de la Micro y Pequeño Empresa	中小企業委員会
CONCULTURA	Consejo Nacional para la Cultura y el Arte de El Salvador	エルサルバドル国家文化委員会
CORSATUR	Corporación Salvadoreña de Turismo	観光公団
DMC	Destination Management Company	着地型観光業者
INSAFOCOOP	Instituto Salvadoreño de Fomento Cooperativo	エルサルバドル協同組合促進機関
ISTU	Instituto Salvadoreño de Turismo	エルサルバドル観光機関
JATA	Japan Association of Travel Agents	日本旅行業協会
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JNTO	Japan National Tourism Organization	国際観光振興機構
JTB	Japan Travel Bureau	ジェイティービー
MEGATEC	Modelo Educativo Gradual de Aprendizaje Técnico y Tecnológico	高等職業技術機構
MITUR	Ministerio de Turismo	観光省
MOP	Ministerio de Obras Públicas, Transporte, Vivienda y Desarrollo Urbano	公共事業省
NGO	Non-Governmental Organizations	非政府組織
OEA	Organización de los Estados Americanos	米州機構
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	活動計画表
SNS	Social Networking Service	ソーシャル・ネットワーキング・サービス
TIC	Tokyo International Center	東京国際センター

第1章 プロジェクトの概要

1.1. 本プロジェクトの背景

エルサルバドル国（以下「エ」国）は、2004年から2009年の行政計画に基づき、観光開発を国家経済開発における重要な分野と位置付け、経済活動の活性化と雇用拡大、首都と地方の経済格差の是正、地場産業の振興・促進を推進するために、関係機関として観光公団（CORSATUR）、エルサルバドル観光機関（ISTU）、エルサルバドル国家文化委員会（CONCULTURA）に加えて、2004年には観光省（MITUR）を設置し、2005年には観光の基本法である「観光法」の制定、2006年には具体的な目標を含む「国家観光計画2014」を策定、各市に観光委員会（以下CDT）を設置するなど、観光振興を推進している。

その結果、「エ」国における観光産業は、1998年にはGDPの1%を占めるに過ぎなかったが、2004年には2.6%、2006年には4.5%まで成長した。その後の災害や経済危機などにより2008年には3.3%まで減少したが、それでも依然として観光産業による収入は2001年以来、海外からの送金に次いで2位となっており、「エ」国にとっては伝統的輸出品目であるコーヒーや砂糖と共に重要な外貨収入源となっている。そのため、観光産業の振興は「エ」国にとって重要な経済開発活動とされ、MITURを政策立案機関、CORSATURを観光開発・振興に関する実務担当機関として、主要な都市にCORSATURが統括している観光振興のためのCORSATUR出先機関（CAT）を設置している。

一方、「エ」国においては、開発された観光地の多くが西部地域に偏っており、東部地域においては、火山や湖、ラグーン、湿原、マングローブ林、ビーチなどの豊かな自然や、少数民族の文化、遺跡などの潜在的観光資源がありながら、観光地としての整備が遅れているため、間接的投資を誘引するための魅力に欠けている。また地元のCDTも観光開発には意欲的ではあるが、開発の実務経験や資金手当てなどについての知識や経験が不足している。さらにCDTを統括するCORSATURについても、地方主導による観光開発を推進するために設置されたCDTを効果的・効率的に支援するための方策が整っておらず、その支援能力の強化が求められている。

本プロジェクトはMITURおよびCORSATURをカウンターパート機関として、「エ」国東部地域において官民連携による地域コミュニティに裨益する持続可能な観光開発の体制を構築することを目的とし、東部地域のCORSATURの出先機関であるCATラウニオンが管轄しているフォンセカ湾周辺13市をプロジェクトサイトとして、各市の観光関連業者、地域住民および地方自治体等で構成されるCDTの運営能力強化にかかる支援を行うとともに、CDTを統括するCORSATURの支援能力強化のための支援を行う。

またCDT、CORSATURが連携して住民主導型の観光開発に関する指針案を策定し、策定された指針案をもとにプロジェクトサイトにおいて地域資源を活用した観光商品などの発掘や開発およびそのプロモーション活動にかかるパイロットプロジェクトを実施する。実施されたパイロットプロジェクトをモニタリングし、その経験をモデルとしてほか東部地域へ普及させることを目的としている。

1.2. プロジェクト目標

東部地域において地域コミュニティに裨益する官民連携による持続可能な観光開発の体制を構築する。

1.3. 上位目標

地域特有の資源を活かしたコミュニティ・ツーリズムが確立される

1.4. プロジェクトの成果

成果 1： 東部地域の観光開発の方向性が導き出される。(ガイドライン)

成果 2： パイロットプロジェクト地域におけるパイロットプロジェクト実施を通じて地域独自の資源を活用した観光開発に係る知識が向上する。

成果 3： パイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会の能力が向上する。(観光委員会と観光協会の能力強化)

成果 4： MITUR 及び CORSATUR におけるパイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会支援能力が向上する。(MITUR/CORSATUR 能力強化)

成果 5： 観光委員会/観光協会の活動モデルが開発され、東部地域に普及される。(モデルの開発と普及)

1.5. プロジェクト対象地域

プロジェクト対象地域は「エ」国東部地域 4 県、パイロットプロジェクト地域は CAT ラウニオンが現在管轄しているフォンセカ湾岸地域 13 市である。

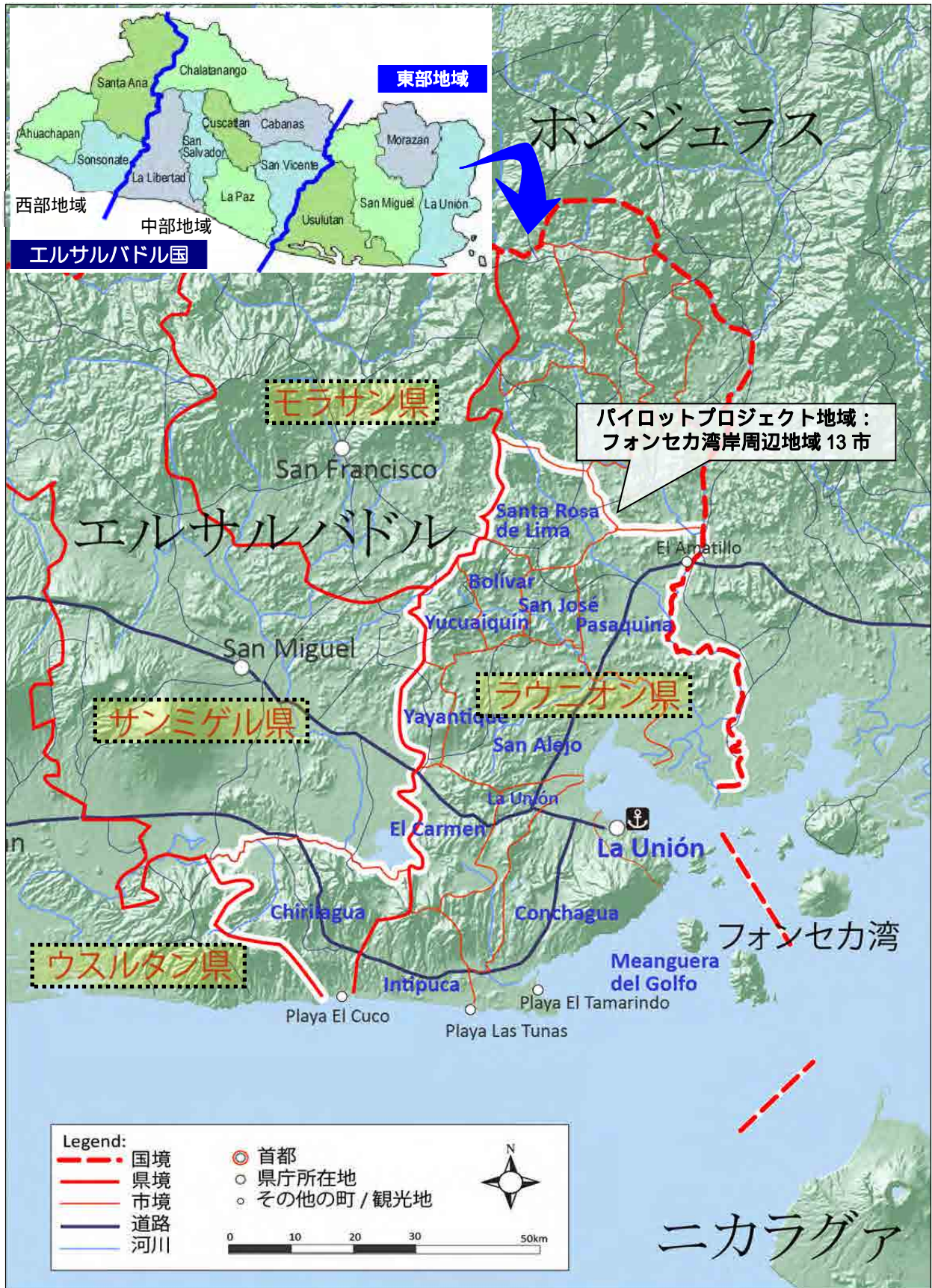


図 1.5-1 「エルサルバドル国東部地域観光開発能力強化プロジェクト」対象地域

出典： JICA プロジェクトチーム

第2章 活動実施スケジュール

2.1. プロジェクトの流れ

本プロジェクトは5つの成果、17の活動よりなり、これを3年次にわたって実施した。プロジェクトの流れは以下に示す通りである。

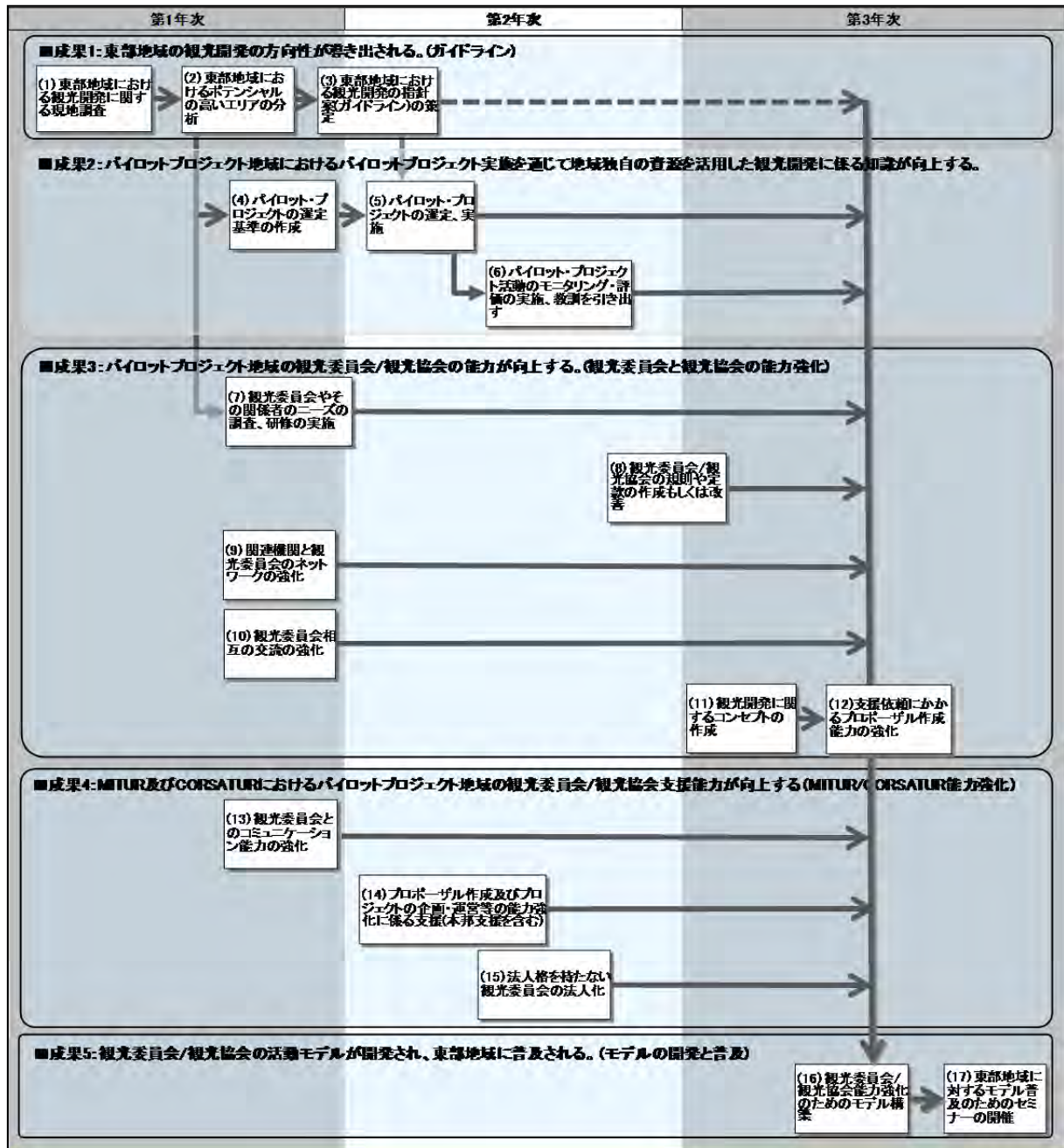


図 2.1-1 プロジェクトの流れ

2.2. 作業工程の実績

作業工程の実績を図 2.2-1 に示した。

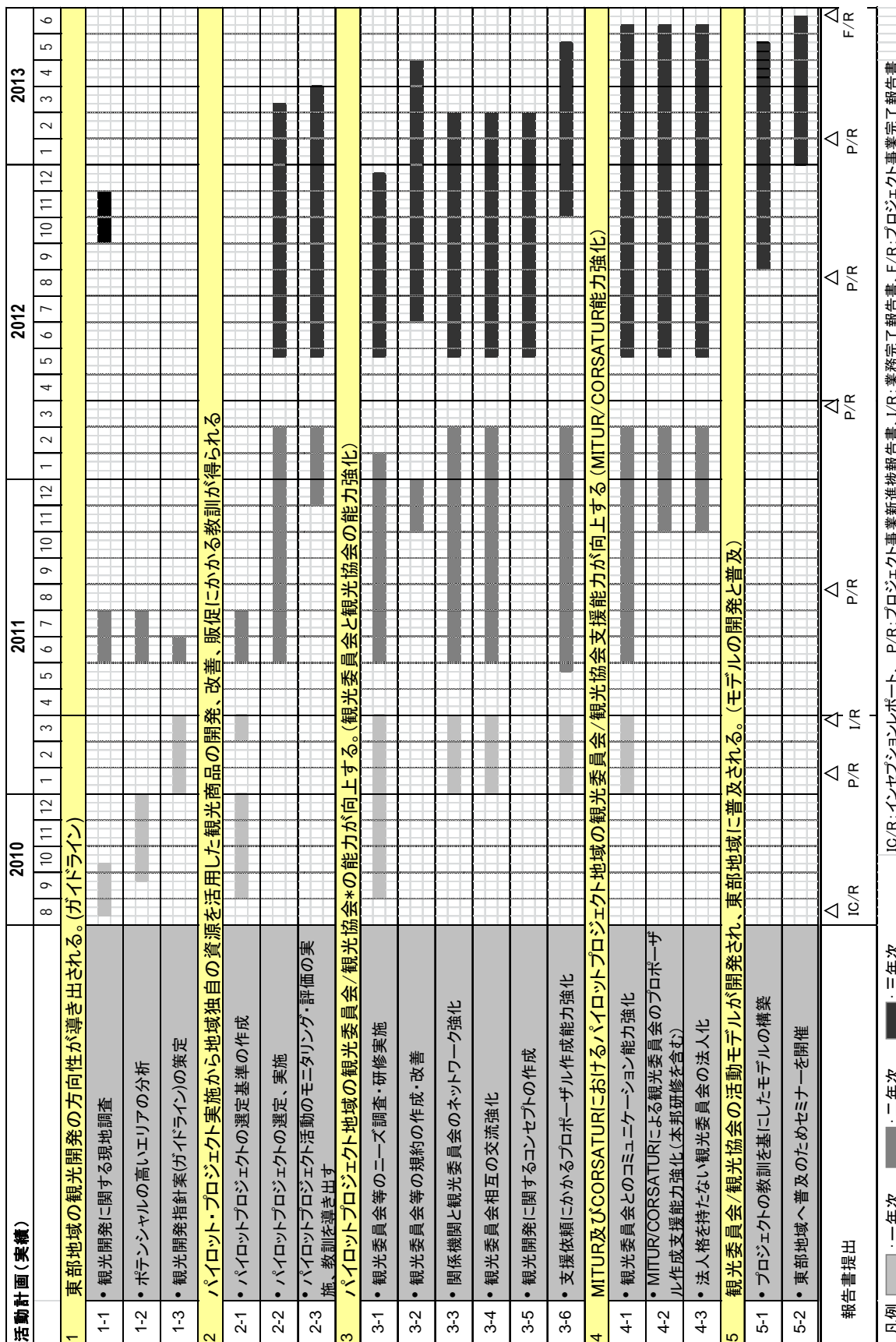


図 2.2-1 作業工程の実績

2.3. 活動計画表（P0）の計画と実績

図 2.3-1 に活動計画の計画と実績を示した。計画と実績に大きな違いが生じた活動と理由を以下に示す。

活動 1-1：現況調査

第一年次に再委託業務によるベースライン調査、および 13 市における参加型ワークショップ調査の実施により、地域の概況が明確となり、他の活動に進む情報が得られた。しかし、現況に関する情報はプロジェクトの進捗に伴い、関連情報が増えたことからこれらの情報を第二年次で整理した。また 2012 年 6 月に実施された「中間レビュー調査」において、プロジェクト対象地域が東部地域 4 県と確定したことから、第三年次においてラウニオン県以外の東部地域の現況調査などを実施した。

活動 1-2：ポテンシャルの高いエリアの分析

観光ポテンシャルの高いエリアは第一年次で把握されていたが、第二年次に実施するパイロットプロジェクトと研修の内容を確定するための再確認調査を実施した。

活動 2-1：パイロットプロジェクトの選定基準

第一年次に選定基準は承認されていたが、パイロットプロジェクトを 5 件に絞る段階で選定のための戦略を検討した。

活動 2-2：パイロットプロジェクトの選定と実施

パイロットプロジェクトの選定が遅れたために、パイロットプロジェクトの開始も当初の予定に比べて約 3 か月遅れた。

活動 3-6：プロポーザルの作成能力支援

観光開発コンセプトとプロポーザルの作成を並行的に進めるためにプロポーザルの事例を早い段階から収集していたが、プロポーザルの対象プロジェクトが観光開発コンセプトの中の優先プロジェクトから選定されることになったため、作業の開始時期が大幅に遅れた。

パイロットプロジェクトが開始されてからは、その他の活動においては大幅な遅れはなかった。

図2.3-1 活動計画表 (PO)の計画と実績

活動計画	スケジュール	Year 2011												Year 2012												Year 2013						活動実績
		Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun								
1 東部地域の観光開発の方向性が導き出される。(ガイドライン)																																
1-1	東部地域における観光開発に関する現状調査を行う。	計画	■	■	■																						【第1年次】 再委託によるベースラインの調査(フォンセカ湾岸地域13市) 参加型ワークショップ(関係者分析、問題分析) 【第2年次】 社会的条件調査/CDTの実態調査 【第3年次】 東部地域の概況調査/CDTの補強調査					
1-2	東部地域におけるポテンシャルの高いエリアの分析を行う。	計画		■	■	■	■	■																			【第1年次】 現地調査によるポテンシャル地域の抽出 【第2年次】 観光資源に関する現地再確認調査 各市観光開発の基本方針案の調査 ポテンシャルの高い観光資源調査、 「エ」圏における観光ルート調査、など					
1-3	参加型で東部地域における観光開発の指針案を策定する。	計画				■	■	■	■	■																	【第1年次】 指針案作成に向けたアイデアの抽出 【第2年次】 指針案(ガイドライン)の策定と承認					
2 パイロットプロジェクト地域におけるパイロットプロジェクト実施を通じて地域独自の資源を活用した観光開発に係る知識が向上する。																																
2-1	観光委員会/観光協会との協議のもと、CORSATURの調整によりパイロット・プロジェクトの選定基準を作成する。	計画	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	【第1年次】 選定基準が査定され、これは承認された。 【第2年次】 選定基準に加えて、当該地域の観光開発の戦略を検討					
2-2	パイロット・プロジェクトを選定し、実施する。	計画																									【第1年次】 パイロットプロジェクト暫定案の作成 【第2年次】 5件のパイロットプロジェクトの決定 パイロットプロジェクトの実施計画の作成 プロジェクトの開始					
2-3	パイロット・プロジェクト活動のモニタリング・評価を実施し、教訓を導き出す。	計画																									【第2年次】 モニタリング計画の作成 【第3年次】 モニタリング・評価の実施 教訓の抽出					
3 パイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会'の能力が向上する。(観光委員会と観光協会の能力強化)																																
3-1	観光委員会/観光協会やその関係者の研修ニーズを調査し、研修を実施する。	計画	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	【第1年次】 参加型ワークショップの結果に基づき研修ニーズの整理 【第2年次】 研修内容の決定/実施計画の策定/研修の実施・評価 第三年次における研修計画の策定 【第3年次】 研修の継続と研修の総括 東部地域の概況調査/CDTの補強調査					
3-2	各観光委員会や観光協会において規則や定款の作成もしくは改善を行う。	計画																									【第2年次】 日本における規約の事例の翻訳 【第3年次】 CORSATURおよびCDTと協議のためのドラフト作成・協議 規約の確定					
3-3	大学や、NGO、観光業者、行政機関などの関連機関と観光委員会/観光協会のネットワークを強化する。	計画																									【第1年次】 グアテマラへの第三国研修の実施を通じてのネットワーク構築 【第2年次】 パイロットプロジェクトや研修、および国内研修などの場を通じてCDTのネットワークを強化 【第3年次】 引き続き、パイロットプロジェクトや法人化の手続きを通じてCDTのネットワークを強化					
3-4	観光委員会/観光協会相互の交流(第三国研修を含む)を強化する。	計画																									【第1年次】 グアテマラへの第三国研修の実施を通じての相互交流 【第2年次】 CDT全国大会やPueblos Vivosへの参加への支援、など 【第3年次】 ニカラガ、ホンジュラスへの第三国研修、など					
3-5	関係する観光委員会/観光協会ごとに観光開発に関するコンセプトを作成する。	計画																									【第3年次】 観光開発に関するコンセプトの作成とコンセプトの発表会の実施(13市参加)					
3-6	観光委員会/観光協会のドナー機関やNGOに対する資金協力を含む支援依頼にかかるプロポーザル作成能力を強化する。	計画																									【第3年次】 優先プロジェクトについてプロポーザルが作成された(8市)					
4 MITUR及びCORSATURにおけるパイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会支援能力が向上する(MITUR/CORSATUR能力強化)																																
4-1	MITUR及びCORSATURの、観光委員会/観光協会とのコミュニケーション能力を強化する。	計画																									【第1年次】 全国CAT交流会開催への支援 【第2年次】 CDT全国大会への支援 CDTの能力強化を目的とした「エ」圏西部地域への研修をMITUR/CORSATUR主導で実施 【第3年次】 CDT全国大会への支援					
4-2	MITUR及びCORSATURによる、他ドナーやNGOからの資金提供を受けるために必要な観光委員会/観光協会のプロポーザル作成及びプロジェクトの企画・運営等の能力強化にかかる支援を実施する。(本邦研修を含む)	計画																									【第2年次】 第一次本邦研修(1名参加) 【第3年次】 第二次本邦研修(4名参加) CAT事務所によるプロポーザル作成の支援					
4-3	MITUR及びCORSATURは、パイロットプロジェクト地域において法人格を持たない観光委員会の法人化を行う。	計画																									【第2年次】 インテグリの法人化の手続きの支援(CONAMYPE) 【第3年次】 インテグリの法人化手続きの継続(CONAMIFE -> ADESCO) インテグリとヤヤティエにおける協同組合の結成への支援(INSAFOCOOP)					
5 観光委員会/観光協会の活動モデルが開発され、東部地域に普及される。(モデルの開発と普及)																																
5-1	成果1から4を通じて、観光委員会/観光協会能力強化のための提言をまとめ、モデルを構築する。	計画																									【第3年次】 成果1から4を得るための活動を総括して、CDTおよびCORSATURの能力強化に関する活動モデルが作成された。 また、パイロットプロジェクトと研修の手順書も活動モデルに含めた。					
5-2	東部地域に対してモデル普及のためのセミナーを開催する。	計画																									【第3年次】 東部地域4県について、それぞれ普及のためのテーマを設定して、活動モデルに基づいて、普及セミナーが実施された。					

第3章 プロジェクトの成果

3.1. 成果 1：東部地域の観光開発の方向性が導き出される（ガイドライン）

3.1.1. 活動 1-1：東部地域における観光開発に関する現状調査

(1) 東部地域 4 県の概況

a) 地域の概況

「エ」国東部地域は、ウスルタン、サンミゲル、モラサンおよびラウニオンの 4 県より成り、グアテマラ国とホンジュラス国から流れる「エ」国最大の河川、レンパ川の左岸側に位置し、面積は 7,728km²（「エ」国土の 36.7%）で、2010 年の人口は 1,283 千人（「エ」国総人口の 20.8%）である。同国の最貧困地域の一つで米国をはじめとした海外人口流出の最も多い地域であるが、最大の畜産地帯でもあり、広大な土地、豊富な水資源をはじめ観光・鉱物資源も含めて資源ポテンシャルは高い。さらに、ラウニオン港が建設され、これを利用する東部地域開発はエルサルバドル経済の競争力強化にも貢献することが期待されている。

表 3.1-1 県別・地域別人口、人口密度、人口増加率、および都市・農村人口割合

地域名 / 県名	人口 (2010 年)	人口密度 (人/km ²)	年平均増加率 (1992 - 2010)
西部地域	1,344,100	299.5	3.1%
中部地域	3,555,800	403.0	2.8%
東部地域	1,283,000	166.0	1.7%
ラウニオン県	259,100	124.9	0.2%
モラサン県	195,900	135.4	2.8%
サンミゲル県	470,200	226.4	2.1%
ウスルタン県	357,800	168.0	1.9%
全 国	6,183,000	293.9	2.6%
東部地域/全国	20.8%	都市人口割合	農村人口割合
ラウニオン県/東部地域	20.2%	30.4%	69.6%
モラサン県/東部地域	15.3%	26.1%	73.9%
サンミゲル県/東部地域	36.6%	50.6%	49.4%
ウスルタン県/東部地域	27.9%	48.0%	52.0%

出展：人口統計 2010 年、人口センサス 2007 年

b) 産業構造

東部地域 4 県の自然的、社会経済的条件は異なり、「エ」国第 4 の都市サンミゲル（人口 22 万人）を抱えるサンミゲル県および首都に近く商業活動の盛んなウスルタン県は都市的性格が強く、これに対して内陸部のモラサン県、辺境地のラウニオン県は経済活動に占める農牧業の割合、および農村人口割合が高く、農村的性格が強い。

パイロットプロジェクト地域を構成するラウニオン県は、「エ」国の東端にニカラグア、ホンジュラスと国境を接して位置し、長い海岸線を有する一方で、その背後地に広大な農村地域を抱えている。

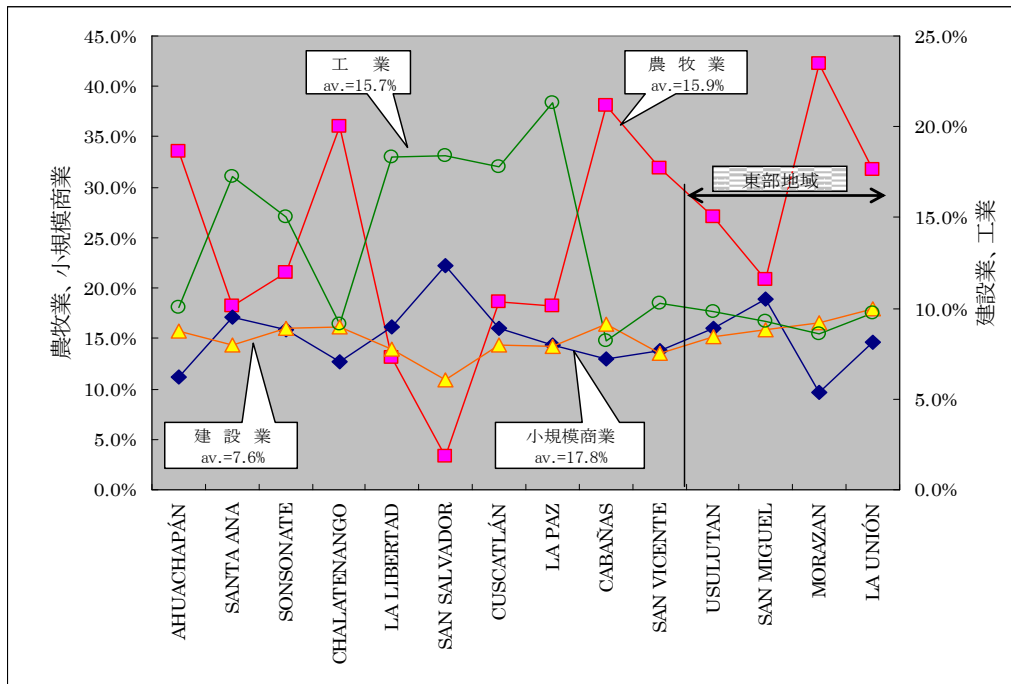


図 3.1-1 「エ」国における産業構造（資料：2007年センサス）

c) 「エ」国の貧困度

図 3.1-2 は、「エ」国における 262 市の貧困度を表したものである。

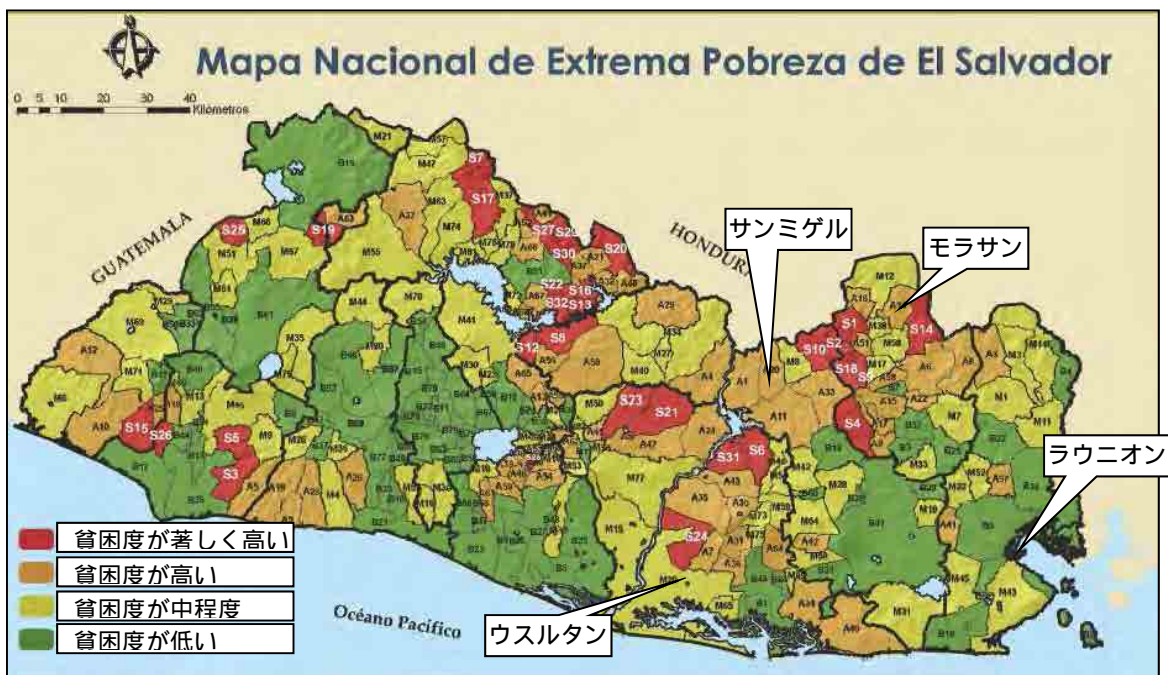


図 3.1-2 エルサルバドル国における貧困地図（2005年、FISDL）

Fondo de Inversión Social para el Desarrollo Local de El Salvador

ホンジュラスとの国境地域の山間地域に貧困度の高い地域が集中している。従って、東部地域 4 県の貧困度を見ても、モラサン県の山岳部からウスルタン県へ向けて南西方向に貧困地域が集中しており、ラウニオン県のフォンセカ湾岸周辺地域の各市の貧困度はやや低くなっている。

d) ホテルの利用率

表 3.1-2 は、各県におけるホテルの利用率を示したものである。これによると、全国平均 59.0%に対して、東部地域 4 県はいずれもこの値を下回り、特にラウニオン県は 25.3%と低くなっている。ラウニオン県の下にはサンビセンテ県の 22.2%があるのみである。

表 3.1-2 ホテルの利用率 (2009 年)

県	ホテル数	部屋数	占有率(%)
東部地域			
San Miguel	33	964	50.88%
Usulután	16	220	37.74%
Morazán	12	141	35.21%
La Unión	17	322	25.30%
農村地域のホテル	8	157	28.20%
海岸のホテル	9	165	22.54%
San Salvador	94	2,599	61.84%
Chalatenango	28	343	50.07%
Cuscatlán	10	69	46.23%
Sonsonate	38	945	74.33%
Ahuachapán	30	267	43.88%
La Libertad	55	1,083	61.38%
La Paz	21	774	69.40%
Cabañas	3	36	39.17%
San Vicente	3	52	22.21%
Santa Ana	34	483	37.47%
TOTAL	394	8,298	59.04%

資料：CORPORACIÓN SALVADOREÑA DE TURISMO – CORSATUR

(2) 「エ」国における CDT の概要

a) 「エ」国における CDT の設立とその法人化の状況

観光委員会 (CDT) は、地域の観光活動のために組織化された地域の代表者グループであり、CORSATUR の法律に基づいて各市に設置され、特定の政党や宗教とは関わりを持たない非営利組織として「エ」国籍の協会として設立する。法人化すると観光協会(ADT)と名称が変わり、寄付行為など金銭の収受が可能になり、国内外の援助機関へプロポーザル申請ができるようになる。

「エ」国 14 県における CDT の設立とその法人化の状況を以下の表に示す。

表 3.1-3 「エ」国における CDT の設立と法人化の状況

	県	(1) 市の数	(2) CDT 設立	(3) 法人化	(4)=(2)/(1) C D T 率(%)	(5)=(3)/(2) 法人化率(%)	(6) = (3)/(1) 法人化率(%)
西部地域	Ahuachapán	12	8	2	66.7%	25.0%	16.7%
	Santa Ana	13	5	3	38.5%	60.0%	23.1%
	Sonsonate	16	6	4	37.5%	66.7%	25.0%
中部地域	La Libertad	22	9	3	40.9%	33.3%	13.6%
	Chalatenango	33	8	0	24.2%	0.0%	0.0%
	San Salvador	19	4	0	21.1%	0.0%	0.0%
	Cuscatlán	16	7	0	43.8%	0.0%	0.0%
	Cabañas	9	2	1	22.2%	50.0%	11.1%
	La Paz	22	16	0	72.7%	0.0%	0.0%
	San Vicente	13	5	0	38.5%	0.0%	0.0%
東部地域	Usulután	23	7	4	30.4%	57.1%	17.4%
	Morazán	26	12	2	46.2%	16.7%	7.7%
	San Miguel	20	2	0	10.0%	0.0%	0.0%
	La Unión	18	12	5	66.7%	41.7%	27.8%
TOTAL		262	103	24	39.3%	23.3%	9.2%

*1： 全国に、市から独立した7つの観光委員会 / 協会がある。

*2： 4つの市に地域 CDT がある。

(出展：CORSAUR、2013年2月末時点)

全国 262 市のうち、2012 年 10 月末時点で、103 市(39%)において CDT が設立されており、CDT が設立されていないのは 159 市であり、その内 60 市では CDT 設立に向けた何らかの動きがある。全国で法人化されているのはわずか 24 市(9%)であるが、CDT が設立されている市に対する法人化率は 23%となる。法人化についても、61 市がそのプロセスにある。ラウニオン県についてみると、CDT 設立率はラパス県(73%)に次いで高く(67%)、法人化率は最も高く(28%)なっている。

b) 「エ」国における CDT と CORSAUR および CAT との関係

CORSAUR はその下部機関として観光公団出先機関(CAT)を全国に 6 事務所を構え、CAT は観光資源にまとまりのある地域を管轄している。



図 3.1-3 CAT 事務所の位置図

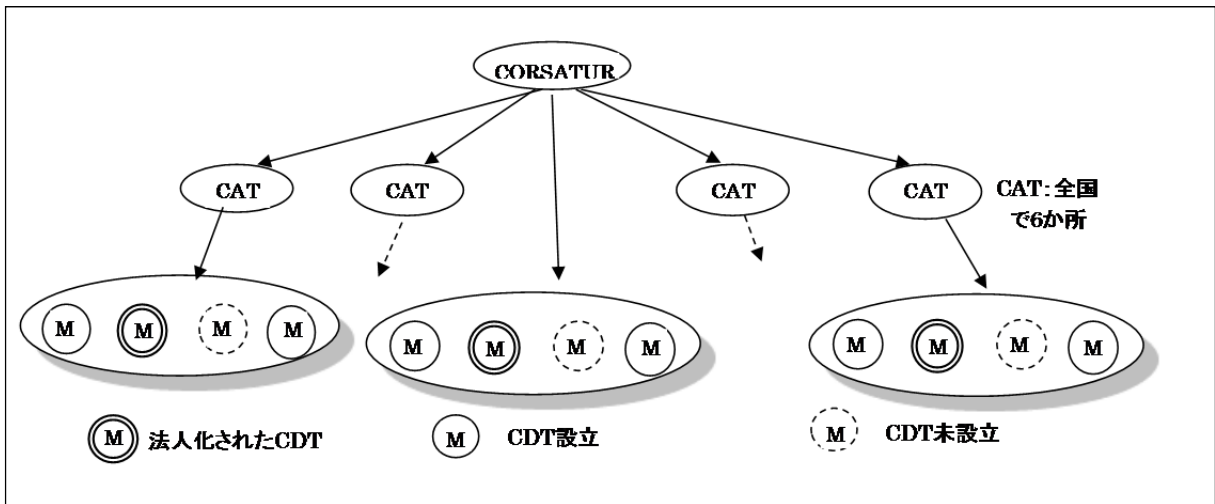


図 3.1-4 全国における CORSATUR と CDT の関係

そこには、未だ CDT が設立されていない市、CDT が設立された市、および CDT を法人化した市が混在している。また、CDT の中には CAT を通さずに CORSATUR の直接指揮下にあるものもある。CORSATUR としては、CORSATUR-CAT-CDT という組織で全国を統一する方針であるが、これは途上にある。

CAT の中には、傘下の CDT を代表するような形で、地域 CDT が設立されているケースもある。下表は、CAT との関連で全国の CDT 組織を見たものである。

表 3.1-4 「エ」国における CDT の設立と法人化の状況

	CAT 名	対象県名	地域 CDT の有無	地域 CDT の法人化	対象 市数	CDT 設 立数	法人 化数
CAT 組織	La Libertad	La Libertad	無	-	11	5	3
	Suchitoto	Cuscatlán	無	-	9	8	1
	La Palma	Chalatenango	有	無	9	8	0
	Ruta de Las Flores	Ahuachapán/ Sonsonate	無	-	12	11	6
	Ruta de Paz	Morazán	有	有	14	12	2
	La Unión	La Unión/San Miguel	有	有	13	13	5
CORSAUR の直接指揮					194	48	6
合計			3	2	269	105	23

全国の 6 つの CAT が管轄する地域の中に地域 CDT が設立されているのは 3 つあり、その内ルータデパスおよびラウニオンの 2 つが法人化されている。即ち、プロジェクト対象地域であるフォンセカ湾岸周辺地域は、地域 CDT の法人化という点では先を進んでいる。

c) 各 CAT 事務所への訪問者数

CAT 事務所では、事務所への訪問者の記録を取っている。

右図は、2000 年から 2012 年までの 6 か所の CAT 事務所の記録を示している。

CAT ラウニオンは、2010 年以降増加傾向にあるが、2012 年は下から 2 番目、CAT Ruta de Paz の半数以下となっている。なお、6 つの CAT の中で Suchitoto への訪問者が飛びぬけて多くなっている。

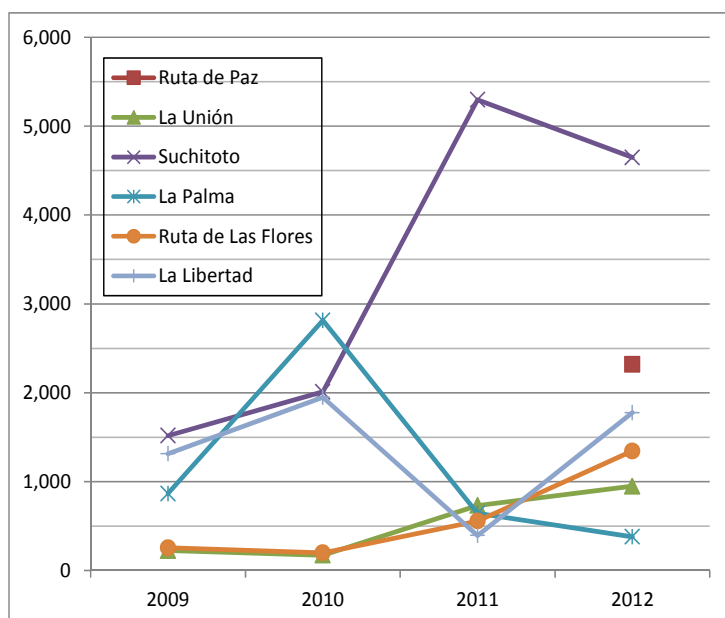


図 3.1-5 CAT 事務所への訪問者数

(3) パイロットプロジェクト地域の概況

a) 13 市における人口および人口密度

パイロットプロジェクト対象地域のフォンセカ湾岸地域の 13 市は、ラウニオン県の 12 市、サンミゲル県の 1 市、計 13 市よりなる。ラウニオン県には 18 市あるので、67%の市がフォンセカ湾岸地域の 13 市を構成している。

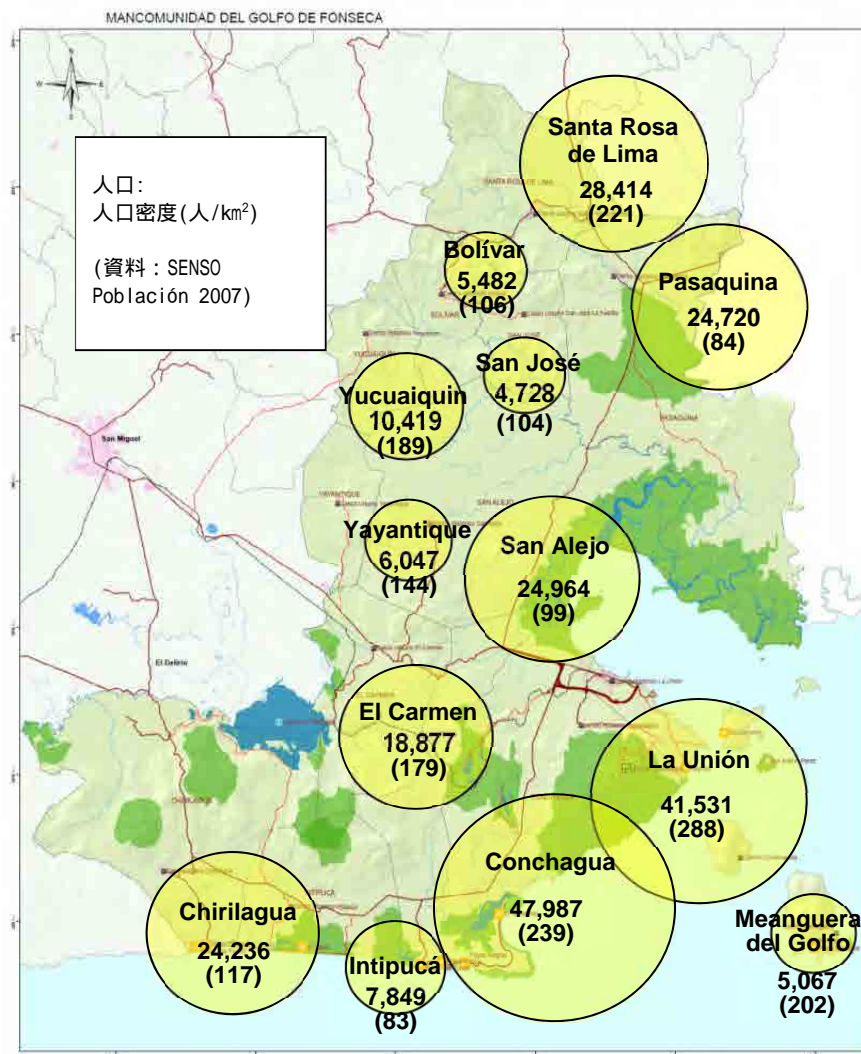


図 3.1-6 フォンセカ湾岸地域 13 市における人口および人口密度

2007 年における 13 市の人口は約 25 万人(図 3.1-6 参照)であり、最も多くの人口を抱えているのがコンチャグア市で 48 千人、これにラウニオン市の 42 千人が次いでいる。海岸を有する 6 市合計の人口が約 17 万人で、全体の約 70%を占めている。人口が 1 万人に満たない市が 5 市あり、これらの合計が 29 千人で、全体の 12%を占める。

フォンセカ湾岸地域周辺 13 市の人口密度は、ラウニオン県を約 20%上回っている。人口密度を大きい順に並べると、ラウニオン 289(人/km²)、コンチャグア 239(人/km²)、サンタロサデリマ 221(人/km²)となっている。

地域で人口増を引き受ける経済的基盤が弱いために、人口の伸びが極めて低く、かつ出稼ぎ率が高くなっていることと推察できる。また、ホテルの利用率が低いことから、他県に比べて観光客を呼び込むためのインフラ整備や観光開発整備が遅れていることが想定される。このように 13 市は「エ」国の中では開発が遅れている。

一方、地域内に目を転じると、13 市内の宿泊施設とレストランの収容能力は海岸地域と内陸部では異なり、相対的には前者の方がより恵まれていることが明白である。

表 3.1-5 13市の宿泊施設

市	部屋数	ベッド数
ラウニオン	162	311
コンチャグア	30	81
サンタロサデリマ	41	53
メアンゲーラデルゴルフオ	15	36
チリラグア	48	118

(資料：CAT ラウニオン、2012年3月)

表 3.1-6 13市のレストラン

市	テーブル数	席数
ラウニオン	270	1,090
コンチャグア	235	910
メアンゲーラデルゴルフオ	10	40
インティプカ	10	40

(資料：CAT ラウニオン、2012年3月)

(4) フォンセカ湾岸地域 13市の CDT の概況

a) CDT の設立状況

当該地域における CDT の設立は 2007 年 9 月に始まり、先ず地域 CDT を含めて 6 つの CDT が設立され、翌年にはその全てが法人化された。本プロジェクトが開始された 2010 年 8 月時点では、7 市には CDT がなかったが、プロジェクトの進捗に合わせて、2012 年中に全ての市に CDT が設立されたことになる。2 年ごとに行うことになっている役員の変更手続きも遅ればせながら行われている。また、2 市で新たに協同組合としての法人化の手続きが行われており、インティプカでは完了、ヤヤンティケで進行中である。

表 3.1-7 CDT の設立、法人化、および役員会の更新状況

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
1	ボリバル				4月		9月11日	
2	チリラグア						6月18日	
3	コンチャグア	9月7日	6月3日			11月24日		
4	エルカルメン	9月14日	7月21日				6月26日	
5	インティプカ					5月17日		CDT:手続き中 協同組合:法人化
6	ラウニオン	9月14日	7月21日				9月21日	
7	メアンゲーラデルゴルフオ						2月8日	
8	バサキナ	9月13日	7月21日				6月14日	
9	サンアレホ				12月			
10	サンホセ				10月			
11	サンタロサデリマ	9月13日	7月21日				7月18日	
12	ヤヤンティケ						7月25日	協同組合:手続き中
13	ユクアイキン				10月		7月25日	
14	地域 CDT	12月13日	11月28日				9月12日	

凡例：黒字：CDT 設立、赤字：法人化、青字：役員会の更新 (資料：CAT ラウニオン)

b) CDT に対応する市の担当課および担当者

13 市の CDT に対応する市役所の担当課および担当者は以下の通りである。

表 3.1-8 市役所の CDT 担当課および担当者

市	担当課	担当者
1 ラウニオン	福祉課	Alvaro Figueroa Ventura
2 ポリバル	文化・スポーツ課	Maria Auxiliadora Alvarez
3 コンチャグア	市長の顧問	Elsi Marleni Hernández
4 エルカルメン	観光課	Claudia Natali Maldonado
5 インティプカ	環境課	Sandra Melendez
6 メアングーラデルゴルフオ	福祉課	Kayra Marilyn Romero García
7 パサキナ	心理学者	Alma Zulema Rivera
8 サンアレホ	環境・自然課	Carlos Eduardo Jiménez,
9 サンホセ	市長の顧問	Mario Andrés Martínez
10 サントロサデリマ	福祉課	José Orlando Flores Láinez
11 ヤヤンティケ	会計課	Alicia Rodríguez
12 ユクァイキン	福祉課	Ángel Antonio Romero
13 チリラグア	経理アシスタント	Rubidia Durán Melendez

(資料：2013 年 2 月末時点、CAT ラウニオン)

2012 年 3 月の地方選挙で市長改選のあったエルカルメン市では、新市長が観光課を創設した。ラウニオン市、サンホセ市およびパサキナ市でも観光課創設の動きはあるが、2012 年 12 月時点では具体化していない。

このように、市役所における CDT 対応の窓口は市の事情によって様々な部署となっており、統一されたものにはなっていない。

c) 2012 年における CDT の活動実績と活動に対する市からの支援内容

表 3.1-9 は、2012 年における CDT の活動(本プロジェクトとの関係は除く)とこの活動に対する市役所の支援の内容を表したものである。

【活動の内容】

活動の多くは、地域の宗教的祭、収穫祭、食のイベント、清掃など、どちらかという市が実施する活動に CDT が協力する、という形態が多くなっている。土曜日(あるいは日曜日)のイベントは、ラウニオン、パサキナ、およびメアングーラデルゴルフオで継続的に行われている。

特異な活動としては、ラウニオンの Miss Teen コンテストがある。

【市役所からの支援】

市の活動の一環として実施していることから、資金や材料などの支援、あるいはスペース、テント、音響設備などイベント実施に必要なものが提供されている。

ラウニオンの活動には市からの支援が全くなく、これは市と CDT の関係が必ずしも良くない、ということの反映でもある。これらの活動に必要な資金は CDT メンバーの個人的な負担で行われている。

【会費】

CDT のメンバーが会費として定額を徴収しているところはなく、コンチャグアで幹部が

月当たり1ドルを収めているのが例外的事例となっている。

即ち、会費を支払ってまで CDT のメンバーになるということはない、というのが実態となっている。

【活動状況】

ボリバルでは会長がサンサルバドルに引っ越し、その後任が長いこと決まらず、CDT としての活動は低調である。また、サンタロサデリマでは市長の交代により大幅なメンバーの入れ替えがあり、メンバーの活動への参画が少ないことが指摘されており、サンホセでは民間の会長の適任者がいないことから暫定的に市長が会長を務めている、など CDT の活動は低調である（表 3.1-9）。

表 3.1-9 CDT の活動実績と活動に対する市からの支援内容

	2012 年における CDT の活動 (当該プロジェクトと関係のない)	市の支援の有無	支援の内容 (金額または材料)	備 考
ラウニオン	土曜日開催の食と民芸品の集い	なし		資金不足
	中米諸国 Miss Teen コンテスト	なし		
	チキリンとブラジータビーチにおける清掃キャンペーン	なし		住民の協力は少なかった
	中央公園における食の祭	なし		
	(CDT 主催の)「観光の日」への参加	なし		市当局に関心なし
	米国海事学校船ゴールドンベアーの受け入れ	なし		
	旧市街古代博物館(旧鉄道駅)	なし		イベント時にスペースを利用して展示
コンチャグア	弦楽のコンサートのグループ化	あり	70 ドル	市役所にはしっかりした観光計画がない
	4 月にドイツの協会メンバーと火山へのツアーをした。	あり	車の貸与	
	移動図書館への訪問	あり	250 ドル。その他、椅子、テント、音響施設。	
	コンチャグアにおける観光活動を活発にするために当局と会談	あり	市長室の提供	
	Pueblos Vivos のプロモーション会議	あり	プロジェクターとスクリーンの貸与	
	8 月に Pueblos Vivos への参加。	あり	燃料費として 50 ドル。	
	コンチャグアのブサ販売者の組織化	なし		
エルカルメン	文化とグルメ祭(イースター)	あり	300 ドル(音響施設、テントなど)	CDT の能力強化に対して市当局からの活動に対して大きな支援はない
	Pueblos Vivos のフィエスタ	あり	100 ドル	
	オメガ湖周辺施設の開所式(市主導)	あり	ロジステック	
	12 月 18 日の聖人祭	あり	300 ドル	
インティパカ	海岸の祭典祝い	あり	移動/移送式ディスコ	法人化のプロセスにある。 CORSA TUR の法務局が問題点をいくつか指摘し、これらを変更する必要がある。
	食の祭り	なし		
	出稼ぎ者の帰国者とエルエステロンビーチおよび近くの河川の散策	なし		
	市当局と地域の企業家との会議	あり		
メアンゲラデルゴルフ	地域特有の料理と貝の民芸品の創作	あり	集会所の提供	今年に CDT が創設され、市長からの多くの支援もある。
	集落の塗装と美化	あり	ペンキとブラシの提供	
	海岸の清掃	あり	袋、輸送、ロジステック、昼食の提供	
	土曜日ごとの観光者への対応と民芸品販売	あり	テントと司会者	
	港周辺施設での金曜日の映画上映	あり	フィルムと上映会場	
	12 月における島民の集い週間	あり	ロジステック、音楽、会場、テント、司会者	

パサキナ	「楽しい土曜日」の組織化と復活	あり	ロジステック、輸送、音響施設	
	パサキナの観光プロモーションビデオを市当局と製作した	あり	フィルム代、輸送、食事、ロジステック	
サンアレホ	聖人祭(1月)	あり	移動式ディスコとオーケストラ	市は CDT を支援している。しっかりした観光計画はない。
	競争大会	あり	賞品	
	(聖人通過のための)絨毯競争	あり	150 ドル/賞品	
	聖人祭(8月)	あり	移動式ディスコとオーケストラ	
	ヴァイオリン祭	あり	賞品	
	とうもろこし祭	あり	音響施設	
	リレー競争	あり	賞品	
お墓参りの日:造花フェスティバル	あり	賞品		
サンホセ	モニュメント公園における集い	あり	マリアッチに対して 400 ドル	法人化を待っている。
	女性のためのビジネスプラン開発に対する支援活動	あり	人材	
	ポストの清掃とペンキ塗り	あり	ペンキ	
サンタロサデリマ	料理祭(聖人祭)	あり	テントと司会者	市当局からの大きな支援が足りず、CDT メンバーの参画も少ない。
	教会参加のとうもろこし祭	あり	司会者	
	花火大会の計画	あり	市役所の参加	
ヤンティケ	9月15日の独立祭	あり	多目的使用に 100 ドル	CORSAATUR/CAT からの法人化と支援のため情報を待っている
	教会参加による収穫祭への支援	あり	市の資金	
	2013年2月予定のイベントの準備	あり	進行中	
ユクァイキン	日曜日ごとの商い祭り	あり	スペース、ロジステック、テント	CDT は新幹部から新たな支援を受け、市長と共に活動している。
	ブルーバード観光通りの開通式	あり	建設と修復	
	聖人サンフランシスコの宗教と文化の祭	あり	音響施設と輸送	

(資料: CAT ラウニオン)

3.1.2. 活動 1-2: 東部地域におけるポテンシャルの高いエリアの分析

(1) 東部地域 4 県におけるポテンシャルの高い地域

MITUR/CORSAATUR は「E」国の観光振興のために観光ポテンシャルの高い地域を回廊(例えば、花の道、考古学の道(マヤ遺跡)、手工芸・工芸品の道、平和の道)に位置づけて分析を行い、この回廊を開発の重点地域としている。東部地域の観光資源のポテンシャルについては、下図に示す回廊 E,F および G があり、今後の観光開発の重点地域となっている。

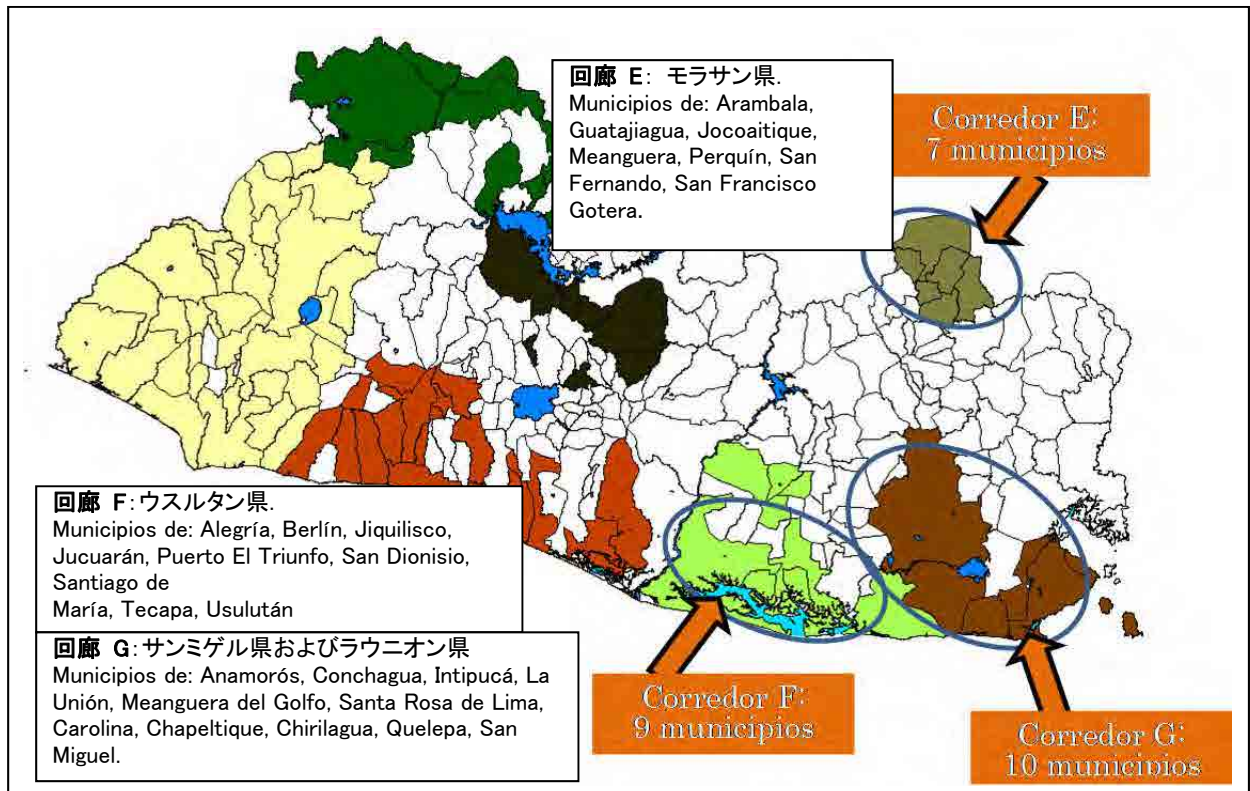


図 3.1-7 東部地域におけるポテンシャルの高いエリア

回廊 E はルータデパス、回廊 F は、ヒキリスコ湾 (Bahia de Jiquilisco) を中心とした海岸の観光ポテンシャル、回廊 G は、フォンセカ湾からサンミゲル市に繋がる観光ポテンシャルの高い地域である。今後、各市の観光開発計画においては、これらのポテンシャル地域との関連性を踏まえ MITUR/CORSATUR の観光開発の方針を確認しながら進めていくことが重要である。

(2) フォンセカ湾岸地域 13 市におけるポテンシャル

一方で、全ての市が回廊との係りを持つことは難しく、市独自の観光資源をもつことが重要になる。JICA プロジェクトでは 13 市における観光資源のポテンシャルを認識するところからスタートした。ここでの事例が他地域での観光資源ポテンシャルの高い地域を認識するときの参考になることが期待できる。

当該地域の観光資源については、「フォンセカ湾自治体連合1観光開発戦略計画」(2007 年)の調査において確認された観光資源、および第二年次において、改めて各 CDT へのヒアリングを通じて確認した観光資源がある。

海岸地域には、海岸そのものの他に島々、干潟、マングローブ、漁師まちなど「太陽とビーチ」に関する観光資源の他に、火山と丘陵地も海岸からの連続性を保っており、面的に広い範囲で観光資源が認識されている。内陸部においてはそれぞれのコミュニティに関する「農村文化」が特徴的で、内陸部の観光資源は多くない。また、ホンジュラスとの国

¹ フォンセカ湾自治体連合 (Mancomunidad del Golfo de Fonseca) は、フォンセカ湾周辺 13 市から成る連合組織。

境地域には「国境ルート」があることが挙げられる。これ以外にも、観光開発に関するコンセプトの策定を通じて提案された観光資源も各市にあり、地域には、まだ埋もれた観光資源があると推量できる。

しかしながら、これらの観光資源のポテンシャルは必ずしも地域住民にとって十分な共通の認識が持たれていない。そのため、観光開発・振興に対する地域住民の認識度が十分でなく、観光が地域の経済社会的発展に適切に活用されていないことが課題となっており、関係者（官民）にて観光開発を再認識し、取り組んでいくところが重要となっている。

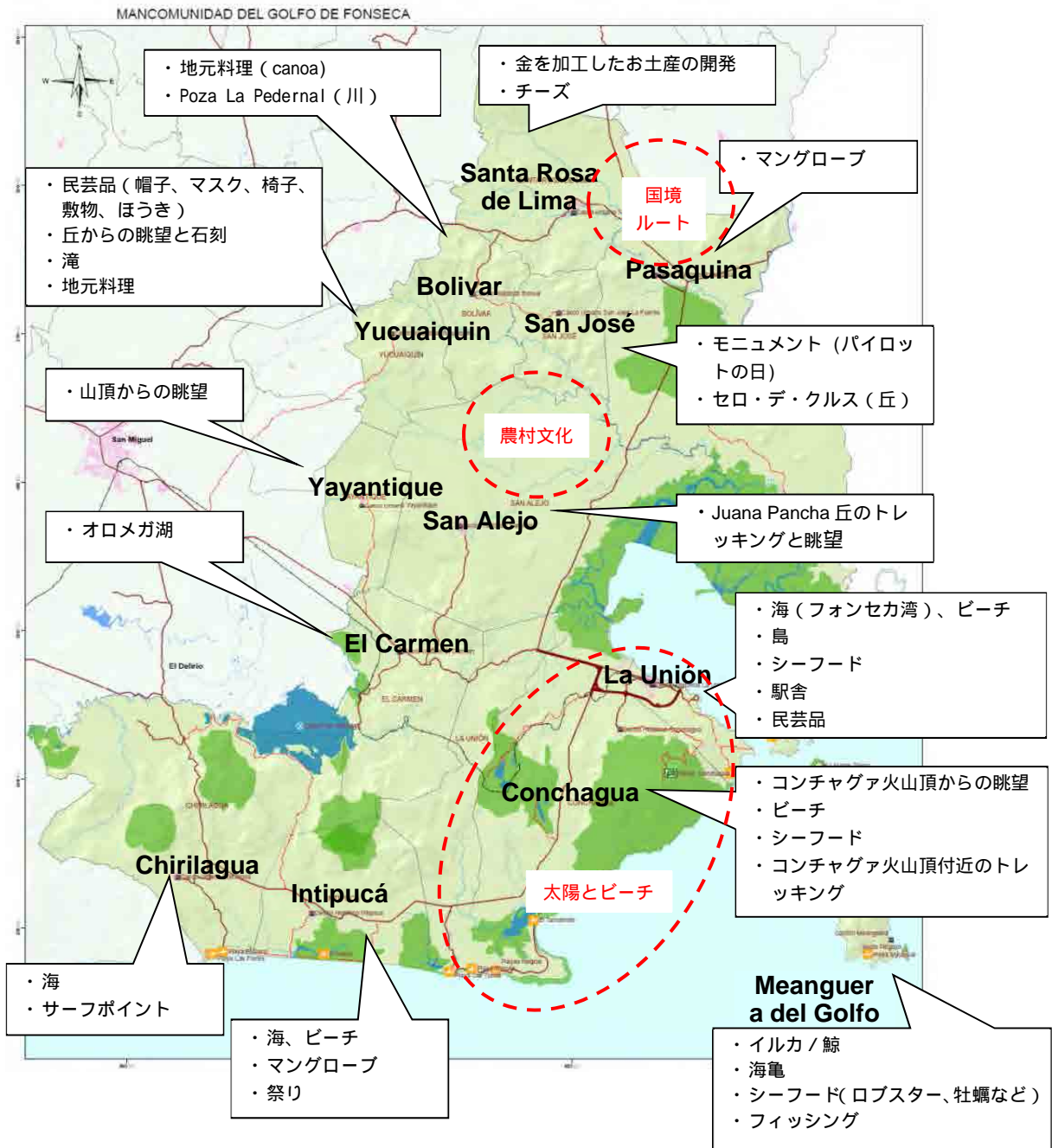


図 3.1-8 現地調査において確認された観光資源

3.1.3. 活動 1-3：東部地域における観光開発の指針案を策定する

指針案は、現地調査（参加型ワークショップ）で明らかとなった地域の課題や観光開発の方向性を「観光国家計画 2020 年」、「観光開発戦略計画フォンセカ湾連合」および「東部地域経済開発」と照合・調整を行い、原案を作成し、これをもとに MITUR/CORSATUR と協議、修正を行った。さらに 2011 年 7 月 25 日に行われた第 2 回 JCC 会議での承認を経て確定した。

承認された指針案（ガイドライン）を以下に示す。

東部地域における観光開発指針案（ガイドライン）

<p>1. 目的 「地元資源を使ったコミュニティ・ツーリズム開発により東部地域への国内外観光客を誘致する」</p> <p>2. ガイドラインの基本的枠組み（Framework）</p> <p>1) 「観光開発戦略計画フォンセカ湾連合」、「観光国家計画 2020 年」および「東部地域経済開発」を基調とする。</p> <p>2) ワークショップにおける住民の意見を尊重する。</p> <p>3) MITUR/CORSATUR（Pueblos Vivos²および CDT）の観光基本戦略と協働する。</p> <p>4) 「エ」国内の観光開発先進・先行事例を範としてフォンセカ湾連合地域において積極的に取り込む。</p> <p>3. 指針案（ガイドライン）</p> <p>1) 競争力の強化 観光客誘致には魅力ある観光商品による観光需要の創出とともに国内外の観光地との競合が必要となる。</p> <p>a. 国内競争力の育成・強化 国内先進地域を参考に特徴ある観光商品・観光ルート作成による国内競争力を育成・強化する。 国内競争力のある観光地づくり 競争力のある観光商品づくり（料理・民芸品・イベントなど） Pueblos Vivos（元気な町）との綿密な連携 国内成功・失敗事例の積極的な取り込み 国内近隣大都市からの誘客（サンサルバドル/サンミゲル） 近隣観光地（モラサン/ウスルタン）との連携 安全委員会 機関間の調整</p> <p>b. 国際競争力の育成・強化 東部地域は国内競争力の育成・強化に優先的取り組むが、あわせて海外からの観光客誘致にも取り組む。近隣諸国市場への取組みとしては、その地理的状況からホンジュラス、ニカラグア市場を優先的な対象とする。 国際競争力のある観光ルート・観光商品づくり 国際的に競争力のある魅力ある観光地づくり I. 外国人にやさしい観光地 II. 外国人に魅力ある観光地 観光地としての認知度の強化 I. 各市(CDT)としての取組み II. 地域としての取組み 国際基準のサービスの提供（宿泊施設・レストラン・住民） 官民協働による積極的な誘致活動</p>
--

² Pueblos Vivos: 「元気な町」、MITUR/CORSATUR が「エ」国内で実施している地域観光開発戦略の一つ。

- c. フォンセカ湾岸地域ブランドの確立
 観光客のリピートや滞在日数の増加には地域としての取り組みが必要となる。地域としてのイメージの定着を目指す。
 推奨周遊ルート等の観光新商品の開発
 ブランドイメージ（含、ロゴ・キャラクター）への取り組み
 協働マーケティング活動の実施
 地域 CDT の設立
- 2) 競争力を高めるための地域住民の組織化と意識の向上
 競争力の源は地域住民の観光への意識の高さであり、住民の組織化はそのための必要条件である。MITUR/CORSATUR との協働によりその強化を図る。
- a. 各市 CDT の設立と法人化
 各市全てに CDT を設立し、その法人化に取り組む。CDT の設立は Pueblos Vivos 参加の必要条件でもある。
- b. 官民連携の強化
 官民連携は競争力強化の必須条件であり、市の CDT への積極的参加を図る。併せて、公的機関による民間への観光開発指導の強化を図る。
- c. 住民の観光への参加意識の向上
 住民の観光への参加率の高さや意識の高さが観光客への Hospitality の源である。観光がもたらす効果の認知による参加意識の向上への取り組みを行う。
- 3) 観光開発と環境・文化保全との調和
- a. 観光地の環境整備（クリーンアップ）
 多くの観光客が観光地に求める重要な要件は“安全”と“清潔（衛生）”である。清潔な観光地は観光客誘致の絶対条件とも言える。観光地の環境保全に向けての住民運動の推進が必要となる。
- b. エコツーリズムの推進
 エコツーリズムは自然を活かした旅行商品の開発と共に、環境や文化の持続的保全が推進される。
- 4) 東部地域開発プログラムとの連携
- a. ラウニオン港との連携
 乗客船の誘致
 港の観光的利用
- b. MEGATEC ラウニオン校
 パイロットプロジェクトへの学生の参画
 施設の利用（料理・工芸など）
 講師の派遣要請

3.2. 成果 2:パイロットプロジェクト地域におけるパイロットプロジェクト実施を通じて地域独自の資源を活用した観光開発に係る知識が向上する

3.2.1. 活動 2-1：観光委員会との協議のもと CORSATUR の調整によりパイロットプロジェクトの選定基準を作成する

以下のパイロットプロジェクトの選定基準は、参加型ワークショップにおける CDT の意見、ならびに CORSATUR との意見調整により定められ、2011 年 3 月 8 日に行われたプロジェクト実施委員会で承認された。

1. RELEVANCIA/RELEVANCE（関連性）：本プロジェクトとの整合性が高いこと

- 2. IMPACTO/IMPACT (効果) : モデル性があり、成果が見えること
- 3. MADUREZ/MATURITY (成熟度) : 事業主体が明確で、実現性の高いこと

多くのパイロットプロジェクト候補案から最終的に 5 案件を確定するプロセスにおいて、上記の選定基準のほかにパイロットプロジェクト選定のための観光開発の戦略についての検討が必要となった。これについては次項に記述する。

3.2.2. 活動 2-2: パイロットプロジェクトを選定し、実施する。

a. パイロットプロジェクトの選定

この選定基準にてパイロットプロジェクトのロングリスト(23 件)から候補案を絞り、1 次選定した(12 案件)。最終的に絞り込まれた 7 件の候補案から更に 5 件のパイロットプロジェクトを確定する段階において、関係者に対してより詳しく選定根拠を説明できる材料として、上記の選定基準に加えて、当該地域の観光開発の戦略を検討した。

パイロットプロジェクトの選定フロー

パイロットプロジェクトの選定経過は以下のとおりである。

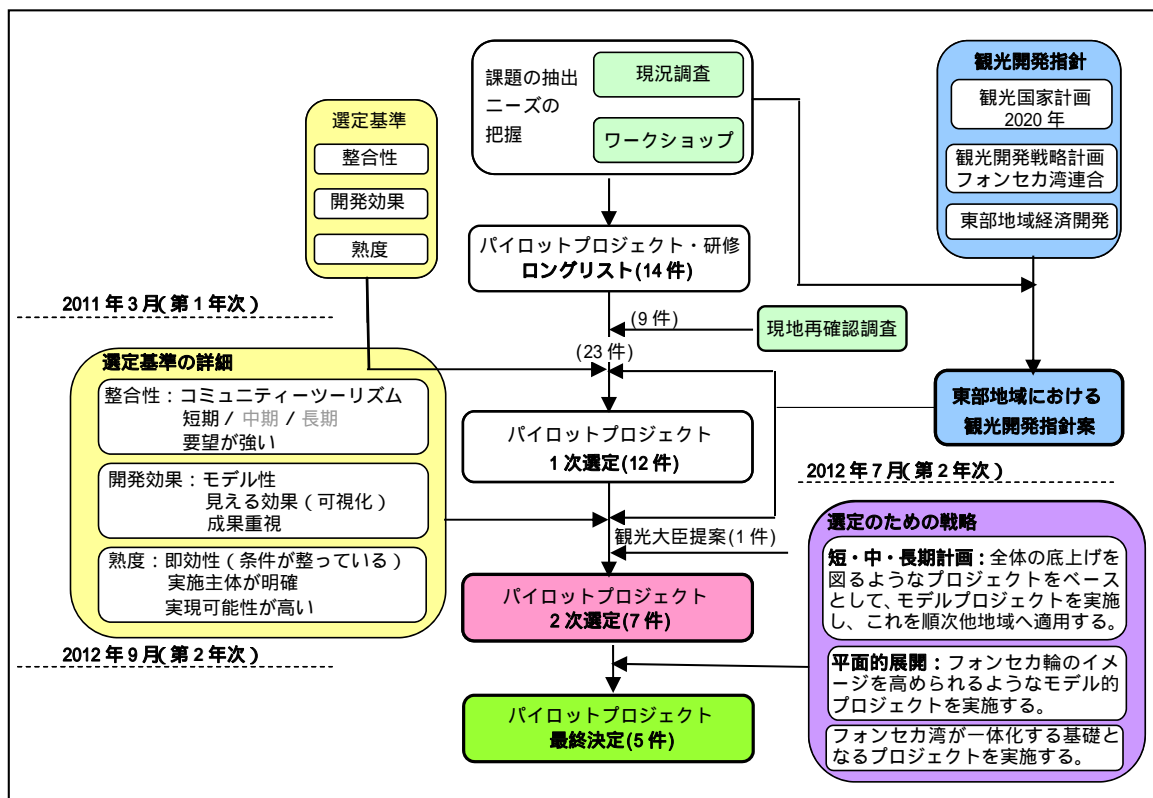


図 3.2-1 パイロットプロジェクトの選定フロー

パイロットプロジェクトおよび研修のロングリストの作成

第一年次に行われた「現況調査」と「参加型ワークショップ」の結果として、各地域の課題やニーズが把握され、2011年3月にこれらに基づいて、パイロットプロジェクトおよび研修のロングリストが作成された(「表 3.2-2 パイロットプロジェクト選定

のプロセス」に示す暫定案)。当初は様々な可能性を残しておくために、研修事業もパイロットプロジェクトの一つと捉え、パイロットプロジェクト案を検討していたことから、件数が多かった(14件)。

現地再確認調査による追加リスト

第二年次において、各 CDT を訪問して現況調査票を配布するとともに、パイロットプロジェクトおよび研修の希望案件を募ると同時に、CDT の推薦する有望な観光資源の詳細を調査し、第一年次のロングリストに追加した(合計 23 件)。

パイロットプロジェクトの 1 次選定

追加されたロングリストについて、パイロットプロジェクトの選定基準(本プロジェクトとの関連性、効果、成熟度)および東部地域の観光開発のガイドラインをベースにして、研修で対応するもの、内容の似ている案件は一つに集約する、現時点では条件が不確定とするもの等に仕分けし、パイロットプロジェクトとして、実現性の難度や対象分野のバランスを考慮しながら、第 1 次選定対象とする 12 案件を決めた。カテゴリーは情報(地図、標識)、エコツーリズム(マングローブ)、文化(博物館、モニュメント)、料理、民芸品(キーホルダー、マスク、ニンファ、土器)、スポーツ(ビーチサッカー、ソフト)、観光教育など多岐にわたっており、選択の幅を広げたものであった。2011 年 7 月に実施された第 2 回 JCC 会議において、これら 12 案件のパイロットプロジェクトに関する説明がなされた。なお、この席では観光大臣より「フォンセカ湾島巡りツアー」の提案があった。

この会議で出た意見も考慮しながら、民芸品のように研修で対応できるものは研修で対応することとし、またスポーツのように優先度の低いものは不採用とし、12 件から 7 件に絞った。残った 7 件には、第一年次に実施したワークショップで要望の多かった情報(地図、標識)、エコツーリズム、観光教育、料理が含まれていた。ここに観光大臣推薦の案件と CORSATUR が希望する情報センターが加わった形となった。

パイロットプロジェクト選定のための観光開発戦略の検討

最終的に 5 件に絞るということは、逆に言えば 2 件を落とすということであり、それぞれに案件の支持者がいることから、慎重な対応が必要になる。そこで 7 件のパイロットプロジェクト候補案から 5 件を確定するための説明資料として当該地域の観光開発の戦略を検討することとした。これは最終決断をする MITUR/CORSATUR に対しても一つの判断基準となるものを意図した。

観光開発戦略を検討するうえでの「前提条件」と「パイロットプロジェクトの選定における考慮事項」について、これまでの当該地域の観光開発に関する検討結果を踏まえて以下のように設定した。

前提条件：

- ・ 地域全体として観光資源が乏しい中でフォンセカ湾沿岸地域(ビーチや島々)が比較優位性を示している(フォンセカ湾の知名度が高い)。
- ・ 各市では、観光開発ポテンシャルに濃淡の差はあるものの、観光開発に対する機

運が高まっている。

パイロットプロジェクトの選定における考慮事項：

- ・ 地域全体の観光開発に対する機運を高めていく(観光地域としての底上げを図る)。
- ・ 比較優位性のあるフォンセカ湾岸地域で具体的なプロジェクトを示し、プロジェクトの実施方法を確立する。
- ・ 各地では観光開発につながる小規模のプロジェクトを実施し、将来のフォンセカ湾岸地域周辺につながる下地をつくる。

開発の順序としては、基礎的なものからより高度なものへ、短期的に効果の得るものからより長期的な取り組みを要するものへと進む。このような観点から当該地域の観光開発戦略を以下に示すように3つの戦略にまとめた。

戦略1：

時間軸で見ると、まず、開発の遅れている観光地としての基礎的な条件整備を長期的に実施していくことが必要である。その一方で、短期的にはモデルとなるプロジェクトを実施し、そのモデルを拡大していく、という手法が必要になる。

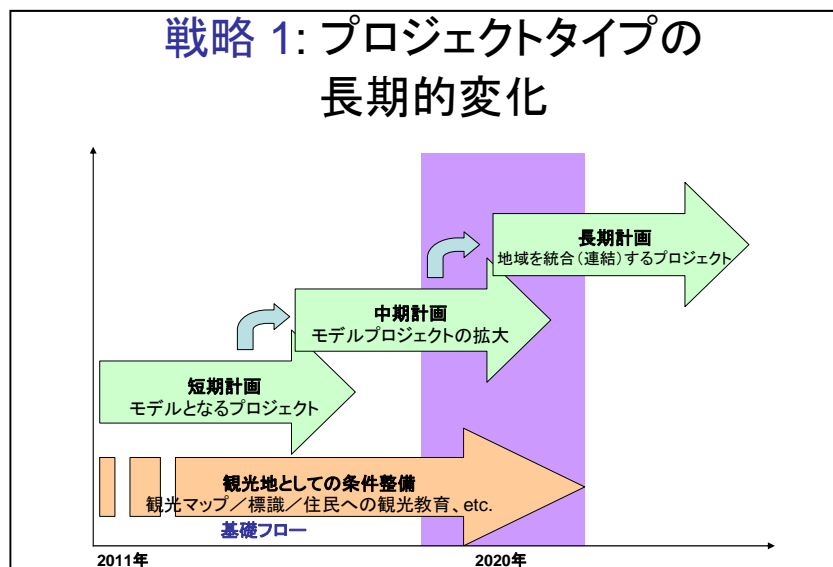
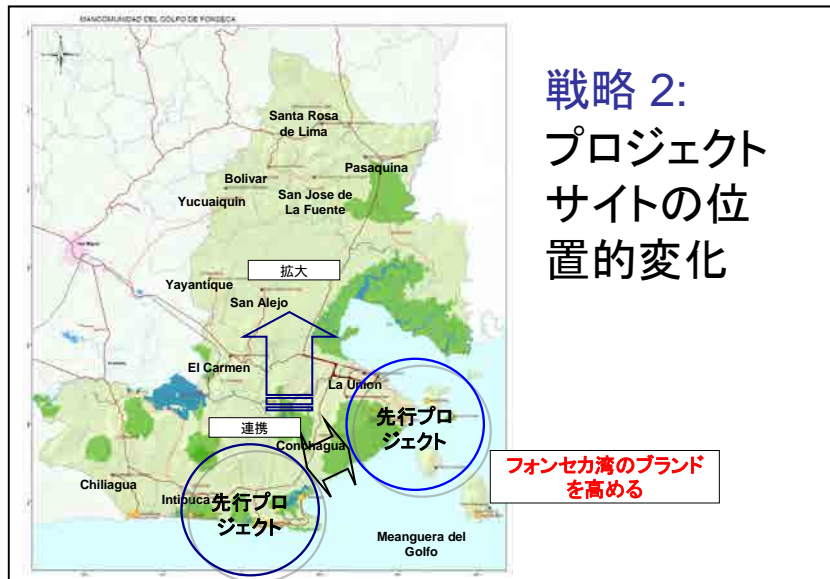


図 3.2-2 プロジェクトタイプの長期的変化

戦略2：

平面的に見ると、まず、比較的観光関連施設の整っている、プロジェクトを計画しやすい地域でモデル的にプロジェクトを先行させ、これを隣接地域に拡大していくという方法である。当該地域にこの考えを当てはめると、フォンセカ湾岸地域がこれに該当する。フォンセカ湾は知名度も高いことから、海岸地域でモデルとなるプロジェクトが実施できれば効果的である。



戦略 2:
プロジェクト
サイトの位
置的变化

図 3.2-3 プロジェクトサイトの位置的变化

戦略 3 :

フォンセカ湾岸地域の 13 市が一つの地域としてまとまっていくためには、これらの市の連帯感を意識できるようなプロジェクトが効果的である。



戦略 3:
フォンセカ湾
を一体化する
基礎となるプ
ロジェクト
(お互いの違いを知り、地域
としても連携できる)

図 3.2-4 フォンセカ湾を一体化する基礎となるプロジェクト

パイロットプロジェクトの決定

前項の「パイロットプロジェクトの選定フロー」で述べたように、第 1 次選定の 12 プロジェクトと第 2 回 JCC 会議で提案されたプロジェクトの合計 13 プロジェクトの中から、MITUR/CORSATUR と協議しながら観光開発戦略を考慮のうえ最終的なパイロットプロジェクトの候補として、下表に示す 7 つのプロジェクトを選定した。

表 3.2-1 最終的なパイロットプロジェクトとその採否

パイロットプロジェクト名	採択の結果
戦略1：観光地域の基礎条件を改善するためのプロジェクト	
》観光標識（対象：ラウニオン、コンチャグア、インティブカ）	採択
》観光地図（対象：サンタロサデリマ、ラウニオン、コンチャグア）	採択
》ラウニオン駅舎情報センター	不採択
》観光環境教育（対象：バサキナ）	採択
戦略2：フォンセカ湾のブランドを高めるモデルプロジェクト	
》マングローブツアー（対象：インティブカ）	採択
》フォンセカ湾島巡りツアー（対象：ラウニオン、メアングーラデルゴルフォ、コンチャグア、サンアレホ）	採択
戦略3：フォンセカ湾を一体化するプロジェクト	
》グルメコンテスト	不採択

これらの中から、MITUR/CORSATUR 内部で協議をし、上表に示す 5 つのパイロットプロジェクトが決定された。不採択となった 2 件の理由は以下のとおりであり、いずれも観光大臣の意向が強く反映されている。

「ラウニオン駅舎情報センター」は、ここを改築して CAT ラウニオン事務所を移設し、13 市の観光案内所を併設し、常設の郷土料理・民芸品売り場を設けるコンポーネントから成り、これは既に CORSATUR では検討しており、金額的にも工期的にもパイロットプロジェクトではやや対応が難しいとの判断があった。

また、観光大臣は、第 2 回 JCC 会議の席で、今後観光産業の裾野を広げていくためには観光教育は重要であると発言しており、残った「グルメコンテスト」と比較した場合は、教育案件を優先したものと推察できる。「グルメコンテスト」は多くの市から要望があり、13 市の一体化を図る上では最適の案件ではあったが、他のパイロットプロジェクトに比べて優先度が低いと位置づけられた。

パイロットプロジェクトの位置図

下図は、パイロットプロジェクトの位置図を示したものである。次表は、パイロットプロジェクト決定までの一連の経緯を整理したものである。

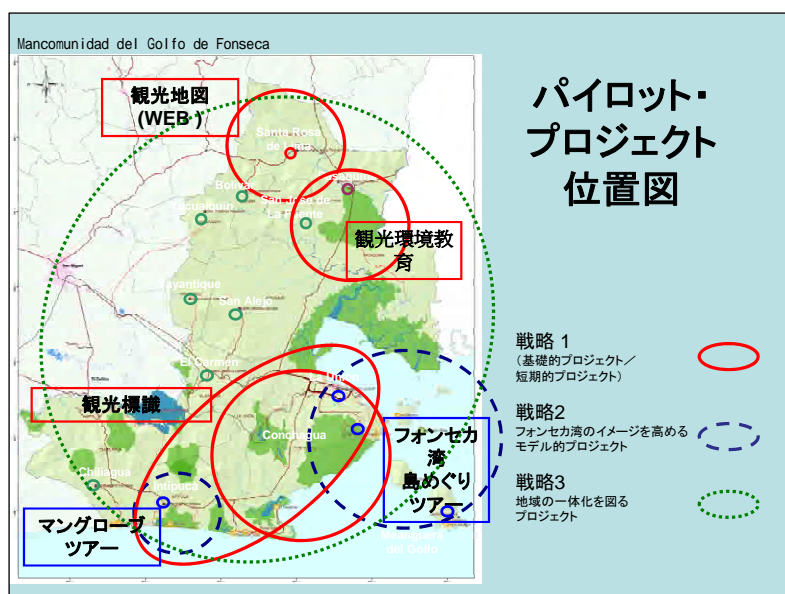


図 3.2-5 パイロットプロジェクトの位置

表 3.2-2 パイロットプロジェクト選定のプロセス

	ロングリスト		第 1 次選定	第 2 次選定
	最初の調査で検討されたりリスト	再確認調査で追加		
1	コミュニティマップの作成			採 択
2	観光標識の整備			採 択
	グルメセミナーとコンテスト			
	工芸品セミナーとコンテスト		研修対応	
	サンサルバドルでのフォンセカ湾岸地域観光セミナーの開催		3 年次検討	
3	フォンセカ湾マングローブクルーズ		15 に集約	
	観光委員会の内規作りの支援		別途対応	
	観光委員会パンフの作成		3 年次検討	
	着地型旅行会社(DMC)の育成		対象企業なし	
	観光意識向上キャンペーン		23 に集約	
	クリーンアップ・キャンペーン		23 に集約	
	観光技術に関する研修		研修で対応	
	地域観光委員会の立ち上げ		別途対応	
	NGO への観光技術移転		NGO 消滅	
	マングローブツアー			採 択
	キーホルダー / 石の飾り物			研修で検討
	マスク・ペタテ			研修で検討
	駅の博物館			
	モニュメント			優先度低い
	ビーチサッカー / ソフト			優先度低い
	ニンファ			研修で検討
	土器			研修で検討
4	親子観光環境教育			採 択
5	フォンセカ湾島巡りツアー		JCC 会議で提案	採 択

選定されたパイロットプロジェクトの位置付け

様々なプロセスを経て選定された 5 件のパイロットプロジェクトの性格を見ると以下のようなになる。

- a. 観光を推進するうえでは極めて基礎的なもの
 - 観光標識整備
- b. 地域の観光資源を商品化するもの
 - マングローブツアー
 - フォンセカ湾島巡りツアー
- c. 観光を推進するうえでは極めて基礎的なものではあるが、地域の観光資源を広報するもの
 - 観光地図(WEB)

地域的に、あるいは対象市が偏っているとの指摘はあるが、当該地域で観光を推進していく上では結果的にバランスのとれたパイロットプロジェクトが選定されたと言える。

当プロジェクトのプロジェクト目標「官民連携による持続可能な観光開発の体制を構築する」を達成するためには、プロジェクトを推進していくためのシステム構築と、具体的な観光資源の開発が並行的に進むことが必要不可欠であり、これらが相乗的

な効果を発揮していくことによって、プロジェクト目標が達成されるものと考えられる。

次図は、5件のパイロットプロジェクトとプロジェクト目標の関係を概念的に示したものである。

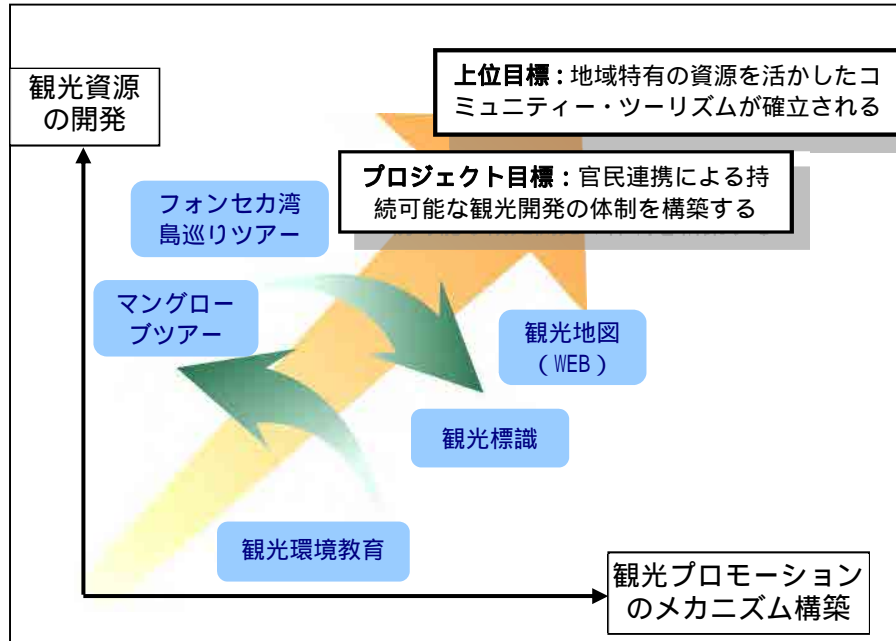


図 3.2-6 パイロットプロジェクトとプロジェクト目標の関係

(3) パイロットプロジェクトの実施計画

5件のパイロットプロジェクトの確定後、各プロジェクトの担当者を決め、プロジェクトの仕組み、関係者のリストアップ、予算の検討などを行い、その後各プロジェクトの PDM、PO を作成し、2011年11月から2012年2月にかけて関係する CDT においてキックオフミーティングが行われ、プロジェクトが開始された。

以下に、各パイロットプロジェクトの仕組み・計画を説明する。

I：観光地図（WEB）

（対象市：ラウニオン、コンチャグア、サンタロサデリマ）

1. 対象地域における観光地図作成プロジェクトの背景

観光地の正確な情報が整備されること、特に、観光資源、レストラン、ホテル、ショッピングなど観光客が必要とする基本データが掲載された地図が整備されると、a) 観光客の満足度向上、b) 受け入れ住民の観光意識の向上、という二つの側面でプラス効果のあることが、これまでのさまざまな活動でも明らかにされている。

- a) 観光地までのアクセス方法やアクティビティが不明確だと、観光客は不安を感じ、高い満足度が得られない。逆に、情報が得られることで、安心感や満足感が得られ、滞在費、交通費を含む支出行動が刺激され、再び訪れたいという気持ちが高まる。現在、観光情報不足により、高い満足感を得られない状況にあるため、その改善の余地は大きい。
- b) 観光客を受け入れる住民側は、地域にある観光・文化・環境資源を再認識することができ、自らもそれらを楽しみ、活用し、保護し、普及する気持ちが高まる。

第一年次の活動において、JICA プロジェクトチームが実施した「目的分析」のワークショップにおいて、MITUR/CORSATUR のカウンターパートおよび CDT メンバーは、地域の観光地図を整備することが観光開発を推進する上でいかに重要であるかを認識した。

比較的観光資源に恵まれ、かつ、CDT の活動も活発である 3 市（ラウニオン、コンチャグア、サンタロサデリマ）において、観光地図作成プロジェクトを行う。

2. パイロットプロジェクトの目的と基本方針

パイロットプロジェクトの目的は、

「対象 CDT は観光地図情報システムの運用を継続的にできる」

ことである。

観光地図は、同地を訪れた観光客が、より長期間滞在し、より多くの場所を訪れ、より多くの体験をし、当地での支出を促す上で効果的なツールとして機能することとなる。また、受け入れ住民側は、地元の主要資源の価値を再認識するとともに、帰属意識や地元住民としての誇りを高めることができる。

一度作成された地図を維持、更新していくことは CDT にとって不可欠であることから、観光地図作成のための持続可能なシステムを構築する。

3. パイロットプロジェクトの上位目標

- a) 観光産業に活用される地域資源の価値が再認識され、観光地図が地元住民によって活用される。地域住民自らが観光地を訪れ、観光地の最も重要な観光スポット、それらの価値の再認識、さらには観光地の繁栄を目指した共同作業の必要性を再認識

する。

- b) 観光スポットに関する情報を観光地図や WEB サイトを通じて容易に引き出すことができる。また、観光客数、満足度、平均支出額、滞在期間等が数値に反映される。

4. 目標達成のための手法

上記の目標を達成するための情報収集、観光地図のデザインや地図作成作業は、ワークショップ、ミーティング、聞き取り調査等を通じて行なわれる。これらワークショップ等で、マーケットのみならず観光客を受け入れる住民側のニーズを把握し、観光振興に適した成果品が作り出されると同時に、地域のキャパシティビルディングも達成できる。

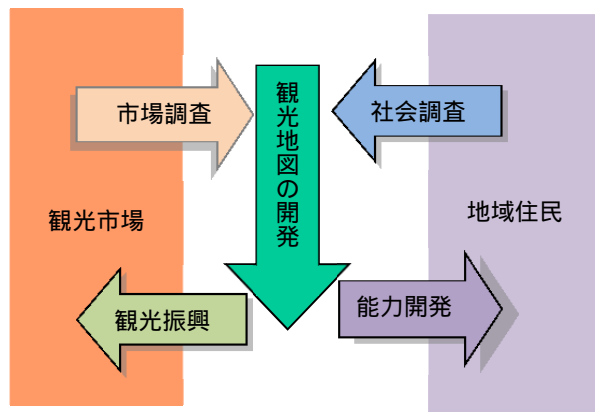


図 I-1 マーケティングおよび参加型アプローチの概念図

表 I-1 マーケティングと参加型アプローチのスキームを満たす観光地図作成プロセスにおけるキーポイント

観光市場		地域住民 (社会調査、地域住民のキャパシティビルディング)	
市場調査	観光客の滞在期間延長、支出行動に貢献するような観光地図を提供できるよう、「エ」国を訪れる観光客の特徴とニーズを分析する。	社会調査	観光スポットの重要性や意義、地域の強みに関する受け入れ住民の意識調査をおこない、地域に潜在的に存在する資源の視覚化をおこなう。
	地域全体のなかで競争力を強化すべく、差別化できる特徴を把握する。		地域への帰属意識やアイデンティティの強化に結びつく要素を把握し、その価値を高めるための手法（観光開発や環境保護）を見いだす。
観光振興	観光客が利用できる観光基本情報や主要サービスの提供場所を特定し、（利用してみたいという）モチベーションが高められるように魅力ある形で観光地図に反映させる。	能力開発	観光客が利用できる観光基本情報や主要サービスをプロモーションするための手法を見いだす。
	さまざまなタイミングで、各市場で観光地図を配布する方法を検討する。		地図システムの作成を通じて、CDT のリーダーシップや代表性の強化を目指したコンセンサス形成のための手法を見いだす。

5. 関係者の役割分担

プロジェクトの実施には、地域 CDT および CDT のメンバー、CONAMYPE のモデレーター、観光地図作成業者、学生などのアクターが直接参加する。それぞれの役割を以下の表に示す。

表 1-2 アクターの役割

アクター	役割
地域 CDT	プロジェクト実施責任者であり、増刷できるメカニズムをつくり、長期的にプロジェクトを維持する。
CDT 市	観光地の情報提供とロゴの選定。 経験の少ない CDT への協力。
CORSATUR	CORSATUR の成功事例となるよう、プロジェクトの進捗状況の把握にあたる。情報および基本方針を提供する。CORSATUR の WEB サイトに観光地図のリンクを貼る。
CAT ラウニオン	プロジェクト実施にあたり CDT を支援する。
地域住民	プロジェクトへの協力。
CONAMYPE のモデレーター	地図化に必要な手法を提供するワークショップを実施し、地図情報を作成する。
学生	情報収集を支援する。
観光地図業者	参加者の指示とおりツールデザインを行う。CDT と密接に連絡をとりあい、マーケティングに関する専門的なアドバイスを提供する。
JICA プロジェクトチーム	他のアクターと協力して CDT の支援にあたる。CDT および地域住民をプロジェクトに参加させるためのワークショップをアレンジし、資金援助を行う。

6. プロジェクト実施工程

以下にプロジェクト実施工程を示す。

表 1-3 プロジェクトの実施スケジュール

活動	2011			2012											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A. マッピングおよび情報収集の手法の決定															
観光地図に入れる要素を抽出し、その価値評価を行う。															
CDT からマッピング・システムについて企業に通知する。															
観光地図のアプリケーションおよび印刷方法を検討する。															
B. 地域の既存ネットワークを活用した観光地図の配布方法の決定															
観光地図を配布できる地域のネットワークを抽出、選定する。															
選定した配布協力者を対象としたワークショップを開催する。															
CDT による配布協力者のフォローアップとフィードバック。															
C. CDT による観光地図の更新方法とモニタリング方法の検討。															
観光地図の使用と更新に関する計画とマニュアルを作成する。															
CDT によるマッピング・システムのメンテナンスと更新を行う															
CAT によるフォローアップとフィードバックを行う															

(マッピングおよび情報収集の手法の決定)

- ▶ 観光地図に入れる要素の抽出と、価値評価のためのワークショップを行う。ワークショップにおいて CDT および各セクターの参加者が観光地図作成対象となる観光サイトや要素を抽出し、その後、情報の確認を共同で行う。

- CDT からマッピング・システムについて企業へ通知する。CAT ラウニオンおよび地図作成業者は、地図作成業務に関わる各関係者と定期的に連絡をとりあう。
- 観光地図のアプリケーションおよび印刷方法を検討する。CDT メンバーが地図の更新と印刷ができるようアプリケーションを開発する。

(地域の既存ネットワークを活用した観光地図の配布方法の決定)

- 観光地図を配布できる地元のネットワークを抽出・選定する。目的によって配布協力者や、観光案内所の立地を特定する。
- 選定した配布協力者を対象としたワークショップを行う。作成された観光地図を活用して観光客に情報を提供する方法について、配布協力者にトレーニングを行う。
- CDT による配布協力者のフォローアップとフィードバックを行う。情報を提供した観光客数やその特徴を CAT ラウニオンに報告する際のフォーマットを配布協力者に渡す。

(CDT による観光地図の更新方法とモニタリング方法の検討)

- マッピング・システムの使用方法および更新に関する計画とマニュアルを作成する。この計画とマニュアルは CDT メンバーが計画を策定し、CAT ラウニオンへの報告方法を明確に伝達するため、ステークホルダーにも提供する。
- CDT によるマッピング・システムのメンテナンスと更新を行う。CDT が情報を適宜更新できるよう、アプリケーションの管理者を任命する。
- CAT ラウニオンによるフォローアップとフィードバックを行う。プロジェクトの最終評価を実施する際、他地域でも応用できるよう実施方法を体系化する。

7. プロジェクトの実施に要する費用

本パイロットプロジェクトの費用（実績）は以下のとおりである。

表 1-4 観光地図パイロットプロジェクトの費用（実績）

支出項目	第二年次 (US\$)	第三年次 (US\$)	合計 (US\$)	備考
地図作成・印刷	9,500	-	9,500	3市××500印部
ワークショップ	3,500	5,200	8,700	ワークショップ開催に必要な会場とファシリテータ費
WEBサイト作成	3,600	-	3,600	情報システム、HPデザイン
マニュアル作成	-	2,300	2,300	デザイン、印刷100部
合計	16,600	7,500	24,100	

8. プロジェクト実施の留意事項

地元関係者を巻き込んだ参加型手法で地図を作成することにより、地元住民は地域の特徴を理解し、象徴となるプロジェクトの抽出が可能になるよう留意する。また、観光産業でより効果的に活用するために必要な技術的アドバイスを提供する事も重要である。CDT は、これら一連のプロセスへの地域住民の参加を呼びかけ、必要な調整業務を行うことで、そのポジションを高め、観光地の主要アクターへの組織力や影響力、調整力が強化されるよう留意する。

9. モニタリングの留意事項

CDT は、毎月観光地図のモニタリングを実施し、CAT ラウニオンに結果を報告する。

地図に取り入れる観光資源・観光スポット、関係者のモニタリングを行うことで、CDT は地域住民の成長や観光産業への関わりを強めていく状況が確認され、モチベーションが高まるように留意する。

地域 CDT は、観光地図の作成プロジェクトに合同で作業する必要があるが、これにより彼らの管理能力や競争力が強化される点に留意する。また、CAT ラウニオンとの関係、さらには CAT ラウニオンを通じて CORSATUR とのコミュニケーション能力も向上されるように留意する。

10. PDM

本プロジェクトの PDM を以下に示す。

PDM: プロジェクト名: 観光地図 (Ver.1: 2011 年 11 月 3 日)
 ターゲット市: ラウニオン、サンタロサデリマ、コンチャグア
 / ターゲットグループ: CDT と地図配布場所 (ホテル、レストラン等)

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標 ・ 地元の観光資源が地元コミュニティに認知されると共にプロモーションされる ・ 観光客が観光地図やウェブサイトを通じて対象地域の観光資源を容易に見つけることができる	1.観光地図情報システムに掲載される観光情報が増加する 2.観光地図情報システムに掲載された観光地 (レストランや店を含む) の客が増える	1. 最新の地図 (プロジェクト終了時との比較において) 2. レストランや店による記録	・ 経済状況が極端に悪化しない ・ 大規模な自然災害がない
プロジェクト目的 ・ 対象 CDT は観光地図情報システムの運用を継続的にできる	1.CDT が観光地図情報システムを維持管理している 2.CAT ラウニオンは観光地図情報システムの CDT による運用を監督している	1. 観光地図情報システム (ウェブサイト含む) と配布場所の状況確認 2. CAT ラウニオンによる記録	・ 地元コミュニティが CDT に継続的に協力する ・ 訓練された CAT ラウニオンのスタッフが継続的に CDT を支援する
成果 1. 観光地図情報システムが開発される 2. 地元ネットワークによる観光地図配布システムが構築される 3. CDT による観光地図情報システムの運営維持管理体制が確立される	1-1.CORSATUR ウェブサイトを利用した観光地図情報システムが開発される 1-2.各市で 2000 部 (初版) の観光地図が印刷される 2-1.各市の 12 箇所観光地図が配布される 3-1.少なくとも月例で CAT ラウニオンによる観光地図情報の更新が行われる 3-2.CAT ラウニオンが観光地図で更新された新しいビジネスや店をモニターしている	1-1. CORSATUR ウェブサイト 1-2. 印刷された観光地図 2-1. 配布場所リストと印刷された観光地図 3-1. アップデートされた観光地図 3-2. CAT ラウニオンによるモニタリング記録	・ 2012 年の地方選挙により CDT メンバーの構成が活動に支障が出るほど変わらない。 ・ CORSATUR の政策が大きく変わらない
活動 1-1. 観光地図に掲載する地元観光資源を選定する 1-2. CDT が関係者と観光地図情報システムについて議論する 1-3. 観光地図情報システム (アプリケーション) を開発し、観光地図 (観光情報) を印刷する 2-1. 配布場所を選定する	投 入		・ 観光地図情報システムの開発に深刻な遅れがない。 ・ 地元コミュニティが進んで CDT に協力する
	「工」国側 <人材> ・ CAT ラウニオン Sandra Natzumin ・ MITUR/CORSATUR 地図担当者, CDT 等	日本側 <人材> ・ JICA 専門家 ・ 地図作成の専門家	前提条件 CDT にパイロットプ

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
2-2. 選定された配布場所とワークショップを行う 2-3. CDTは配布場所をモニターするとともに、配布場所からのフィードバックを得る 3-1. CTDに対してワークショップを行い、運営維持管理マニュアルの説明と運営アクションプランの作成を行う 3-2. CDTが観光地図情報システムの運用とアップデートを行う 3-3. CAT ラウニオンが観光地図情報システムとCDTの活動の監督を行う	< 資機材 > - 配布場所での PC とプリンター - < 施設 > - CAT ラウニオン事務所 - 観光地図配布場所	< 資機材 > - 地図 - アプリケーションウェブ < 費用 > - 観光地図情報システム開発費、 - ワorkshop費用、 - 観光地図印刷費（初版）	プロジェクトへの参画意識がある

II：観光標識整備

（対象市：ラウニオン、コンチャグア、インティプカ）

1. 対象地域における観光標識整備の背景

第一年次に実施した「ポテンシャルの高いエリアの分析」によると、ラウニオン、コンチャグアおよびインティプカにおいては、本件対象地域の13市の中では海岸を有し、比較的魅力ある観光資源は存在するものの、観光資源の知名度は低い。その要因の一つとして、一部で観光標識（観光客に優しい施設）の整備が遅れていることが指摘されている。

2011年、CORSATURが本件対象地域内に新たに38個の観光標識を設置したが、対象地域のCDTやCATラウニオンとのコミュニケーション不足もあり、未だ必要な場所における観光標識整備が遅れている。

一方、東部地域ではCORSATUR、公共事業省（MOP）、環境NGO（CODECA）のプロジェクトなどで設置された標識は系統的ではなく、また、既存標識の一部は老朽化が激しく、落書きや破損などにより見栄えが良くないことから、市や地域のイメージを悪化させている。

以上のような現状に鑑み、CORSATUR、CATラウニオンおよびCDTが協働して、対象地域の必要な場所に観光標識を整備し、また、設置された観光標識や既存の観光標識の維持管理を行うことで観光地へのアクセスが改善され、観光資源の知名度が上がり、さらには観光客が増えていくことが期待される。

2. パイロットプロジェクトの目的および基本方針

以下の目的で、観光標識整備のパイロットプロジェクトを実施する。

「関係者がパイロットプロジェクトの実施を通じて観光標識の整備に関わるノウハウと教訓を得る」

今まで実施してきたCORSATURにおける東部地域の観光標識整備は、その地域関係者とのコミュニケーション不足や地元観光資源の認識不足など、必ずしも適所に整備されていない状況であったが、本件を通じて地元CDTの意見を汲み取り、CORSATUR、CATラウニオンおよびCDTのコミュニケーションを密にすることで、適所に効果的で魅力的な

観光標識が整備され、観光地へのアクセスが改善されることが期待される。

また、CORSATUR と CAT ラウニオンの指導の下、CDT の手で設置された観光標識の維持管理体制を構築することで、維持管理計画の実践を通じて、地域のイメージが向上され、観光客に対するホスピタリティを地域全体で高めていくことが期待される。

最後に、関係者の参加を得た評価結果から観光標識に関わる教訓が抽出され、観光標識の整備を通じて関係者の能力強化を図るものとする。

3. パイロットプロジェクトの上位目標

本パイロットプロジェクトにて整備された観光標識によって、観光地へのアクセスが改善され、観光客が増えることが期待される。また、設置された観光標識については、地元の CDT が中心となって維持管理が行われ、「市民の観光に関する意識が高まり」、コミュニティのホスピタリティ発揚により、将来、より多くの観光客が訪問する環境ができる。従って、当該プロジェクトと並行的に観光資源開発・宿泊施設などの整備が行われれば、徐々に観光客が増え、地域の観光産業が栄えていくものと期待できる。

4. 目標達成のための手法

(地域の観光資源の認識)

第一年次で実施した参加型ワークショップ結果のレビューを行い、各市の持つ観光資源・観光施設を再確認するため、CAT ラウニオンおよび CDT の間で打合せを実施し、その結果を CORSATUR と情報共有する。打合せでは、関係者がコミュニケーションを密にしながら、観光資源・観光施設に対するお互いの認識を確認していくこととする。

(観光標識で案内する観光資源・観光施設の選定)

地域の観光資源・観光施設を認識した後、各市において CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT の間で観光資源・観光施設を整理し、観光標識整備の候補地を選定していく。既存観光標識の整備状況の確認を行い、整備不足かつ地元 CDT の意見を汲み取り、CORSATUR や JICA プロジェクトチームの知見(国内外の事例)を活用し、また、他のパイロットプロジェクトとの連携の可能性も検討した上で、観光標識で案内する観光資源・観光施設を選定することとする。

(新たな観光標識のデザイン)

観光標識で案内する観光資源・観光施設が選定された後、具体的な設置箇所・数量を計画し、同時にデザインの検討を行う。また、設置される土地の所有権および設置許可の確認を CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT が、関係機関(市役所、環境省など)に問い合わせ必要な手続きを行っていく。

観光標識のデザインについては、CORSATUR が持つ既存のマニュアルを参照しながら、CDT の意見も踏まえ、国内外の事例も参考とし、より効果的で地域の風土に調和されたデザインの作成を目指す。

（観光標識の設置）

観光標識の設置に関しては、標識のデザイン、材料、加工費は JICA プロジェクトチームが資金面を準備し、用意された標識を CDT が設置することを検討する。CDT の手で自らが汗を流し、設置工事に携わることにより観光標識を大切にすることを意識が高まり、それが良好な維持管理につながることも目的の一つである。

（観光標識の維持管理）

CORSATUR、MOP、NGO などによって設置された標識の一部は老朽化が激しく、落書きや破損などにより見栄えが良くないことから、市や地域のイメージを悪化させている。市や地域のイメージ向上は観光客の集客と直結していることから、本件では、観光標識を設置した後に、CDT が地元コミュニティを巻き込んだ維持管理体制を構築することを検討する。具体的には、CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT が設置された観光標識ならびに既存の標識の維持管理項目を整理し、CAT ラウニオンおよび CDT が維持管理行動計画をつくり、それを実践することとする。

（プロジェクトの記録）

本パイロットプロジェクト対象市以外の CDT へプロジェクトを紹介できるように記録を残しておく。

（プロジェクトの総括）

本プロジェクトを総括し、プロジェクトの実施手法を構築し、他の市に対しても紹介できるようにする。

5. 関係者の役割分担

本プロジェクトに関与するアクターとその役割は以下のとおりである。

表 11-1 アクターの役割

アクター	役割分担
CORSATUR	本プロジェクトを CORSATUR の実績とするために、常に全体の状況を把握する。
CAT ラウニオン	CORSATUR と連携し CDT を支援する。
CDT	プロジェクトの実施者
市	CDT と協働する
コミュニティ	CDT に協力する。
JICA プロジェクトチーム	関係者と協調しながら、CORSATUR、CAT ラウニオン、CDT を支援する。

6. プロジェクトの実施スケジュール

本プロジェクトのスケジュールは以下のとおり。

表 11-2 プロジェクトの実施スケジュール

	2011		2012											
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1. 観光資源の認識	■													
2. 観光資源の選定		■												
3. 観光標識のデザイン			■	■										
4. 観光標識準備・設置				■	■	■	■	■	■					
5. 維持管理項目の整理							■	■						
6. 維持管理計画の策定								■	■	■				
7. 維持管理計画の実施									■	■	■	■		
8. 総括													■	

7. プロジェクトに要する費用

本パイロットプロジェクトの費用（実績）は以下のとおりである。

表 11-3 観光標識整備パイロットプロジェクトの費用（実績）

支出項目	第二年次 (US\$)	第三年次 (US\$)	合計 (US\$)	備考
ラウニオン市棧橋 の観光標識	-	3,200	3,200	材料費、加工費
サカティージョ島 の観光標識	-	500	500	材料費、加工費
コンチャグア火山 の観光標識	-	3,500	3,500	材料費、加工費
エルエステロンピ ーチの観光標識	-	2,100	2,100	材料費、加工費
維持管理マニユ アル作成	-	600	600	3市×30部
合計	-	9,900	9,900	

8. プロジェクト実施上の留意点

CORSATUR が東部地域において今まで実施している観光標識整備の状況は、地元 CDT や CAT ラウニオンとのコミュニケーションが必ずしも十分ではない。一例を挙げると、昨年 CORSATUR が、プロジェクト対象地域の一つの市で前市長によって申請された中央公園内の観光案内板を設置したが、現市長が不要とし、その案内板を撤去した。CORSATUR が設置する直前に市長は変わっており、これは、現市長と CORSATUR のコミュニケーション不足が理由で生じた問題である。

2012年3月に全国市長選挙が実施されるため、CDT や CAT ラウニオンなど地元関係者と十分コミュニケーションを取り、情報を共有し、上記のようなケースにならないよう留意する。

9. モニタリングにおける留意点

本パイロットプロジェクトを通じて、CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT の能力強化を図ることが重要であり、あらゆる観点からその活動を常にモニタリングしていく。

CORSATUR のカウンターパートおよび CAT ラウニオンのスタッフが情報を共有しモニタリングしていくことになる。CDT も含め関係者のコミュニケーションを密に情報共有するため、定期的に首都にいる CORSATUR のカウンターパートを現地に訪問させ、状況

を確認していくよう留意する。

10. PDM

本件の PDM を以下に示す。

PDM: プロジェクト名: 観光標識の整備 (Ver.1: 2011 年 12 月 10 日)
 ターゲット市: ラウニオン、コンチャグア、インティプカ / ターゲットグループ: CORSATUR、CDT

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標 - 観光客が観光資源を認識する - 観光資源の知名度が上がる	1. 観光標識にある観光地の観光客が増える	1. CAT ラウニオンによる観光客の統計	- 政治、経済状況が極端に悪化しない - 大規模な自然災害がない
プロジェクト目的 - 関係者が活動を通じて観光標識の整備に関わるノウハウと教訓を得る	1. 関係者が魅力的で効果的な観光標識の設置について理解する 2. 関係者の参加を得た評価結果から観光標識に関わる教訓が抽出される	1. パイロットプロジェクトのモニタリングレポート 2. パイロットプロジェクトの評価報告書	- 犯罪状況がプロジェクト開始時より悪化しない - 環境・衛生状況がプロジェクト開始時より悪化しない
成果 1. 関係者が活動を通じて観光標識の整備に関わるノウハウと教訓を得る 2. CDT と CORSATUR が協働して魅力的な観光標識が設置される 3. 観光標識の管理体制が構築される	1-1. 各市において CDT と CORSATUR の間で観光標識を設置する観光資源や観光施設の選定に関する打合せが行われる 1-2. 各市において CDT と CORSATUR の間で観光資源や観光施設が整理され、標識整備の候補となる観光資源が選定される 2-1. 各市において CDT と CORSATUR の間で観光標識のデザイン作成についての打合せが行われる 2-2. 各市に複数の観光標識が設置される 3-1. CDT による維持管理行動計画が作成される 3-2. 各 CDT の行動計画に基づく維持管理が実践される	1-1. 打合せ議事録 1-2. 選定された観光資源リスト 2-1. 合意された標識のデザイン 2-2. 設置された標識 3-1. 作成された維持管理行動計画 3-2. CAT ラウニオンによるモニタリングレポート	- 担当するカウンターパートが働き続ける。また、交代しても適切な引継ぎが行われる。 - CDT が観光標識を継続的に重要なものとして認識する
活動 1-1.CDT と CORSATUR が過去の「観光開発に関する現地調査」のレビューを行い、地域の観光資源を認識する 1-2.CORSATUR と CDT が標識を設置する観光資源や観光施設を選定する 2-1.CDT の意見を踏まえて、CORSATUR がマニュアルを参照し、新たな観光標識のデザインを作成する 2-2.CORSATUR と JICA プロジェクトチームが観光標識を準備し、CDT が設置する 3-1.CDT と CORSATUR が設置された観光標識ならびに既存の標識の維持管理項目を整理する 3-2.CDT が地元コミュニティを巻き込んだ維持管理行動計画をつくる 3-3.CDT が維持管理行動計画を実践する	投 入		- 地方選挙の結果によって CDT メンバーがパイロットプロジェクトの実施に支障がでる程には変わらない - 標識の資機材調達に支障がない - 標識を設置する土地が確保される 前提条件 CDT にパイロットプロジェクトへの参画意識がある
	「エ」国側 <人材> - CAT ラウニオン Sandra Natzumin、Raul Torres - CDT メンバー - CORSATUR 標識担当(Martha Cristina、Marta Calderon、Manuel Garcia) <資機材> <用地と施設> - 標識が設置される土地 <費用> - 設置費用(労務費) - 設置箇所にかかる税金	日本側 <人材> - JICA 専門家 <資機材> <費用> - 標識材料費用	

III：マングローブツアー

(対象市：インティプカ)

1. マングローブツアーパイロットプロジェクトの背景

本件の対象地域である、インティプカ市エステロンビーチのマングローブ林は、水棲生物に生息地を提供し、暴風雨や浸食の影響から海岸線を保護し、さらに地域住民にさまざまな資材を供給する環境として重要な資源である。

しかしながら、同地のマングローブ林は、建設資材や堤防建設のために伐採され、住民によるゴミの不法投棄もあり、マングローブ林の重要性を認識しない住民が多い。

場所によっては、人口増加に伴い、建設資材や薪の採取のため伐採が増え、資源量の限られたマングローブ林にとって大きな負荷となっている。

本パイロットプロジェクトは、マングローブ林の重要性、人々の生活環境との関わり合い、環境保護、気象変動の脅威など、今後どのように対応していくかなどについて住民を啓蒙することも目的としている。

マングローブ林は、陸地と海域の境界部に形成される樹木群である。根系は海域の塩水でも内陸の淡水でも成長することができる。しかし、これらの樹木の重要性は過小評価されることが多い。

マングローブ林は野鳥や多様な水棲生物の生息地を形成している。分解された落葉はカニ、エビや魚類の餌となる。水棲生物の幼生は、深い海域に泳ぎ出せるようになるまで木々に守られながらマングローブ林内で成長する。一方、カニやエビは生涯を通してマングローブ林内に留まって生息する。マングローブ林は大型魚の餌場としての役割も果たす。さらに水棲生物のみならず、地域住民に多くの資源とメリットを提供する。

マングローブ林は、建設資材や薪の供給源でもある。ただし、伐採する量と自然の成長で補える量のバランスを理解する必要がある。

さらに、商品価値の高い多くの魚種がマングローブ林で成長するほか、ここで捕獲される魚類をカロリー源としている地域の零細漁民の漁業の維持にも貢献している。

ラウニオン県の県都から約 30km 離れたインティプカ市には、多くの観光資源があり、観光開発が進むと、地域や地元企業が発展していくことが期待されている。この意味で、マングローブ林はエコツーリズム開発の大きなポテンシャルを秘めており、それまで一次的ニーズをまかなうためにだけマングローブ林を利用してきた地元住民が、観光資源としてマングローブ林を活用した新たなビジネスを創出し、収入の増加をはかることが期待されている。

2. パイロットプロジェクトの目的と基本方針

以下の戦略的目標の達成を通じて、プロジェクト目標「受益者はマングローブツアーを自

立発展的に開発・促進することができる」を達成する。

戦略的目標：

- コミュニティグループのマネジメント能力と各省庁との協働を通じて官民連携体制の強化をはかる。
- 地域の資源や特徴を活かしたコミュニティ・ツーリズムを活用する。
- 専門的能力および企業力の強化をはかり、コミュニティ内の所得格差の是正を目指す。
- 競争力のある新たな観光商品を開発するとともに、コミュニティ・ツーリズムを促進するメカニズムを改善することによって、エコツーリズムが楽しめる地域として宣伝広報を展開する。
- CDT を支援する MITUR/CORSATUR のキャパシティビルディングを実施する。
- CDT の経験を改善し、他地域に普及促進する。
- 地元 CDT のマネジメント能力を強化する。
- プロジェクトの実施機関は環境的なサステナビリティをはかり、かつ競争力の高い観光商品を開発する。

3. パイロットプロジェクトの上位目標

本プロジェクトが当該地域で継続することによって、以下の上位目標の達成が可能となる。

- (1) 地域を訪れる観光客が増加する。
- (2) 官民連携を通じて地元の資源を活用したコミュニティ・ツーリズムのモデルプロジェクトが他の CDT によっても実施される。

4. 目標達成のための手法

実態調査：

CDT、インティプカ市、MITUR/CORSATUR、JICA プロジェクトチーム、地元住民が参加するワークショップを開催する。成果品は次のとおり。

- (1) 地域の地理データ
- (2) 関係機関、地域団体の組織図
- (3) CDT の SWOT 分析
- (4) 自然・文化財インベントリー
- (5) 自然資源（動植物）インベントリー
- (6) 文化財（有形・無形）インベントリー
- (7) 将来のステークホルダー、裨益者、ドナー、実施グループのリスト

管理体制の構築：

- (1) コミュニティ・ツーリズム先行事例視察:マングローブ林におけるパッケージツアーをどのように実施するかを学ぶために先行事例(西部地域の Barra de Santiago)を視察し、この経験を学ぶ。
- (2) 組織化：国内法にもとづく法人化手続き、規制等について地域組織の企業化に向けた環境づくりを行う。MITUR/CORSATUR、CONAMYPE、CDMYPE および

INSAFOCOOP（エルサルバドル協同組合促進機関）の支援を受けてワークショップを実施し、企業の法人化手続きや経営体制の選択ができるよう、企業の観点からターゲットグループを指導する。ターゲットグループの組織化、または企業化を促進することを目的とする。

なお、これら実施団体の組織化、法人化は運営主体の責任を明確にすると共に、カヤックなどの機材の管理、予約の管理とツアーの実施、金銭の収受と会計（利益）の確定などが実施できる制度づくりを目的としている。協同組合結成にあたっては、INSAFOCOOPの仲介を要する。

- (3) 教育研修：教育研修は視察研修後に実施する。顧客サービスに関する専門コースは、CONAMYPE、国際赤十字、Eco Experiencias(NGO)、MITUR/CORSATURに支援を求める。
- (4) 地域のツアーガイド育成：現役ガイドの専門教育と、新人ガイドの育成を実施する。そのため同分野の専門家（NGO、ガイド協会等）の協力を依頼する。
- (5) 機材整備（カヤック 10、救命胴衣 28、救急箱 3）：機材を維持管理するために必要なメンテナンスキットと使用方法、保守・修理、保管方法に関する研修を行う。
- (6) また、CDTはオペレーションセンター、予約センター、機材置き場を整備することを予定しており、これらは共同組合が備える。

マーケティング・販売戦略の策定：

- (1) 市場トレンドに合わせたロゴ、企業、パッケージ商品、WEBサイトのイメージ・デザイン。メンバーがWEBサイトやSNS（ソーシャルネットワーク）を更新していく。
- (2) プロモーショングッズ（パンフレット、WEBサイトのデザイン、イベント会場で配布する印刷物）の製作、観光ビジネス会議などでのプロモーション活動。
- (3) 国内外の観光事業者を対象としたプロモーションツアー：国内および中米地域の観光事業者によるマングローブ体験ツアーをアレンジし、自ら商品を体験し、フィードバックできるように仕向ける。
- (4) 国内外のマスメディアを対象としたファミトリップ：旅行専門誌、TV、雑誌等のマスメディアを通じて観光地や観光商品に関するルポを製作してもらう。
- (5) モニターツアーの実施：国内の特定ターゲットにパッケージツアーを宣伝し、ツアー商品を紹介するとともに、実際に体験してもらう。
- (6) 国内や中米地域の観光イベントへの参加：ステップ1として観光フェアであるエキスポパケーションに参加する。ステップ2としてマングローブツアーを含むパッケージツアーの販促を行う。

5. 関係者の役割分担

ステークホルダーの役割を以下に示す。

表 III-1 アクターの役割

アクター	業務内容
CDT インティブカ	全体の調整
市	ロジスティクス支援と必要な場所の提供
CORSATUR	技術支援
CAT ラウニオン	技術支援と全体調整
CONAMYPE	技術支援と人材育成
地域住民	ワークショップへの参加
JICA プロジェクトチーム	技術・資金協力
MEGATEC	技術支援
INSAFOCOOP	技術や研修の支援

6. プロジェクト実施工程

本プロジェクトの実施工程は以下のとおりである。

表 III-2 プロジェクトの実施スケジュール

活動	2011		2012											
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マングローブ分布域における自然資源（動植物）インベントリー	■	■												
先行事例への視察研修の実施			■											
実施機関の設立と実施団体の登録		■	■	■	■									
実施機関の人材育成（テーマ：マングローブツアーの計画立案と運営）			■	■	■									
実施機関の登録		■	■	■										
マングローブツアーのルートおよび商品のデザイン		■	■	■	■	■	■							
実施機関による交渉計画の策定			■	■	■									
実施機関によるマーケティング、販売計画の策定						■	■	■						
実施機関による販促活動						■	■	■	■	■	■	■		
実施機関によるマングローブツアーの実施						■	■	■	■	■	■	■	■	

7. プロジェクトに要するコスト

表 III-3 マングローブツアーパイロットプロジェクトの費用（実績）

支出項目	第二年次 (US\$)	第三年次 (US\$)	合計 (US\$)	備考
カヤック、オール	17,000	-	17,000	カヤック 10 台、オール
メンテナンスキッド	700	200	900	
救命胴衣	2,200	-	2,200	大人用 22 着、子供用 6 着
ワークショップ	3,500	2,600	6,100	
WEB サイト作成	2,000	-	2,000	
ファムトリップ		500	500	
プロモーション費	-	600	600	パンフレット作成
合計	25,400	3,900	29,300	

8. プロジェクト実施の留意事項

インティブカ地域は、中米環境開発委員会（CCAD）の支援対象になり、すでに同委員会からインティブカ地域の保護のための青年組合（Asociación de Jóvenes para la Conservación de Intipucá）設立の支援を受け、環境資源保護の研修が実施されている。

メンバーである青年の組織化はなされているものの、未だ企業として活動を実施するための組織構造が確立されていないため、具体的に研修で得られたノウハウを実行に移すことができない。したがって、まずは経営・運営面での改善に向けた法的な組織構造を確立することが求められており、これが実行できるように留意する。MITUR/CORSATURとともにプロジェクトの運営主体となる CDT と協力して、同グループも活動することとなる。このために、能力強化、プロジェクト管理、パッケージや観光商品の計画やその実施を両者が平等の立場でできる協働関係を構築する。

9. モニタリングの留意事項

CDT のキャパシティビルディングが重要であり、全面的に継続して彼らの活動をモニタリングしていくように留意する。まずは、同地域の観光産業のトレンドについて説得力のあるデータを収集すべく、CDT および MITUR/CORSATUR によるモニタリングを開始する。CDT およびマングローブ林保護のための青年組合のマネジメント能力改善に向けた活動の成果のモニタリングは、定量的というよりも定性的なものとなる。活動を活発に行うことで適正な販路を開拓し、ターゲット住民や関係機関がモニタリング結果にもとづく提言を受け入れて、実際に販路開拓に取り組むことができるよう留意する。こうした体勢がなければ、モニタリングの成果は小さく、または期待される成果を得ることが困難となる。

10. PDM

本件の PDM を以下に示す。

PDM: プロジェクト名: マングローブツアー (Ver.1:2011年11月3日)
 ターゲット市: インティプカ/ターゲットグループ: CDT インティプカ、関係する地元団体

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標 - 対象地域の観光客数が増加する - 地元資源を利用し、官民連携によるコミュニティ・ツーリズムのモデルが形成される	1. 観光客数が増加する 2. MITUR/CORSATUR 等が他の CDT を対象に本マングローブツアーへのファムトリップを実施する。	1. 対象地域における観光統計 2. 質問票	- 深刻な経済危機に陥らない - 大規模な自然災害がない
プロジェクト目的 - 受益者はマングローブツアーを自立発展的に開発・促進することができる	1. ツアーが円滑に実施される運営体制が確立される 2. ツアー情報が実施団体によってアップデートされている	1. 実施団体によるツアー記録 2. ウェブサイトやパンフレットによるツアー情報	- 訓練を受けた CAT スタッフが継続的に支援する - CORSATUR の政策に大きな変更がない
成果 1. 対象地域におけるマングローブツアーの資源と可能性が抽出される。 2. マングローブツアーの実施団体が設立される 3. マングローブツアーの商品が開発される 4. 実施団体のツアー実施・促進能	1-1. 受益者は対象地域におけるマングローブのインベントリーリストを作成する 2-1. 実施機関の定款が作成される 2-2. 実施機関の主要スタッフがマングローブツアーに係る訓練を受ける 3-1. 少なくとも一つのマングローブツアー商品が開発される 3-2. ビジネスプランが作成される 4-1. ツアー参加者への満足度調査	1-1. インベントリーリスト 2-1. 定款 2-2. 訓練記録 3-1. マングローブツアーに係るウェブサイトやパンフレット 3-2. ビジネスプラン 4-1. 実施機関による満足	- カウンターパートがプロジェクト完了まで働き続ける。 - 実施団体が機材を正しく使い続ける

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
力が強化される	が実施される 4-2. ツアーが少なくとも X の旅行者と CORSATUR によって紹介される	度調査結果 4-2. 当該ツアーを紹介しているウェブサイトやパンフレット	
活動 1-1.関係者がマングローブ林に生息する動植物のインベントリリストを作成する. 1-2.類似の成功事例に係るファムトリップを行う 2-1.CDT とマングローブに関連する地元団体をベースとした実施団体を設立するとともに定款を作成する 2-2.実施団体にマングローブツアーの計画と運営に係る研修を行う 2-3.実施団体の登録を行う 3-1.マングローブツアーのルートや観光商品を開発する 3-2.実施団体によるビジネスプランを作成する 4-1.実施機関によるマーケティング・営業計画を作成する 4-2.実施機関がマングローブツアーの営業活動を行う 4-3.実施機関がマングローブツアーを実施する	投入 「エ」国側 <人材> - CORSATUR のカウンターパート - CAT ラウニオン Sandra Fuentes, Raul Torres - CDT メンバー <用地と施設> - サービス提供地域、カヌーの保管場所	日本側 <人材> - JICA 専門家 - 研修トレーナー <資機材> - ワークショップ資機材とカヤックなどツアー用機材 <費用> - ファムトリップとパンフレット作成の費用	地方選挙結果に関連した市からの妨害がない 地元コミュニティが観光業の重要性を認識している カヤックの調達に深刻な遅れがない 前提条件 ツアー対象地域が開発規制地域に指定されていない CDT にプロジェクトへの参画意識がある ツアー機材（カヤック等）を保管できる場所が確保される 実施団体が法的に認知された団体となる意思がある CONAMYPE, MITUR/ CORSATUR 等から研修講師が確保できる

IV：観光環境教育 (対象市:パサキナ)

1. パサキナにおける観光環境教育の背景

当地を観光客が訪れない理由として、「魅力ある観光資源に乏しい」、「アクセス条件が悪い」、ということもあるが、「環境が悪い」ということも無視できない。当地には広大なマングローブ林という観光資源があるが、ここの汚染度は極めて高く、このままでは観光客を呼ぶことは難しい。環境汚染の原因としては、「ゴミを捨てても悪いという意識がない」、「ゴミを捨てることに対する取り締まりがない」、「ゴミを捨てる場所(ごみ箱) / ゴミ収集車がない」ということがあげられるが、その根底には、環境に対する意識が低いことがある。

一方、観光業を市の産業として定着させたいという希望があるが、観光に対する住民の意識は未だ低く、観光業が定着するまでには長い時間を要する。

以上のような市の現状に鑑み、将来の地域を担うことになる若い人たちに環境や観光に対する教育を施し、その成果が子供たちを通じて、各家庭や地域住民に広がれば、コミュニティとして観光に対する意識が高まることが期待される。

2. パイロットプロジェクトの目的および基本方針

以下の目的で、観光環境教育のパイロットプロジェクトを実施する。

「観光環境教育のためのプロジェクトのメカニズムが構築される」

持続的な観光開発を可能とするためには、観光客をもてなす気持ちをコミュニティ全体で育てることが前提となる。地域全体でホスピタリティを高めていくことが最終的な目的となるが、このためには多くの時間を要するので、まずはモデル地域を設定して取り組み、継続的にこのモデルを拡大していくものとする。

これまでに本件に類似したプロジェクトとしては、コンチャグアの市役所が MEGATEC に観光/環境の授業を依頼し、コンチャグアの小学校で実施された実績がある。従って、このときの教材や手法、教訓などを共有しながら進めていくこととする。また、今後他地域にこのようなプロジェクトを拡大していくためには、他地域でもプロジェクトを実施していけるようなメカニズムを構築していくことが重要となる。

地域の観光・環境に関する政策は、地域自治体の責任であることから、プロジェクトの実施主体となる CDT は、パサキナ市と連携しながらプロジェクトを計画して、これを実行するものとする。CDT はこのプロジェクトの実施を通じて、その能力強化を図るものとする。

3. パイロットプロジェクトの上位目標

パイロットプロジェクトにおいて構築された手法を用いて、観光環境教育プロジェクトがパサキナ全域において展開されていくなれば、数年後には市全体の「市民の観光に関する意識が高まり」、コミュニティのホスピタリティ発揚により、将来より多くの観光客が訪問する環境ができる。

従って、当該プロジェクトと並行的に観光資源開発・宿泊施設などの整備が行われれば、徐々に観光客が増え、地域の観光産業が栄えていくものと期待できる。

4. 目標達成のための手法

(対象生徒と協力校)

本プロジェクトは、子供たちへの教育を通じて実施することを前提としているが、子供たちの教育層が広いことから、高学年層(日本の中学生・高校生程度)を対象とする。低学年層では理解度が落ちる懸念があること、高学年層では興味を示さない可能性もあるからである。従って、本プロジェクトの実施においては協力校の存在が不可欠となる。協力校の位置によっては、子供たちを一か所に集める方法、講師が各学校を訪問する等の検討が必要になる。従って、パサキナ市内の各校の位置や学年別の生徒数の把握が必要となる。

(講師)

同様に、観光環境教育のできる講師の手当てが必要になるが、これについては MEGATEC の協力を得ること(学生を講師として活用する)を前提としている。授業の方法によって講師の必要数が異なるので、授業の方法の検討が必要である。

(プロジェクト実行委員会の結成)

本プロジェクトを実施していく核になる CDT のメンバーを決め、それぞれの役割分担を決める。このとき市との連携を十分に取るものとする。

(教育プログラム)

教育プログラムについては、MEGATEC の実績のプログラムも参考とするが、対象学年が異なるため新規に作成する必要がある。この作成に当たっては、CORSAUR、MEGATEC、CDT、JICA プロジェクトチームなどが協力しながら作成していく。また、座学の他に先進地域の視察なども取り入れて、学習効果を高めるように計画する。プログラムの作成に当たっては地域の実情に沿った内容も取り入れ、将来のパサキナの観光開発につながるように配慮する。

(授業日)

授業実施日は MEGATEC 学生講師の可能日、及び各校校長の裁量により、各校の実態を調査して最終的に決めるものとする。

(コミュニティへの普及)

子供たちへの教育成果をコミュニティに拡大し、さらにコミュニティとしてのホスピタリティを高めていくためには、各家庭でその教育成果を共有する、あるいはその地域で子供たちが教育成果を発表してコミュニティに情報を発信する等の方法があり、地域の実情に合った方法を検討して決めるものとする。

(教育成果の検証)

教育の成果が効果的に上がっているかどうかについて定期的に検証していき、問題がある場合には早めに対策を取り、プログラムの変更なども検討する。

(プロジェクトの総括)

本プロジェクトを総括し、プロジェクトの実施手法を構築し、他の市に対しても紹介できるようにする。

5. 関係者の役割分担

プロジェクトは直接的には協力校の生徒たちを対象として実施するが、本プロジェクトに関与するアクターとその役割は以下のとおりである。

表 IV-1 アクターの役割

アクター	役割分担
CDT	本プロジェクトを実施する
市	経験のない CDT と協働する
CORSAUR	本プロジェクトを CORSAUR の実績とするために、常に全体の状況を把握する。
CAT ラウニオン	CDT を支援する。
コミュニティ	プロジェクトに協力する。
MEGATEC	プログラムの作成や教育の実施において協力する
JICA プロジェクトチーム	関係者と協調しながら、CDT を支援する。

6. プロジェクトの実施スケジュール

本プロジェクトは、生徒たちを対象とすることから、学校のスケジュールに配慮しなければならない。中学校の授業は 1 月中旬に始まり、11 月下旬に終了する。本件の準備作業も考慮し、開始を 2011 年 12 月とし、終了を 2012 年 12 月とする。また、授業の実施に

関しては MEGATEC の授業期間も考慮する必要がある。

但し、CDT の実施意欲が高まり、さらなる希望校がある場合は 2013 年 2 月から 3 月に追加実施も可能である。

2012 年までの凡そのスケジュールは以下ようになる。

表 IV-2 プロジェクトの実施スケジュール

	2011	2012											
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学校の授業期間													
MEGATEC の授業期間													
1.委員会の結成													
2.資料の収集と分析													
3.協力校と生徒の確定													
4.テキストの作成													
5.授業の実施													
6.総括													

- 委員会の結成：プロジェクトを実施するための CDT の中心メンバーを結成し、少なくとも以下の 5 名のメンバーを決めるものとする。
委員長 / 副委員長 / 書記（会計、記録） / 渉外担当（対 MEGATEC および JICA プロジェクトチーム） / 学校担当（对学校および父兄）
- 資料の収集と分析：協力校および対象の生徒、授業の場所、授業方法、プログラム、カリキュラムなどを検討するための資料を収集し、これを分析する。
- 協力校と対象生徒の確定：上記の資料分析に基づいて、協力校と対象生徒を決める。対象生徒数は約 200 名を上限とする。協力校は学校側からの同意が前提となり、協力校の位置によって、必要な講師の数、生徒を一ヶ所に集めて実施するか、講師が各校を訪問するか、などの検討が必要となる。
- テキストの作成：観光や環境に関する教育の実態、可能な授業回数、対象生徒の能力などを考慮しながらテキストを作成する。
- 授業の実施：7 月から 10 月まで週 1 回の授業をするとなると、合計 16 回の授業が可能となる。しかし、8 月に 1 週間の休暇があることを考慮すると、一コース 6 週として 2 校の実施が現実的である。具体的な授業回数や実施期間に関してはこれまでの諸条件を総合的に検討して、確定することとなる。尚、プロジェクトの実施期間中にモニタリングと評価を実施する。
- 総括：プロジェクトを最終的に評価するとともに、教訓を整理し、他地域にも普及できるようにプロジェクトの実施方法を構築するものとする。

7. プロジェクトに要するコスト

表 IV-3 観光環境教育パイロットプロジェクトの費用（実績）

支出項目	第二年次 (US\$)	第三年次 (US\$)	合計 (US\$)	備考
授業費	-	4,600	4,600	講師代
教科書	-	2,200	2,200	
遠足	-	11,000	11,000	3回
ビデオ	-	800	800	
ワークショップ	-	300	300	
シャツ	-	3,300	3,300	3校分生徒、先生
合計	-	22,200	22,200	

8. プロジェクト実施上の留意点

「エ」国においては、小中学校での観光に関する教育はほとんど行われておらず、参考となる経験が極めて少ない。また、修学旅行などの学校行事も殆ど行なわれていない。対象となるパサキナでは初めての経験となる。従って、常にプロジェクトの成果を検証しながら、そしてプロジェクト内容や実施方法を改善しながら進めていくことに留意する。

プロジェクトの実施主体である CDT においても、自らが何かを成し遂げることは初めての経験である。少なくとも中心メンバーが機能的になることがプロジェクトにとって不可欠の条件である。従って、関係者が連携しながら、CDT を支援していくよう留意する。

本件は、MEGATEC の協力を得ながら実施していくこととなるが、MEGATEC としても本件を学生の教育プロジェクトとして実施していく計画としており、本プロジェクトの終了する 12 月までのフォローも含めて、MEGATEC と緊密な連携を取りながら実施していくことに留意する。

9. モニタリングにおける留意点

CDT の能力強化を図ることが重要であり、あらゆる観点からその活動を常にモニタリングしていく。

毎週 1 回の授業となるので、子供たちのプロジェクトへの興味を持続させることが重要であり、子供の理解度を確認していくことに留意する。

本件は、子供への教育を通じて、その成果を家庭・コミュニティへと拡大していくものであり、その伝達方法と共にその成果がしっかりとコミュニティに届いているかをモニタリングすることに留意する。

10. PDM

本件の PDM を以下に示す。

PDM: プロジェクト名: 観光環境教育 (Ver.1: 2011年12月7日)
 ターゲット市: パサキナ/ターゲットグループ: CDT、協力校における生徒

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標 - 市民の観光に関する意識が高まる	1.観光産業に参画する市民が増える 2.パサキナへの訪問者が増える	1.対象地域における観光統計 2	- 政治、経済状況が極端に悪化しない - 大規模な自然災害がない
プロジェクト目的 - 観光環境教育のためのプロジェクトのメカニズムが構築される	1.生徒並びにその家族がホスピタリティについて理解している 2.パイロットプロジェクト終了後、他地区への普及プランが策定される	1.プロジェクトによるモニタリングレポート/アンケート調査 2.策定されたプロジェクトの仕組み	犯罪状況がプロジェクト開始時より悪化しない
成果 1.パサキナに CDT が中心となった観光環境教育のための委員会ができる。 2.観光環境教育ためのプログラムが作成される。 3.子供への教育を通じてその成果が各家庭につながる 4.観光環境教育を普及するためのプロジェクトのメカニズムが構築される。	1-1. 委員会が機能する 1-2. 委員会の活動計画をまとめる 1-3. 適切な学校と生徒が選定される 2-1. 関係機関からの支援が得られる。 2-2. 教育プログラムができる 3-1. プログラムが実施される。 3-2. 子供がプログラムを理解する 3-3. 各家庭でプログラムを理解する 4-1. 活動計画・プログラムの見直しが行われる 4-2. 活動計画・プログラムの改善策が立てられる。 4-3. プロジェクトからの教訓が得られる	1-1. 委員会の構成 1-2. 委員の役割分担 1-3. 協力校の協力体制 2-1. 活動記録 2-2. 教育プログラム 3-1. プログラムの達成度 3-2. 子供の理解度 3-3. 家庭での理解度 4-1. モニタリングレポート 4-2. モニタリングレポート 4-3. 教訓	- 担当するカウンターパートが働き続ける。また、交代しても適切な引継ぎが行われる。 - CDT が観光・環境教育を継続的に重要なものとして認識する - 協力校の協力が得られる
活動 1-1. CDT が市と協力してプロジェクトのための委員会をつくる。 1-2. 委員会が活動計画を作成する 1-3. プロジェクトの協力校を選定する 2-1. 委員会がプログラム作成のための支援先を決める。 2-2. 委員会が支援先と協働して観光環境教育ためのプログラムを作成する 3-1. 活動計画に沿ってプログラムを実施する。 3-2. 定期的に子供たちへの教育成果を確かめる 3-3. 子供たちへの成果を各家庭に伝え、家庭での理解度を確かめる。 4-1. 定期的に活動計画・プログラムの内容をモニタリングする 4-2. 定期的に活動計画・プログラムを改善する 4-3. プロジェクトからの教訓を整理し、プロジェクトの仕組みを検証する	投 入		- 地方選挙の結果によって CDT メンバーがパイロットプロジェクトの実施に支障がでる程には変わらない。 - 教材等の資機材調達に支障がない - MEGATEC の協力支援が得られる
	「エ」国側 <人材> - CDT のメンバー - CORSATUR/CAT ラウニオン - 関連機関 - 先生 <資機材> - 文房具 <施設> - 教室 <費用>	日本側 <人材> - JICA 専門家 - 講師 <資機材> - テキスト <費用> - 外部での研修費 - アクションプランの実施コスト	前提条件 - CDT にパイロットプロジェクトへの参画意識がある - 市並びに学校からのプロジェクトへの協力が得られる

V：フォンセカ湾島巡りツアー

(対象市：ラウニオン、コンチャグア、メアングーラデルゴルフォ、サンアレホ)

1. フォンセカ湾島巡りツアーパイロットプロジェクトの背景

フォンセカ湾を象徴するような競争力の高い観光資源として、メアングーラデルゴルフォ島、サカティージョ島、コンチャグィータ島、マルティンペレス島、およびコンチャグア火山山頂からフォンセカ湾の島々を望む眺望などが挙げられる。

第一年次に実施した参加型ワークショップにおいて、MITUR/CORSATUR および CDT メンバーは、フォンセカ湾の島々の観光価値を再認識し、地域全体の競争力を高めていく重要性について意見が一致した。

現在、地域を訪れる観光客の一部がこれらの島々を訪れており、全体的に高い満足度が得られたとの評価を受けている。一方、地域の開拓に取り組んでいるツアー業者側も、島々の景観やボートツアーなどに、高いポテンシャルがあると評価している。しかしながら、商品としての価値を付加し、地元の主要アクターを組織化し、観光客受け入れ体制を整えること、さらには観光客数の増加を狙ったプロモーション活動を実施することが、今後の課題として挙げられた。

これらの島巡りツアーの商品価値を高めることにより、観光客の増加をはかり、発地側の観光業者の関心も高まることが期待される。

2. パイロットプロジェクトの目的と基本方針

パイロットプロジェクトの目的を以下に示す。

「フォンセカ湾の島々を巡るツアーの開発に向けて CDT とその他アクターの人材育成がなされる」

フォンセカ湾島巡りツアーは、地域を訪れる観光客の滞在期間を延ばし、さまざまな体験をし、支出行動の増加に結びつける一つのメカニズムとなる。また、観光客を受け入れる住民側も島々の主要資源の価値を再認識するとともに、地域への帰属意識や地元住民としての誇りを高めることができる。

3. パイロットプロジェクトの上位目標

- a. フォンセカ湾の島やビーチが観光地として適切に機能できるよう、CDT とその他のアクターが協力し、地域資源を活用しながら観光産業を促進する。
- b. フォンセカ湾の島々やその他の補足的な観光スポットを提供することにより、観光客に同地を訪れたいという動機づけを行うとともに、満足度の向上、平均支出額の向上、滞在期間の延長、リピーターの増加をはかる。

4. 目標達成のための手法

上記目標の達成に向けて、ツアーの開発と実施に携わるさまざまなアクターとミーティングやワークショップを実施する。

5. 関係者の役割分担

CDT および地域のツアー業者、送客を担う発地側の旅行会社が直接プロジェクトの実施にあたる。それぞれの役割を以下の表に示す。

表 V-1 アクターの役割

アクター	業務内容
漁師とその家族	プロジェクトの実施から得られる知識に基づいてツアーを計画し、これを実施する。
地域 CDT	NGO や地域の協会と連携の下、プロジェクトを実施し、アクター、手法および実施手法の選択をする。
CDT	地元の自治体(ラウニオン、コンチャグア、メアングーラおよびサンアレホ)の管轄内においてプロジェクトの実施を支援する。
CORSATUR	CORSATUR の成功事例となるよう、プロジェクトの進捗状況の把握にあたる。情報および基本方針を提供する。CORSATUR のプロモーションツールに開発した商品を含める。
市	旅客の乗船・下船が容易にできるよう CDT を支援する。
CAT ラウニオン	プロジェクト実施にあたり CDT を支援する。
地域住民	プロジェクトへの協力。観光客に食事、散策、工芸品、その他の体験を提供する。
旅行会社(着地)	ツアーの予約業務を管理し、システムの推進とフィードバックにあたる。
旅行会社(発地)	観光商品としてフォンセカ湾島巡りツアーを販売する。
JICA プロジェクトチーム	各アクターと協力して CDT の支援にあたる。CDT および地域住民をプロジェクトに参加させるためのワークショップをアレンジし、資金援助を行う。

6. プロジェクト実施工程

以下にプロジェクト実施工程を示す。

表 V-2 プロジェクトの実施スケジュール

活動	2011		2012												2013
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
A. ツアーに携わるアクター、サイト、メカニズムの決定															
島々の開拓と既存ツアーの見直し															
島巡りツアーに関わるアクターや観光資源の調査															
B. 島巡りツアーの開発															
島巡りツアーのルートや商品の開発															
CDT と島の住民に対するルートおよび商品の紹介															
パンフレットのグラフィックツールのデザインと製作															
C. ツアーのコーディネーションやプロモーションに関する CDT のキャパシティビルディング															
CDT によるマーケティング&プロモーション計画の策定															
パンフレットやファミトリップの実施を含む CDT による島巡りツアーのプロモーション															
CDT による島巡りツアーのモニタリングと関係事業者へのフィードバック															

A. ツアーに携わるアクター、サイト、メカニズムの決定

フォンセカ湾の島々や既存のツアー商品の視察・検討作業を通じて、聞き取り調査

を行い、地域住民のニーズや期待、能力を把握する。島巡りツアーの主体となる実施母体、地域住民を含めた関係者が多岐にわたることが予想されるため、責任・運営主体、利益配分等を検討する。その上で、地元のアクターにプロジェクト実施に関する主な内容やノウハウを提供する。

島巡りツアーに関わるアクターや観光資源の調査は、ラウニオン、サンアレホ、コンチャグア、メアングエ - ラデルゴルフオを中心に CDT の調整のもとに行う。

B. 島巡りツアーの開発

島巡りツアーのルートや商品の開発は、CDT がツアー業者や JICA プロジェクトチームと合同でおこなう。その後、発地側の旅行会社によるモニタリングを依頼し、開発された島巡りツアーの商品としての評価と改善点についてフィードバックを得る。

本プロジェクトに地域住民を巻き込み、彼らの地域に対する誇りや帰属意識を高めるために、CDT による島の住民へのルートや商品の紹介をおこない、フィードバックを得る。

島巡りツアー商品化に向けたパンフレット作成にあたり、そこで用いるグラフィックツールは、MITUR/CORSATUR の基本方針にしたがってデザイン、製作をおこなう。

C. ツアーのコーディネーションやプロモーションに関する CDT のキャパシティビルディング

CDT 自身による島巡りツアーのモニタリングと関係事業者へのフィードバックをおこなう。CDT がモニタリングやフィードバックの方法を学び、さまざまなアクターがツアーの実現に参加するよう協働で作業することの重要性を学ぶ。

CDT によるマーケティング&プロモーション計画の策定では、グラフィックツールに加え、直接的なマーケティングやプロモーションも検討する。

パンフレットやファムトリップの実施を含む CDT による島巡りツアーのプロモーションをおこなう。ファムトリップでは、参加者に改善点を指摘してもらい、関係者にフィードバックをおこなう。

7. 本プロジェクトに要する費用

表 V-3 島巡りツアーパイロットプロジェクトの費用（実績）

支出項目	第二年次 (US\$)	第三年次 (US\$)	合計 (US\$)	備考
ワークショップ	600	23,800	24,400	
ボート交通費	600	14,800	15,400	
パンフレット作成	3,400	3,600	7,000	デザイン・印刷費
ツアーガイドカード	-	400	400	船上の安全、生態系
救命胴衣	-	1,300	1,300	
ファムトリップ	-	4,800	4,800	旅行会社、メディア等
マニュアル作成費		6,000	6,000	デザイン・製本費
合計	4,600	54,700	59,300	

8. プロジェクト実施の留意事項

本プロジェクトは関係者が多岐にわたるため、さまざまなアクターとの調整が必要となる。特に、適正に予約業務がなされるよう、プロジェクトに参加する CDT が着地型観光を可能とする業者（DMC）を少なくとも 1 社選定しておかなければならない。

CDT が一連のプロセスにおける関係者の呼びかけや調整業務に当たることになるため、CDT のポジション、組織力、観光地の主要アクターとの調整力を強化することに留意する。

マーケティング計画においては、経済的なサステナビリティを確保することを留意し、責任・運営主体、関係者間の利益配分等をファミトリップの実施を通じ念入りに検討していくこととする。また、プロジェクトモデルの普及やフォローアップを行うためのメカニズムを確立することに留意する。

9. モニタリングの留意事項

CDT の能力強化を図ることが重要であり、あらゆる観点からその活動を常にモニタリングしていく。

選定された DMC は毎月、CAT ラウニオンおよび CDT に報告書を提出し、そのフィードバックを受ける。こうしたスキームを通じて、DMC および CDT による地域管理能力や競争力強化がなされ、プロジェクトモデルを他地域にも応用することが可能となるようになるよう留意する。

10. PDM

本件の PDM を以下に示す。

PDM: フォンセカ湾島巡りツアー (Ver.2:2012 年 1 月 30 日)

ターゲット市: ラウニオン、メアンゲーラデルゴルフォ

/ ターゲットグループ: CDT メンバー、漁民、輸送業者、観光業者、飲食業者等

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標 - CDT と地元の事業者がさまざまな体験を提供する島々を巡るツアーを推進できる。	1. CDT および地元の事業者が島々を巡るツアー以外にも内陸部のさまざまな体験ツアーを提供する	- 島々に向けたツアー商品	- 経済状況が極端に悪化しない - 大規模な自然災害がない
プロジェクト目的 - フォンセカ湾の島々を巡るツアーの開発に向けて CDT とその他アクターの人材育成がなされる。	1. 地元住民が実施するツアー	1. ツアー業者の報告書	- 地元コミュニティが CDT に継続的に協力する - CORSATUR の政策が大きく変わらない
成果 1. ツアーに携わるアクター、サイト、メカニズムが決定される。 2. 島々を巡るツアーが開発される。 3. ツアーのコーディネーションやプロモーションに関する CDT のキャパシティビルディングがなされ	1-1. フォンセカ湾の島々を巡るツアーに関する情報リスト 2-1. 島々を巡るツアー商品が少なくとも 4 種類開発される 3-1. ツアーのプロモーションを目的としたパンフレットと WEB サイトを CDT と地元アクターにより製	1-1. ツアー・インベントリ 2-1. パンフレット、WEB サイト 3-1. ツアーに関する情報を掲載したパンフレット、WEB サイト	- 船着場の状況がプロジェクト開始時よりも悪化しない - 2012 年の地方選挙により CDT メンバーの構成が活動に支障が出るほど変わらない - 対象地域の治安状況が悪化しない

プロジェクトの要約	指標	入手手段	外部条件
る。	作される。 3-2. ツアーのプロモーションを目的とした関係者の体験ツアーを 3 回以上実施する。	3-2. CDT の体験ツアー報告書	
活動 1-1. 島々の調査と既存ツアーの見直しをする 1-2. 島々を巡るツアーに関わるアクターや観光資源の調査をする 2-1. 島々を巡るツアーのルートや商品の開発をする 2-2. CDT と島の住民に対するルートおよび商品の紹介をする 2-3. グラフィックツールのデザインと製作をする 3-1. CDT によるマーケティング&プロモーション計画の策定をする 3-2. パンフレットやファムトリップの実施を含む CDT による島々を巡るツアーのプロモーションをする 3-3. CDT による島々を巡るツアーのモニタリングと関係事業者へのフィードバックをする	投 入		- 地元コミュニティが地元の観光資源と観光の重要性を認知する。 - 地元コミュニティとDMCが進んでCDTに協力する 前提条件 ボートの持ち主が進んでパイロットプロジェクトに参加する
	「エ」国側 <人材> - CAT ラウニオン Sandra Natzumin, Raul Torres - CDT - 地元業者 <資機材> <施設> CAT ラウニオン事務所	日本側 <人材> - JICA 専門家 <資機材> <費用> - ワークショップ費用、ファムトリップ費用、パンフレット作成費用	

I：観光地図（WEB）

1. 活動内容

(1) パイロットプロジェクト開始後の活動内容

1) 活動 1-1：観光地図に掲載する地元観光資源を選定する

参加型アプローチによる観光地図作成ワークショップを行うため、CONAMYPE 等から紹介されたファシリテータ 3 名をトレーニングした。これら人材が国内で同様のワークショップを実施できるようになることを意図したものである。



主要な観光地および観光客が立ち寄る場所を特定するために計 9 回のワークショップを実施した。ワークショップでは、3 つの市で 150 人以上が参加し、そこには CDT メンバーが毎回参加して、活発な意見交換が行われた。

ワークショップでは、参加者が市の観光資源と観光施設を再認識すること、今まで知らなかった観光資源・施設を知ったこと、観光の価値を高めるような建設的な意見交換ができたこと、観光客の目をひく観光資源や設備へのロゴの活用が重要であること、観光客の要求するような情報を提供すること等の意見が出された。市内の交通を予測した道路の通行規制情報も地図に記入された。



各 CDT は、それぞれの市にとって重要なイメージのアイデアを出し、それぞれ以下のように決めた。



3) 活動 1-2: CDT が関係者と観光地図情報システムについて議論する

他の CDT でも同じように実施可能で、このパイロットプロジェクトが国内の他の地域でも利用できるよう、CDT と CORSATUR のカウンターパートの間で会議を持ち情報を共有した。CORSATUR の情報・マーケティング部よりフォンセカ湾の観光地図づくりのパイロットプロジェクトの要望があり、進行中の観光地図づくりプロジェクトが細部まで完了した後、他地域で計画し、実施した。

印刷業者との会議では、CAT ラウニオン、CDT メンバー、それぞれの市役所、およびその他の地元の関係者から提供された情報に基づいて印刷する観光地図のデザインを作成した。



各地図のレイアウトでは市内地図を片側に寄せて、観光情報や必要なサービスと設備を地図に記入し、他のスペースには、重要な観光資源、道路、道路に面したサービス施設などの地域情報を記入することを関係者で合意した。地域のプロモーションのためにフォンセカ湾へのルート、ラウニオンの緊急連絡先と CAT ラウニオンのデータは全ての地図に記入することを決めた。

地図の増刷を確実にする持続的なメカニズムと、プロジェクトの全体 PDM に記述してあるように予算を確保するメカニズムを CDT に指導することを決めた。

- ・ CDT によって決められた配布場所では観光地図を無料で配り、利用者の関心を確保する。
- ・ 増刷の資金を確保するために CDT のメンバーに寄付を募ることができ、それによって観光客に役立つ情報を提供できるようにすることを決めた。この状況を繰り返すことができれば、地図の増刷は継続され、CDT に参加することの優位性が認められ、CDT への参加者の増加が期待される。



4) 活動 1-3: 観光地図情報システム (アプリケーション) を開発し、観光地図 (観光情報) を印刷する

- a. それぞれの市の観光資源・サービスをウェブ上でアクセスできるアプリケーションを作成した。これにより管理や更新が簡単にでき、観光情報をウェブサイトで見ることができる。
- ・ 簡単に CDT のメンバーによってホームページの情報を更新でき、CDT メンバーや観光客にとっても扱いやすいホームページになるよう工夫している。
 - ・ このホームページでは各市の観光地図にアクセスでき、CORSATUR のホームページともリンクし、CORSATUR の情報・マーケティング課がその情報を利用できる。これによって全国プロモーションの戦略にフォンセカ湾も含まれる。



- b. プロジェクトをスタートしたときに地図のシステム化を説明した。
- c. CORSATUR と CAT ラウニオン参加の下、7月19日に13市の CDT を対象に観光地図と地図情報システムについて説明し、地図のサンプルを各 CDT に配った。
- d. 2012年7月28日(土)に CORSATUR 長官、ラウニオン市長参加の下、ラウニオン市役所にて3つの CDT に対する観光地図の贈呈式が行われた。



CDT ラウニオンへの観光地図贈呈式

CDT コンチャグアへの観光地図贈呈式

CDT サンタロサデリマへの観光地図贈呈式

5) 活動 2-1: 観光地図の配布場所を選定する

8月15日に受けた最初の報告では、CDTが35人で1,110の地図を受けとり、それらを配布した。

CDT	配布者(箇所)	地図の配布部数
La Unión	15	380
Conchagua	8	370
Santa Rosa de Lima	12	360
CORSATUR		990
TOTAL	35	

CORSATURには観光省で利用するために600部、13市の各CDTに30部(390部)を配布するために、合計990部を渡した。

プロジェクトの持続発展性を強化するために配布場所を今後増やしていくことでCDTを支援していく。

6) 活動 2-2: 選定された配布場所とワークショップを行う

7月29日から8月10日にかけて、選ばれた配布者35人およびCDTとワークショップを実施した。新しい配布者を増やすためにCDTに対する支援を続けた。



地図の配布のディスプレイ

各CDTが制作したプロモーションツールに活用されている地図

地域CDT地図小委員会のフォローアップミーティング

7) 活動 2-3: CDTは配布場所をモニターするとともに、配布場所からのフィードバックを得る

a. 配布者は報告用の書式をもっており、その使い方を理解している。配布者が市CDTに報告し、市CDTがCATに報告する。最初の報告は8月15日に行われた。月に一度CATラウニオンに報告するためのフォーマットを決めた。

b. 選出された配布業者の報告によると、予定通り地図が配布され、ビジターの満足度は高かった。CORSATUR 専門家のアドバイスにしたがってフォーカスグループが形成された。

8) 活動 3-1: CTD に対してワークショップを行い、運営維持管理マニュアルの説明と運営アクションプランの作成を行う

様々なメソッドを把握しているメンバーを対象にしたワークショップを行い、プロジェクトのフォローアップをおこなった。運営維持管理マニュアルの説明は、各 CDT メンバーと共同でおこなった。



観光地図の作成および運営管理に関するマニュアルを CDT と共に作成した。

9) 活動 3-2: CDT が観光地図情報システムの運用とアップデートを行う

地域 CDT が地図の情報を更新していく。他の市に対してもこのシステムを教える。

10) 活動 3-3: CAT が観光地図情報システムと CDT の活動の監督を行う

CAT スタッフが観光地図のフォローアップミーティングに参加した。

(4) 遭遇した問題とその解決

CAT スタッフが多忙で、期待されていたほど積極的な参加が得られなかったが、地域 CDT がマネジメント・監督・普及活動において CAT およびローカル CDT を支援した。

ローカル CDT の中には、観光地図の作製・管理・コントロールを実施するために必要な組織や能力が十分に備わっていないところもある。また、CAT スタッフが多忙である。このような状況を解消するため、地域 CDT の下に地図小委員会が形成され、プロジェクトの初期段階の参加者がプロジェクトマネジメントにおいてノウハウを活用するとともに、知見を伝達・普及できるようにした。

地図小委員会は、今後もプロジェクトの普及に取り組み、長期にわたって持続発展性を確保し、協力関係を改善するとともに、CAT スタッフが参加できるときには彼らと協力することになる。

2. 指標の達成レベル

- (1) 指標 1-1: CORSATUR ウェブサイトを利用した観光地図情報システムが開発される
 地図作製時に収集した情報が、ウェブサイトの制作会社により CORSATUR ウェブサイトの制作やマーケティングに活用されている。
- (2) 指標 1-2: 各市で 2,000 部の観光地図（初版）が印刷される
 3 市の地図はそれぞれ 2,000 部印刷された。
- (3) 指標 2-1: 各市の 10 箇所で観光地図が配布される
 各市 35 社の配布業者を選出し、トレーニングを行った。
- (4) 指標 3-1: 少なくとも月例で CAT ラウニオンが観光地図情報の更新が行われる
 観光地図作成業務を通じて、CAT ラウニオンをはじめ関係者間では情報共有されており、観光地図情報の更新が必要になった場合、CAT ラウニオンが更新の実施が行われる体制が整っている。2013 年 5 月末時点では新たな観光地図情報は確認されていない。
- (5) 指標 3-2: CAT ラウニオンが観光地図で更新された新しいビジネスや店をモニターしている
 CAT ラウニオンが、定期的に首都 CORSATUR や CAT とコミュニケーションを取り、新しいビジネスや店をモニターしている。2013 年 5 月末時点では新たなビジネスや店の情報は確認されていない。

3. 終了時評価

- (1) 妥当性：高
 本案件は、CORSATUR が選定したパイロットプロジェクトである。地域住民による観光地図の作製・配布を通じて、地域愛が育まれるとともに、ローカル CDT との連携が強化された。さらに、地元関係者による管理運営・資金調達能力が強化された。したがって、本パイロットプロジェクトの妥当性は高いと判断される。
- (2) 有効性：中
 「対象 CDT は地図情報システムの運用を継続的にできる」というパイロットプロジェクトの目的について、CDT メンバーは、地図作製のトレーニングを受け、地図情報システムの維持管理を担う地域 CDT 地図小委員会を通じて効果的なネットワークを構築することができた。
- (3) 効率性：中
 各 CDT で、随時ミーティングが開催され、CDT メンバーをはじめ、地域ネットワークが強化された。維持管理方法の評価は高かった。プロジェクト内で開催されたミーティングを通して各 CDT 間のコミュニケーションが著しく改善され、地図小委員会が形成された。これによりプロジェクトの継続性を確保し、他の CDT への普及も可能となる。

(4) インパクト：中

パイロットプロジェクトの参加者は、資源の価値を再認識するとともに、プロジェクトをフォローアップする能力を身につけた。メンバーは、各 CDT の組織が強化されたと評価している。今後も、さらに活動を強化し、より多くのツアー利用者に配布できるように、いくつかの地域では地図を増刷する必要がある。

(5) 自立発展性：高

地域 CDT のもと、地元関係者によりプロジェクトのフォローアップを行う地図小委員会が形成された。この委員会のメンバーは、地図の作製・配布・資金調達に関するノウハウを習得している。

(6) 参加した各 CDT メンバーの評価結果：高

システムの構築に参加した多くの参加者は、地図作製や資金の調達・管理に関わる技術・ツール・手法を習得できたこと、地元の資源の価値を再認識できたこと、チームワークの方法を学んだこと、等の理由から、今回のプロセスを高く評価している。

(7) ツアー参加者評価結果：やや高い

アンケートに協力したツアー参加者の評価によると、地図で使われている記号が、各コミュニティで何が見られるかをイメージしやすいと回答しており、写真の掲載を提案している。地図の折り方、サイズ、紙質の評価は高く、高い満足度を得るためにも地図は重要と回答している。改善点については、主要都市の地図はサイズを大きくした方が良いという意見が多かった。

(8) 総合評価：やや高い

CORSATUR カウンターパートとのコミュニケーションは改善が見られ、初期段階では観光地図の印刷に若干の遅れが生じたものの、コミュニティマップについては良い結果が得られた。現在、プロジェクトに参加した各 CDT は、プロジェクトを継続し、逐次改善を加えていくのに必要な能力やリソースを十分に備えていると思われる。CDT を中心に地元の観光資源に対する意識は高く、参加者はプロジェクトが中長期的に自立発展するよう今後も取り組んでいく用意がある。したがって総合評価は、やや高いと判断される。

4. 教訓と提言

MITUR-CORSATUR-JICA、パイロットプロジェクトに参加した 3 つの CDT、地域 CDT、CORSATUR が推奨したローカルコンサルタントが形成するチームが実施した分析結果を以下に示す。

(1) 以下の考え方から、コミュニティマップを作製することが妥当性と判断される。

- a. パイロットプロジェクトに参加した各 CDT の経験からも明白なように、コミュニティマップを作製すること、計画立案のメカニズムの設立、参加行動、資金調達のメカニズムを構築することにより、地域の CDT の組織強化に結びつく。

- b. 観光目的地のマネジメントにおいて、コミュニティマップを準備しておくことは極めて重要な戦略である。
 - c. コミュニティマップを整備しておくことは、観光目的地としての当該コミュニティの成熟度を表し、ビジターに安心感を与え、より長時間滞在し、さまざまな活動を楽しむモチベーションとなる。また、友人や家族にもリコメンドする行為につながる。
- (2) 地図作製の波及効果を広め、地元関係者のキャパシティ強化を図るために、以下のことが提言される。
- a. 開始当初からオーナーシップを持ってリーダーシップを発揮するグループでプロジェクトを実施する。グループは、地図作製プロセスの計画、人集め、情報共有、指導できるものとし、このグループがプロジェクトのセルフマネジメントと継続性を確保すべくそれまでに蓄積された教訓を取りまとめ、共有する。
 - b. 地元関係者の強みを伸ばし、弱みを克服するため、現状のキャパシティをまず調査し、その結果をもとにプロジェクトを実施する。
 - c. プロジェクトには、計画立案、運営管理をテーマとしたワークショップを含める。その中で、地図の作製を実例として取り上げ、参加者がコミュニティレベルの観光プロジェクトの実施・運営を支援する方法を習得できるようにする。
 - d. 地元の資源の価値を再認識するための会合により多くの参加者を募り、参加型プロジェクトとする。それにより、地元の誇りを取り戻し、満足感を高めることができる。
 - e. プロジェクトの意思決定に関わる全ての関係者は、リーダーグループの調和的發展を確保する意味でも、各種会合に参加しなければならない。
- (3) 地図作製をより低コストかつ効率的におこない、インパクトを高めるために以下のことが提言される。
- a. 綿密に練られたスケジュールに従って作業を進め、期限を厳守する。
 - b. 周辺環境の変化やプロセスを通して蓄積した教訓を反映させるべく定期的に評価・調整を行う。これらの教訓を取りまとめ、関係者間で共有する。
 - c. 地域リーダーを明確に定め、プロジェクト関係者が連携して同じ方向に向かって活動できるようにする。これにより、プロジェクトの自立発展性を脅かす障害を回避する。
 - d. 資源のインベントリーを体系的に行い、必要な資金援助を取り付けるとともに、これをアップデートする方法を確立する。
- (4) より効果的に地図作製するために以下のことが提言される。
- a. 各コミュニティで、より多くの人々の参加のもと、十分な検討や分析を重ね、地図に落とし込む情報をフィルタリングする基準を定める。何を基準とするかは各市、各コミュニティによって異なる。
 - b. 情報収集に使用する調査票には、クライアントとのやり取りの中で予想外の状況

に遭遇した場合の対応などについて調査員への指示事項を明記する。

- c. コミュニティやツアー利用者により地図の内容を検証してもらうために、地図を印刷する前にフォーカスグループを開催できるよう十分な時間を確保し、これによりターゲット市場へのアプローチをより効果的に行えるようにする。
- (5) プロジェクトの自立発展性を高める上で以下のことが提言される。
 - a. 地域のリーダーグループがオーナーシップを持ってパイロットプロジェクトで作製したツールを活用し、プロジェクトに取り組む。
 - b. 地図の宣伝広告用のスペースを販売する。これにより地図作製にかかる費用を捻出することができるだけでなく、観光に関連するビジネスの収益性を改善し、ひいてはコミュニティ全体の収入アップにつながる。
 - c. 適切な資金管理計画を策定し、税務当局のみならず関係者、特に組合や委員会メンバーに対して会計の透明性を確保する。
 - d. 地図がもたらすインパクトについて意見調査等のモニタリングを継続的におこない、広告主にアピールする。
 - (6) 地図の実用性や持ち運びの利便性を高めるため、以下のスペックの採用を提案する。
 - a. ポケットサイズの折りたたみ（8cmx11cm）
 - b. 軽量で柔軟性の高い紙質
 - (7) 地図の読みやすさを向上するために、以下のことを提案する。
 - a. 環境にやさしいルーラル・ツーリズムのコンセプトを強調する紙質（マット紙、光沢なし、可能であれば生物分解性の紙、太陽光の反射が少ない材質）を使用する。
 - b. 位置関係がわかりやすいよう、グリッドに番号を付ける。
 - c. 各種サービスやアトラクションの番号を順番に左から右にふる。
 - d. 地図に使用する記号の凡例を地図の下または右側に掲載する。
 - e. 東西南北がわかるように方位記号を挿入する。
 - f. 地図左下に縮尺記号を挿入する。
 - g. 地図の背景の色を薄くする。
 - (8) 地図がより魅力的で判読しやすいよう、以下のグラフィックデザインを提案する。
 - a. 各コミュニティの性格に適した色使いをする。
 - b. 見やすく楽しい記号を使う。サービスやアクティビティがすぐに探し出せるような色コードを使用する。
 - c. 旅行者の訪問や消費を促進するような、興味をそそる有益な情報が伝わりやすい魅力的なアイコンや写真を使用する。
 - (9) 地図を効率的・効果的に配布するために、以下のことを提言する。
 - a. コミュニティマップを現地、すなわちビジターが到着する場所で配布する。
 - b. 利用者が混乱しないよう、地域外でコミュニティマップを配布しない。
 - c. 配布業者を適切に選出し、適切な人に地図を配布するよう指導する。

- d. 配布状況を管理し、無駄遣いを避けるため、適正価格で地図を販売する。特定の施設で利用者に地図を無料で配布してもよいが、その場合も当該施設は組合に対し地図の対価を支払わなければならない。これにより利用者を適正に選んでいると確信を持つことができる。

II: 観光標識整備

1. 活動内容

(1) パイロットプロジェクト開始後の活動内容

1) キックオフミーティング

本件パイロットプロジェクトの活動内容について、CAT ラウニオンと共に PDM を作成しながら情報を共有し、その後、対象となるラウニオン、コンチャグア、インティプカの各 CDT に対しキックオフミーティングを実施した。その中では、PDM および PO の説明、CORSATUR (CAT ラウニオン) および CDT を含む「エ」国と JICA プロジェクトチーム側の投入内容について協議し、以下の内容で整理された。

表 II-1 「エ」国および日本側の投入内容

投 入	
「エ」国側	日本側
人材： <ul style="list-style-type: none"> - CORSATUR : Martha Cristina - CAT ラウニオン : Sandra Natzumin, Raul Torres - CDT メンバー 用地と施設： <ul style="list-style-type: none"> - 標識が設置される土地 費用： <ul style="list-style-type: none"> - 設置費用 (労務費) - 設置箇所にかかる税金 	人材： <ul style="list-style-type: none"> - JICA 専門家 費用： <ul style="list-style-type: none"> - 観光標識にかかる費用

2) 活動 1-1: 地域の観光資源・観光施設を認識する

CAT ラウニオンおよび CDT の間で、第一年次で実施した参加型ワークショップの結果および現地踏査のレビューを行い、各市の持つ観光資源・観光施設を再認識した。

3) 活動 1-2: 観光標識で案内する観光資源・観光施設を選定する

上記協議の結果、各市において CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT の間で観光資源が整理され、観光標識整備の候補となる観光資源・観光施設が選定された (表 II-2)。特に地元 CDT の意見を汲み取り、また CORSATUR や JICA プロジェクトチームの知見 (国内外の事例) も合わせ、協議が行われた。

表 11-2 観光標識整備の対象となる観光資源・観光施設

市	観光資源・観光施設	整備するサイン	選定理由
ラウニオン	ラウニオン市棧橋	歓迎用観光標識 観光案内板	島巡り・観光地図パイロットプロジェクトとの連携
	CAT ラウニオン（観光案内所）	案内標識	整備不足
	サカティージョ島	歓迎用観光標識	整備不足
コンチャグア	コンチャグア火山	案内標識	整備不足
	コンチャグアビーチへの分岐点	案内標識	整備不足
	中央公園	観光案内板	観光地図パイロットプロジェクトとの連携
インティブカ	エステロンビーチ（マングローブ林）	案内標識	整備不足
	マングローブツアー	観光案内板	マングローブツアーパイロットプロジェクトとの連携



ラウニオン市棧橋



CAT ラウニオン（観光案内所）



コンチャグア火山の山頂から見たフォンセカ湾



エルエステロンビーチ（マングローブ林）

4) 活動 2-1： 新たな観光標識のデザインを作成する

観光標識を矢印型にすることで、観光客の利便性を確保し、また、矢印の先に旅先への高揚感を生み出すことを考慮し、新たな観光標識のデザインを作成した。文字に関しては、フォントや色などは CORSATUR のマニュアルを尊重しながらも、将来的に見込まれる外国人観光客も見据え、西語・英語併記による観光客にやさしい観光標識を作成した。また、西語・英語併記により、地域住民および外国人観光客とのコミュニケーション手段が改善され、地域住民のホスピタリティ向上も期待される。

観光地図パイロットプロジェクトとの連携を兼ねて、観光地図を貼り付けた観光情報板がラウニオン市の棧橋（2カ所）、コンチャグア市の展望台（1カ所）、

マングローブツアーの管理事務所（1カ所）用に作成された。

以前 CORSATUR が設置したコンチャグア火山の歓迎用観光標識が適正な位置に設置されていなかったことから、その材料を再利用した。より観光客へのインパクトを出すために当初スチールの支柱であったものを木材に変更し、色も火山のイメージに合ったものに変更し作成した。

観光客を温かく迎えるというコンセプトの下、歓迎用観光標識および観光情報板については、木材を利用し作成した。また、使用材料に関しては、地元またはサンサルバドルで入手できるものとし、維持管理に配慮した。

	
<p>矢印型の観光標識 (エルエステロンビーチ、インティプカ市)</p>	<p>西語・英語併記の観光標識 (エルエステロンビーチ、インティプカ市)</p>
	
<p>木材を使用した観光標識 (コンチャグア火山)</p>	<p>木材を使用した観光標識 (良い旅をエルサルバドル-ラウニオン)</p>

5) 活動 2-2 : CORSATUR と JICA プロジェクトチームが観光標識を準備し、CDT が設置する

観光標識の設置許可に関しては、全ての許可が得られた。しかしながら、コンチャグア火山内の環境保護地域では、環境省の設置許可の取得に時間がかかったこと、また、ラウニオン市の栈橋に関しては、FISDL（施工側）からラウニオン市役所への引渡し大幅に遅れたことなどの理由により観光標識の設置に関する活動が遅れた。

観光標識の設置箇所の変更

- A. 当初計画していたラウニオン市での CAT ラウニオン（観光案内所）までの道順を案内する観光標識に関し、CORSATUR より 2013 年に CAT ラウニオン

事務所が移る可能性が判明したため、作成および設置を取りやめた。

- B. ラウニオン市棧橋に設置する観光情報板について、当初 1 ヶ所を計画していたが、フォンセカ湾（島巡りツアー）の案内図と市街の案内図が必要であると判断したため、2 ヶ所に増やした。
- C. コンチャグア市の中央公園に設置する予定であった観光情報版について、市役所から設置許可が下りなかったことから、2012 年に CORSATUR が建設した展望台の一部を利用し設置することとなった。計画では木製の板と支柱の構造であったが、木製の支柱が不要になったことから、これを上記 B. の棧橋用に転用することとした。
- D. マングローブツアールート内に観光ポイントの名称の標識（6 ヶ所）が必要であるという CDT からの要望があり、ラウニオン市で製作された歓迎用標識の木材の余り部材を利用して作成された。

以下に観光標識の設置概要を記載する。

市	サイト	標識の種類	計画数量	実施数量	備考
ラウニオン市	ラウニオン市棧橋	歓迎用標識 / 木製	1	1	
		観光情報板 / 木製	1	2	変更理由 B
	CAT ラウニオン（観光案内所）	案内標識（小） / スチール製	12	0	変更理由 A
	サカティージョ島	歓迎用標識 / 木製	1	1	
コンチャグア市	コンチャグア火山	案内標識（大） / スチール製	4	4	
		案内標識（小） / スチール製	10	10	
		歓迎用標識 / 木製	1	1	
	コンチャグアのビーチへの分岐点	案内標識（大） / スチール製	1	1	
中央公園 展望台	観光案内板 / 木製	1	1	変更理由 C	
インティブカ市	エステロンビーチ（マングローブ林）	案内標識（大） / スチール製	2	2	
		案内標識（小） / スチール製	8	10	2 ヶ所増
	マングローブルート内	案内標識 / 木製	0	6	変更理由 D
	マングローブ案内図	観光情報板 / 木製	1	1	
合計			43	40	

6) 活動 3-1: CDT と CORSATUR が設置された観光標識ならびに既存の標識の維持管理項目を整理する

以下の項目で整理した。

1. 観光標識パイロットプロジェクトの概要
2. 使用材料の名称、規格、購入店、価格
3. 維持管理方法（盗難対策、クリーンアップ方法）
4. 緊急連絡先
5. 添付資料（デザイン図、レター等）

7) 活動 3-2: CDT が地元コミュニティを巻き込んだ維持管理行動計画をつくる

1. 維持管理方法（盗難対策）

1) ラウニオン市

- ・ 設置された観光標識はすべて棧橋内にあり、棧橋には 24 時間の警備態勢が整えられることから、警備員を通して随時状態を見廻ることとした。
- ・ ラウニオン CDT 代表の住む家が棧橋の近くにあるため、彼が見回りを実施することとした。

2) コンチャグア市

- ・ 設置されたコンチャグア火山までの案内標識 14 ヲ所のうち 2 ヲ所が切断された。CDT が汗水流し設置した観光標識が被害にあったことから、彼ら自らで以下の対策を検討した。

新聞などメディアを利用し、再犯を防ぐために広報する。

各市町村の地域住民組織 ADESCO(Asociaciones Desarrollo Comunal: コミュニティ開発地域組織) を利用し各観光標識を見廻る。

コンチャグア火山には軍隊の基地があることから、彼らにも見回りの協力を得る。

3) インティプカ市

- ・ CDT やマングローブツアーに関係するスタッフなどが定期的に見回りを実施する。

その他の項目(観光標識パイロットプロジェクトの概要、使用材料の名称、規格、購入店、価格、維持管理方法(クリーンアップ方法)、緊急連絡先については、CORSATUR、CDT と共に作成された。

8) 活動 3-3: CDT が維持管理行動計画を実践する

CDT コンチャグアでは、いくつかの観光標識が損傷し、被害にあったことから、周辺住民(特に標識設置場所周辺)へ観光標識への損傷、落書き、盗難などされないように見回りを実施することを依頼した。

今後は、各週もしくは各月に CDT 代表へ観光標識の見回りを報告するシステムを構築し実践する。

観光標識やその周辺を、月に一度清掃を行う。また、観光客が多く訪れるセマナサンタ、年末年始などが近づいてきたら、清掃を行うようにする。2013 年 2 月 13 日には CAT ラウニオンや CDT によって落書きされた観光標識の清掃を実施した。

(2) 遭遇した問題とその解決

- 1) 「キックオフミーティング」から「観光標識で案内する観光資源・観光施設の選定」まで、CAT ラウニオンおよび各 CDT と共に複数の打合せを実施してきた。しかしながら CDT のメンバーはこの活動以外に本業を持っており、メンバーが一堂に会することは簡単ではなく、CDT の異なるメンバーに同じことを何度も説明する場面が多々あった。

本件対象の CDT は、CDT 代表の意見を尊重する傾向があると判明したため、打

合せ時には、先に CDT 代表の出席を確保し、効率的な協議を行うことができた。今後は、CDT 内部で十分な情報共有ができるよう、CDT 内部のコミュニケーション能力の向上も図った。

- 2) ラウニオン市の棧橋に設置する観光標識に関しては、今までラウニオン CDT と打合せを続けてきた。CDT メンバーの中には市役所職員もあり、彼を通して市役所内でも情報が共有されていると考えていたが、全く共有されていなかったことが判明した。

ラウニオン市棧橋は、2012年3月にラウニオン市役所に引渡しされる予定であったが、工事が大幅に遅れ、2013年3月に引渡しされた。上記の理由により、同年2月の末に急遽 CDT ラウニオン代表とラウニオン市長が棧橋の現場を視察しながら設置場所の確認を行う場を設けることとなった。

このように全ての許可に関しては、CDT 代表や市長など組織の長が決定権を持っており、その下のメンバーは決定権を持っていないため何かを決める場合は時間を要した。

2. 指標の達成度

- (1) 指標 1-1: 各市において CDT と CORSATUR の間で観光資源選定の打合せが行われる
計画とおり、各 CDT と CORSATUR の出先機関である CAT ラウニオンとの間で観光資源選定の打合せが実施された（達成度 100%）。
- (2) 指標 1-2: 各市において CDT と CORSATUR の間で観光資源が整理され、観光標識整備の候補となる観光資源・観光施設が選定される
各 CDT と CAT ラウニオンとの間で協議および現地状況の確認を実施した。その結果、観光資源が整理され、観光標識整備の候補となる観光資源・観光施設が選定された。（達成度 100%）。
- (3) 指標 2-1: 各市において CDT と CORSATUR の間で観光標識のデザイン作成についての打合せが行われる
各 CDT と CAT ラウニオンおよび CORSATUR との間でそれぞれの観光標識に関するデザインの打合せを実施された。特に、関係者と設置が予定される場所を訪れ、設置場所の現況を確認し、また効率的で地域の風土を考慮し、観光客にやさしい観光標識のデザインをまとめた。（達成度約 100%）。
- (4) 指標 2-2: 各市に複数の観光標識が設置される
ラウニオン市では 3 カ所、コンチャグア市では計画 17 カ所、インティプカ市では 19 カ所観光標識が設置された。設置計画と実際に設置された観光標識の状況は、1.(1) 5) 活動 2 - 2 に記載した。（達成度 100%）

(5) 指標 3-1: CDT による維持管理行動計画が作成される

維持管理行動計画の項目を決め、詳細を協議し作成された。(達成度 100%)

(6) 指標 3-2: 各 CDT の行動計画に基づく維持管理が実践される

維持管理行動計画を作成しながら、維持管理を実践した。(達成度 100%)

3. 最終評価

(1) 妥当性: 高い

CORSATUR によって選定されたプロジェクトであること、またラウニオン県では観光標識のような基礎的な観光施設の整備はまだ遅れているため、本プロジェクトの妥当性は高い。

(2) 有効性: 中

「関係者が活動を通じて観光標識の整備に関わるノウハウと教訓を得る」というプロジェクト目標に対し、観光標識で案内する観光資源の特定や設置箇所の打合せを実施し、観光標識の材料やデザインをまとめた。

(3) 効率性: 中

「エ」国側の投入のうち、現地の CAT ラウニオンおよび CDT に関しては、現地で共に活動できているので技術移転の観点からは効率的な業務ができた。しかしながら、首都の CORSATUR にいるカウンターパートについては、なかなか現地に来ることができない事情があり、メールや電話で情報共有する機会が多く、効率的な技術移転ができなかった。

(4) インパクト: 中

本パイロットプロジェクトで CDT の手によって設置された観光標識が盗難にあった。今までは、標識の損傷や盗難があった場合「運が悪い」、「しょうがない」と、特に対策をとってきていなかったが、今回の件をきっかけに CDT や CAT ラウニオンが自ら対策を検討し、新聞に情報を掲載し広報する、市役所を通して地元住民の組織 ADESCO を利用し見廻る、観光標識を設置した周辺にいる軍隊にも見廻りの協力を得るなどの対策が実施された。

(5) 自立発展性: 中

本パイロットプロジェクトの実施前では、CORSATUR が標識会社に直接依頼し観光標識を設置していたが、正確な観光地の名称や的確な設置場所の確保などに関し、いくつか問題が生じていた。

本パイロットプロジェクトの実施を通じて、CDT、CAT など地元コミュニティをうまく巻き込み、観光地の名称や的確な設置場所の確保にも問題なく実施されたことから、今後は、常に CORSATUR が観光標識を設置する場合は、その地元の CDT もしくは CAT を通じて設置前に標記や設置場所の最終確認を行うこと、また設置時には CDT に立ち会いしてもらうことを推奨する。

木製の観光標識に関しては、他の観光地からも設置したいというニーズが多くなれば、パイロットプロジェクトとして実施している CDT の経験や教訓を活かして、自立発展的に継続すると予想される。

(6) 総合評価：中

総合的な評価は、観光標識の設置許可の取得に時間がかかったが、CORSATUR、CAT ラウニオン、CDT と共に設置場所の検討、デザイン、設置、維持管理を検討し実施できた。

また、プロジェクト実施期間内にいくつかの観光標識が盗難にあってしまったが、この件を機会に維持管理方法をより深く検討することができた。

4. 教訓と提言

<連携>

CORSATUR では、本件で実施しているラウニオン 13 市以外の地域でも観光標識を設置しているが、観光標識の情報の誤標記、間違った場所への設置などの問題がいくつか発生している。

CORSATUR 内では、CDT や CAT を扱う部門 (Gerencia Territorial) と観光標識など観光インフラを実施している部門 (Gerencia de Proyectos e Inversión: 本パイロットプロジェクトの C/P) との間で情報共有があまり促進されていないことが挙げられる。この部門間が密に連携されることにより、地元観光関係者 (CDT、CAT) をうまく巻き込み、それを活用することで、観光地の名称や的確な設置場所の確保が可能となると考える。

よって、観光標識を設置する前には、CDT や CAT を扱う部門を通じて、観光標識に記載される情報や設置場所の最終確認を実施し、設置時にはそこに住む CDT や CAT もしくは地元住民を立ち合わせることが必要である。

また、これ以外の部門間との密な連携によって、より魅力的で効果的な観光施設が実現可能になると考える。

<維持管理>

CDT や CAT ラウニオンが自ら観光標識を設置することにより、その標識に愛着を持ち、大切にしている気持ちが生まれたことから、盗難にあった時には、今ままで盗難対策を特に検討していなかった地元観光関係者や住民が、自ら対策を検討するようになった。

これは観光標識やそれ以外の観光施設の維持管理にも繋がる事例であり、今後も本プロジェクトで実施した経験を活かし、CORSAUR では彼ら地元観光関係者をうまく巻き込むことにより関係者間の連携をより一層強化し維持管理に努めてもらいたい。

5. トピックス

観光標識の活動が、全国紙 El Diario de Hoy (2013 年 3 月 2 日付) に紹介された。

Instalan señalización para guiar turistas

Pese al beneficio, vándalos han comenzado a dañar las señales que recientemente fueron colocadas.

Insy Mendoza
comunidad@eldiariodehoy.com

LA UNIÓN. Como parte del apoyo al turismo, desde 2011, la Agencia de Cooperación del Japonesa (JICA), en coordinación con el Ministerio de Turismo impulsan un proyecto para señalar las zonas de turismo de los municipios de La Unión,

Conchagua e Intipucá. Son 40 señales las que fueron ubicadas y el costo del proyecto es de unos 18 mil dólares, según Haruhisa Ishikawa, técnico del Jica. "Los miembros de los comités locales de turismo de cada municipio nos han

ayudado con la mano de obra en la colocación de las señales", dijo el japonés. La instalación más reciente se hizo en la zona protegida del volcán de Conchagua.

El costo de las señales ubicadas en esa zona es de unos 500 dólares y están hechas a base de madera y lámina. Luis Díaz, presidente del Comité de Turismo Local de La Unión, afirmó que "hemos colaborado en la ubicación con la mano de obra".

Pese al esfuerzo, las señales ya han comenzado a ser objeto de actos vandálicos.

Una de las primeras señales fue hurtada y otra la cortaron con intenciones de llevársela, dijeron los vecinos.

Los actos vandálicos ocurrieron en las comunidades de Yologual y Finquita de la jurisdicción de Conchagua.

Sobre el daño, Ishikawa confirmó que una se la hurtaron por completo y que

tenía un costo de unos cien dólares, la otra fue recuperada tras ser abandonada en el mismo lugar.

Por su parte, Díaz aseguró que "es lamentable que una ya se la robaron; este es un esfuerzo entre el Jica, el Mitur y nosotros los miembros del comité".

Agregó que es inaudito que apenas las acaban de colocar y ya las hayan hurtado con el único fin de dañar el trabajo en la comunidad.

Alexander Romero, un habitante, dijo que el que haya hurtado una señal es un mal mensaje para el turista

por la situación delincuencial y que necesario que ese tipo de acciones no se repitan en las zonas beneficiadas con el proyecto.

"Darle el mantenimiento a todas las señales será responsabilidad de los comités de turismo local, nosotros haremos coordinaciones con las alcaldías para que nos apoyen", dijo Romero.

Agregó que a partir de lo registrado, comenzarán a tener más cuidado en la zona para evitar se sigan hurtando las señales, y que además pedirán seguridad en la zona para prevenir el hurto.



Los encargados del proyecto seguirán colocando más señales para guiar a los turistas de los municipios beneficiados. FOTO ESH / INSY MENDOZA

III : マングローブツアー

1. プロジェクト開始後の活動内容

(1) 活動

1) カウンターパートおよび関係者の紹介と会議

MITUR/CORSATUR、CAT ラウニオン、および CDT の関係者が集まり、プロジェクトの基礎固めをするための会議をもち、パイロットプロジェクト実施の重要性を説明し、マングローブツアーの PDM と実施上の仕組みを説明しながらそれぞれの業務範囲を決めた。この会議を通じて、プロジェクトを遂行するうえでの実施母体、内容をそれぞれ特定した。また、プロジェクトを実施するうえでの投入内容が以下のとおり整理された。

表 III-1 「エ」国および日本側の投入内容

投 入	
「エ」国側	日本側
人材： CDT CORSATUR/CAT ラウニオン、 インティブカ市 資機材： 国内事例研修の手段 施設： CORASTUR、CAT ラウニオンおよびインティブカ市事務所、エステロンの海岸、カヤック倉庫	人材； JICA 専門家、研修トレーナー 資機材： ワークショップ資機材とカヤックなどツアー用機材 資金： ファムトリップとパンフレット作成の費用

2) PDM の紹介と説明

MITUR/CORSATUR のカウンターパート、CDT、およびインティブカ市長に対し、PDM の素案を説明し、プロジェクトの全体像や遂行上の課題について議論した。この中でプロジェクトをより効果的にするための詳細な実施計画が提案され、PDM の内容を確定した。この PDM を CDT インティブカに対して提出して意見交換し、その後その承認を求めた。

その一方で、CDT 組織の企業化と法人化の促進を支援し、同時にマングローブツアーの運用のための観光協会創設の可能性を求めて、この点に関して CONAMYPE からの支援も考慮した。特筆すべき点は、インティブカの環境保全のための青年会議（AJPI）を受益者グループに含めるように要請していることである。この AJPI は 2011 年に 20 人で創設され、現在、自然資源の保護とその案内者としてのトレーニングを受けている。しかし、彼らにはこの 2 つの活動以外は特に動きがないのが現状であった。

		
CDT メンバーとの意見交換会	ポテンシャルを特定するための現地視察	地域内の釣り人

3) 活動 1-1：関係者がマングローブに生息する動植物のインベントリーリストを作成する

マングローブツアーのために開発されるマングローブ地域のルートやガイドによる解説を整理するために、地域の自然資源を確認した。これは、AJPI によって既に実施されている、既存の自然種インベントリーを見直し、評価を行い、インベントリーリストに優先順位を付けている。

		
<p>現地視察で遭遇した鷺</p>	<p>マングローブツアー実施地域 (インティプカ市エルエステロン海岸)</p>	<p>インベントリーデータベース</p>

4) 活動 1-2 : 類似の成功事例に係るファムトリップを行う

2011年11月24, 25日に MITUR/CORSATUR、CAT ラウニオン、CDT、JICA プロジェクトチーム、CONAMYPE および NGO の Eco experiencias が参加して、ウスルタン県にあるメンデス島およびヒキリスコ湾へ先行事例の視察研修を実施した。2日間にわたって参加者達は、それぞれ異なる協会やグループの経験を分かち合いながら、組織化された協会が、如何に管理しているかを学習することができた。また研修の中でレストラン、宿泊施設、ガイドとの交流を持ち、ネットワークを持つことができた。この経験によって、協会がプロジェクトの実施に強く関心を持ち、また操業中に避けなければならないような負の面を特定できるなど、多くのアイデアが生まれた。

		
<p>研修旅行のためのロジスティックの準備</p>	<p>ヒキリスコ湾パラダ港の地域博物館視察</p>	<p>メンデス・アルベルゲ・ラ・トルツァガ島でのコミュニティとの意見交換会</p>

5) 活動 2-1 : CDT とマングローブに関連する地元団体をベースとした実施団体を設立するとともに定款を作成する

CDTとインティプカ環境保全のための青年会議が参加して行ったワークショップで、合意した事項は以下のとおりである：

2つの組織は法的目的のために、先ずインティプカ CDT として法人化する手続きを開始し、これをインティプカ観光開発協会 (ADESTI) として登録する。AJPI を登録すると同時に、インティプカ観光協同組合を創設、組織化、法人化する手続きを始めた。これは両方の組織を含めたものであり、明確な業務範囲を定め両者対等の条件でマングローブツアーを運用する組織として設立される。

なお、これら実施団体の組織化、法人化は運営主体を明確にすることにより、カヤックなどの機材の管理、予約の管理とツアーの実施、金銭の収受と会計（利益）の確定などの責任を負えることになる。

協同組合は、2013年5月18日に正式に承認された。登録された正式名称は、エル・グラン・アルコ・デ・ラ・ボカ・インティプカ（インティプカの大きな口という意味でマングローブ林の形状を示している）協同組合となった。

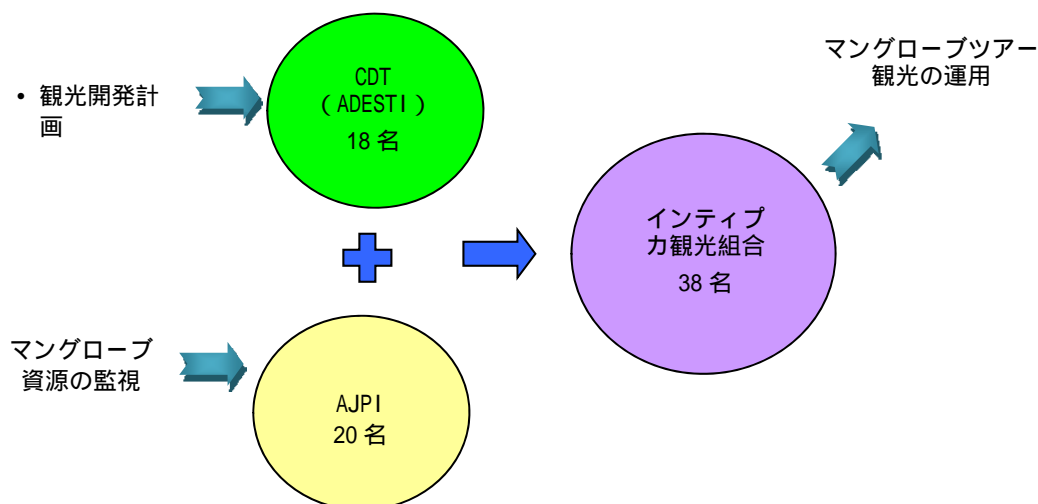


図 -1 インティプカ観光組合の創設

6) 活動 2-2: 実施団体にマングローブツアーの計画と運営に係る研修を行う

赤十字による応急救助など、マングローブツアーの運営に関する全研修が終了した。さらに、協同組合スタッフや地元の協力者を対象に経営強化等、新たな研修テーマが拡大されている。

7) 活動 2-3: 実施団体の登録を行う

協同組合定款が INSAFOCOOP に提出され、承認申請手続きがおこなわれていたが、2013年5月18日に認可された。

8) 活動 3-1: マングローブツアーのルートや観光商品を開発する

4つの基本ルートが設定され、さらに2013年3月には2つの新たなルート（ボート / 市内山間部のトレッキング / 宿泊を含むバックツアー等）の販売と宣伝活動が行なわれた。その他、学校や大学をターゲットにした教育ルート、ボート・ルート、バードウォッチング、観光・環境教育プログラムが計画された。

9) 活動 3-2: 実施団体によるビジネスプランを作成する

実施団体は、年間投資・売上計画を含むビジネスプロファイルを策定し、ビジネスプランについては、協同組合の形成と合法化に関する研修の一環として策定した。

10)活動 4-1： 実施機関によるマーケティング・営業計画を作成する

前項と同様、計画の草案はできていたが、組合メンバーの管理運営研修のなかで、INSAFOCOOP、CONAMYPE、MITUR/CORSATUR、CEDEMYPE の指導を受けながら完成させた。ウェブサイトと営業計画の更新はできている。

11)活動 4-2： 実施機関がマングローブツアーの営業活動を行う

観光フェア、商品プロモーションイベントへの参加、ニカラグア、ホンジュラスへの研修旅行、東部地域のチリラグア、エルクコ、エルエステロン、ラストゥナスなどのビーチにあるホテルへの営業訪問を行なった。ラスフローレス、ラ・トルトゥガ・ベルデホテルのサービスを獲得したグループがあり、国内の旅行会社にビジネス提案書を送付した。

12)活動 4-3： 実施機関がマングローブツアーを実施する

実施団体は、マングローブツアーを効率的に実施し、利用者の満足度調査でも高い満足度が得られた。

		
<p>ホームページの設立 www.intipucatours.com</p>	<p>新しいマングローブツアーインフォメーションセンター</p>	<p>外国人観光客へのマングローブツアーの実施</p>
		
<p>エキスポ・パケーションへの参加。観光大臣と撮影</p>	<p>マングローブツアーのプロモーション用チラシ</p>	<p>赤十字による応急救助のワークショップ</p>

2. 遭遇した問題とその解決

プロジェクト実施中に遭遇した唯一の問題は、AJPIのモチベーションの喪失であった。その理由は、法的・経済的に必要な手続きが彼らの想定外であったことから関係者全員がそれらの手続きに不安を抱いたからである。しかしながら、法人格をもつことが公認されれば組織的業務を積極的に行える点や、法人化するまでの手続きの内容の詳細を彼らに説明することによって、理解が得られた。

- インティプカでは新しい市長が当選した。本プロジェクトは旧市長の協力も大きく、CDT メンバーの中心人物も市役所職員であるため、新しい市長との関係が危惧された。しかしながら、CORSATUR カウンターパートと JICA プロジェクトチームが表敬訪問を行い、プロジェクトの説明をして協力を依頼した結果、新市長から本件を支援する旨の話があった。
- インフォメーションセンターの場所の変更：市長交代により以前計画していたインフォメーションセンターの場所が移動した。現在はカヤックの保管、ツアーの出発地として機能している。施設の賃貸料は実施団体がマングローブツアーで得た資金で支払いを行っている。
- 認証手続き：認証手続きへの支援を依頼した CDMYPE の反応が鈍く、時間がかかった。そのため組合員が直接 INSAFOCOOP（サルバドル協同組合振興機関）と接触し、手続きをしてもらうことになった。1ヶ月以内、3月中旬には認証を取得できることが期待される。結果的には5月に法人化が実現した。

3. 指標達成のレベル

(1) 指標 1-1：受益者は対象地域におけるマングローブのイベントリーリストを作成する

動植物および資源のイベントリーリストが完成した。（達成度 100%）

(2) 指標 2-1：実施機関の定款が作成される

登録と認証取得に向けて組合メンバーの承諾書を添付して申請書が提出された。（達成度 100%）

(3) 指標 2-2：実施機関の主要スタッフがマングローブツアーに係る訓練を受ける

管理運営改善を主題とした新たな研修が企画されているものの、マングローブツアーを開始するにあたって必要な訓練については、メンバー参加のもと実施された。（達成度 100%）

(4) 指標 3-1：少なくとも一つのマングローブツアー商品が開発される

いくつかのルートや商品が開発されたのに加え、新たなルートや観光サービスの開発と評価が進められている。（達成度 100%）

(5) 指標 3-2：ビジネスプランが作成される

実施団体は、すでに投資計画を含むビジネスプロファイルを策定しており、これをベースに CONAMYPE、INSAFOCOOP、大学の専門家の支援のもと一年かけてビジネス開発戦略を策定した。（達成度 80%）

(6) 指標 4-1：ツアー参加者への満足度調査が実施される

ツアー参加者に満足度調査を実施し、各人が体験したことを把握するとともに、サービス内容にフィードバックできる情報を得た。（達成度 100%）

(7) 指標 4-2 : ツアーが少なくとも5つの旅行業者と CORSATUR によって紹介される

旅行業者、CORSATUR スタッフと視察旅行をおこない、ツアー内容を検証するとともに、マネジメント面での改善点についてフィードバックを受けた(達成度 100%)

4. 終了時評価

(1) 妥当性 : 高い

環境破壊の脅威を解消すべく早急に具体的な行動をとるべきエリアを特定した。プロジェクト対象地域では特にダイサギ (Garza blanca) やウミガメの繁殖地等を国レベルのサンクチュアリ (自然保護区) のひとつとすることができた。

(2) 有効性 : 高い

オペレーションのローカルコスト、機材等のメンテナンスや更新、その他、観光サービスの運営や営業に至るまで、会員自らがおこなえるようになり、その意味で、組合メンバーの持続的なエンパワーメントや、組合の組織強化・改善がなされている。サービスを拡大し、より高い利用者の満足度を得るための戦略的パートナー・ネットワークが形成されている。

(3) 効率性 : やや高い

さまざまな機関から低コストあるいは無料で技術支援を受けられるようになり、人材育成への支援がなされている。組合メンバーについても、地域で実施されるその他の横断的なアクションやプロジェクトに時間を割き、特別価格でサービスを提供する等している。

(4) インパクト : やや高い

地域住民が観光客の到着に関心を持ち始めている。観光客の増加にともない、市役所が、市内や海岸の清掃をトッププライオリティに据えた。協力者として登録した業者が商品やサービスの改善を目指してトレーニングを受けることを希望している。

(5) 自立発展性 : やや高い

組織・経営面でしっかりした組合が形成されたことにより、国内の旅行会社に対しマングローブツアーを多様な観光目的地 (multi destination) や多様なアクティビティ (multi activities) のパッケージツアーの一部に含めるよう働きかけ、マングローブツアーの商品化がより迅速かつ直接的におこなえるようになった。また、観光フェアやエージェントのキーパーソンと接触することができ、売り込みの機会が増えた。2012年12月には、組合員に対し必要なユーティリティを配布し終えた。

(6) 総合評価

マングローブツアーは、観光客への対応や、組織化について基盤が徐々に盤石化しつつある。認証手続きにも進捗がみられ、認証取得も近い。組合員は、現在、マーケティングや宣伝広報戦略の策定、さらには新たな商品開発に取り組んでいる。地元のボート業者をツアー商品に巻き込んだほか、ホテル、レストラン、民芸品店、一般消費財の販売業者との提携も進んでいる。

組合員各人に対しておこなったアンケート調査の結果、プロジェクト開始当初と比べて、関係者の姿勢に大きな変化がみられた。環境意識が明らかに高まったほか、サービスや顧客対応に大きな関心を持ち始めている。

道路、レストラン、ホテル、サービスエリア等、地域の観光インフラやアクセス環境を改善する必要がある、というのが共通の認識であった。

組合員各人の姿勢が変化し、ひとりひとりが組織の一員としての自覚を認識するとともに、オーナーシップも高まっている。そのため、認証取得手続きがより迅速かつ効果的におこなえるようになった。

5. 教訓と提言

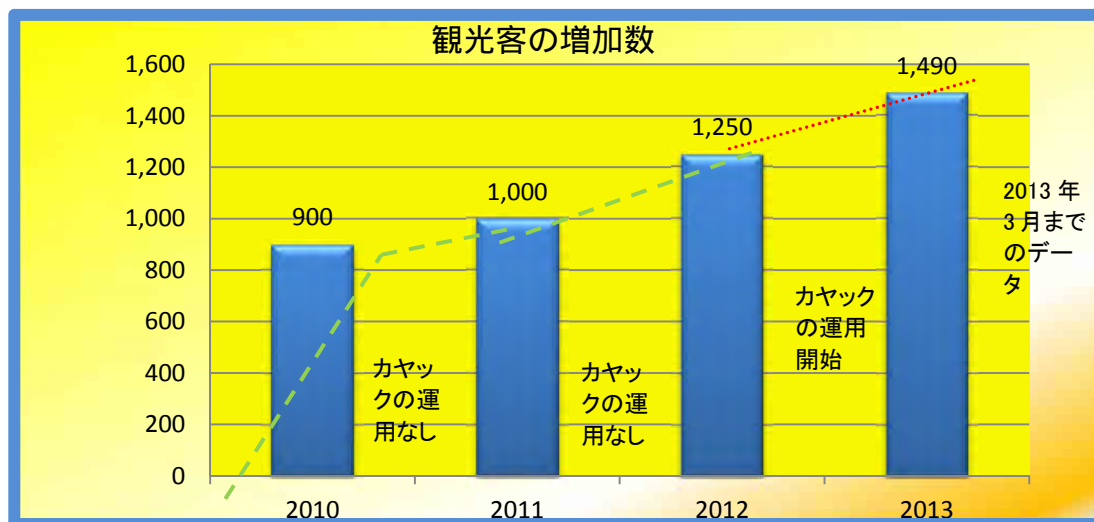
法人化について、他の複数の機関が介入すると、その分やりとりにかかり、手続きに遅延を来す結果となるため、認証手続きは、関係者および担当機関の間で直接実施すべきである。

ターゲットグループの強化をはかるための手段やアクションが用意されている関係機関とターゲットグループの間に直接的な関係性を確立し、関係機関は必要なフォローアップをおこなうことが重要である。実施機関が直接プロジェクトに介入すると、ターゲットグループのオーナーシップが醸成されにくく、実施機関がなにかをやってくれるまで「待ちの姿勢」が抜けなくなる。そのため、組織のなかに商品化に必要なさまざまなアクションをフォローする委員会を形成することが望まれる。

		
<p>協同組合の形成に向けた INSAFOCOOP とのミーティング 2012 年 11 月 14 日</p>	<p>Conchagua / Pasaquina CDT 向け 環境教育ツアー体験 2012 年 2 月 9～10 日</p>	<p>視察旅行用の新たなプロモーション資料</p>
		
<p>マングローブツアーのプロモーション (ホンジュラス・ニカラグア) 2013 年 1 月/2 月</p>	<p>ファミトリップツアー(グアテマラ人 クルーザー・オペレータ) 2013 年 2 月 2 日</p>	<p>定款承認総会 2013 年 2 月 20 日</p>

【トピックス】

サンミゲル県エルクコビーチからエステロンビーチへ移動する観光者の増加：インティプカの協同組合が戦略的な連携を設定したことにより、特にエルクコビーチ周辺にあるホテル（トロピクルブ、ホテルラスフローレス、ホテルラスレオーネス、トルトゥーガベルデ）がパッケージツアーを販売し、観光客が増えている。



出典：CDT インティプカ（2013年3月）

組合員に対する利益配分：2012年12月に当初から加入していた15人のマングローブツアー組合員に対し最初の利益を配分した。この利益は全てのオペレーションコストを計算して利益を算出した。

IV：観光環境教育

1. 活動内容

(1) プロジェクト開始後の活動内容

1) 活動 1-1：CDT が市と協力してプロジェクトのための委員会をつくる

2011年12月8日にキックオフミーティングが行われ CDT から下記5名の委員会メンバーが決定した。

表 -1 観光環境教育のための委員会

	役職	名前
i.	委員長	Pedro Ángel Castro
.	副委員長	Zulianita Marínela Reyes
.	書記（会計、記録）	Rogelio Urbina
.	渉外担当（対 MEGATEC および JICA プロジェクトチーム）	Aida Xiomara Díaz
v.	学校担当（对学校および父兄）	Aida Conseción Turcios

2) 活動 1-2 : 委員会が活動計画を作成する

CDT パサキナのメンバーの中で、観光環境教育に関係するメンバーは、2011 年 12 月に決定した。しかし、その後、本活動に参加しているのは委員長及び学校担当の 2 名のみである状況が続いたため、第 1 校目の学校の準備に対する CDT の具体的な活動計画を立てるには至らなかった。

その後、CAT ラウニオンとプロジェクトチームが主体となって準備を進め、2012 年 6 月末から第 1 校目のプログラムが実施された。実施後も 2 回目までは、上記 2 名のメンバーしか参加しなかったことから、1 クラスに 1 名 CDT のメンバーが同席することを CAT ラウニオンから強く要請し、3 回目以降は毎回 CDT メンバー 4 名の参加は実現された。後半、継続的に参加した CDT メンバーは、2 校目の実施に関しても興味を示し始めた。

2 校目 (INDA : Insittute National de Daniel Arias) の活動は一校目と同じ内容を踏襲したため (当初より内容変更の予定はなかった)、活動計画は学校、CDT、プロジェクトチーム (含む、CAT ラウニオン) の合同打合せにて即決され、スケジュールの確認だけが行われた。さらに、INDA の校長は CDT メンバーであるために、CDT の積極的参加が行われた。

3 校目 (Santa Clara) の実施に際しては、計画前に CDT と CAT ラウニオン間の覚書に活動が CDT 主導にて行われることが明記され、学校、CDT、CAT、JICA プロジェクトチーム間にて活動計画が確認され、さらに JICA プロジェクトチームの関与は最小限となる旨も再確認された。

3) 活動 1-3 : プロジェクトの協力校を選定する資料の収集と分析 :

協力校を選定するため、観光環境教育実施計画に基づき、教育省ラウニオン、パサキナ市役所、各学校の協力を得てパサキナ市内の学校基礎データ収集を行なった。収集した情報は下記の通り。

表 -2 収集データ

.	学校位置図
.	学校毎の生徒数、学年別生徒数
.	学校毎の教師数、教師の専門分野
.	学校からパサキナ中心部までの交通費と時間
.	校長の名前と連絡先、学校の住所

協力校と対象生徒の確定 :

CDT パサキナとの協議により、JICA プロジェクトチームが土曜日の授業 (正規授業外) を想定している場合、市のセンターにて授業を行なうのは難しいため、講師が学校に向いて授業を行なう方が望ましいという結果となった。従って、対象学年 (中高校生) の生徒が 100 人一度に授業ができる規模の学校を第一段階として選考することとなった。

収集資料（添付資料 3）より、中学生、高校生の在籍数が 100 人程度の学校を 7 校選定した。CDT パサキナ、CAT ラウニオン、JICA プロジェクトチームにて個別訪問を行い、プロジェクト内容を各校長に説明し、各学校のこのプロジェクトに対する理解及び熱意を確認した。訪問した学校は下記の通り。

表 -3 訪問した学校

訪問日	学校名
2月3日	C.E. Canton Piedras Blancas
	C.E. Canton San Felipe
	C.E. Casario San Carlos
2月6日	Complejo Educativo Canton Santa Clara
	C.E. Caserio Ruben Dario Velasquez
	Institute Nacional Daniel Arias
	C.E. Ramon Mendoza

上記インタビューの結果から、CDT パサキナおよび CAT ラウニオンと協議を行い、学校および対象学年の選考を行なった。その結果、下記の学校を選定した。

1. ピエドラスブランカス学校（C.E. Canton Piedras Blancas）
2. ダニエルアリアス国立高校（Instituto Nacional Daniel Arias）

選考は下記の 2 点に重点をおいた。その理由は、CDT だけでなくパサキナにおける観光環境教育は初の取り組みであることから、学校の協力および、教師の指導力が重要であると判断したためである。

1. 校長と教師のこのプロジェクトに対する理解および熱意
2. 最終授業（行動計画の実施）に対する見解の明確さ

4) 活動 2-1：委員会がプログラム作成のための支援先を決める

2011 年 11 月 29 日に、CDT パサキナ（学校担当）と JICA プロジェクトチームが、MEGATEC に対し、本パイロットプロジェクトへの支援を依頼するための会議を行なった。MEGATEC からは、プログラムの計画、テキスト作成、講師（学生）の派遣および実施に対する、全面的な協力が得られることが確認された。

5) 活動 2-2：委員会が支援先と協働して観光環境教育ためのプログラムを作成する

テキストの作成：

テキスト

第 1 校目の実施に向けて、テキストを作成した。2012 年 2 月末から MEGATEC の新学年が始まるため、骨子となるドラフトを 2 月中に作成し、学生のアイデアと過去の他団体の実例を取り入れながら作成した。さら 5 月に JICA 専門家チームが現地入りし、内容の再調整が行なわれた。

テキストのモジュールは下記のとおり。

- モジュール 1： 観光とは何か
- モジュール 2： 観光文化とは何か
- モジュール 3： 観光のインパクトと観光の責任

モジュール4： 観光のための環境教育

6月には内容はMITUR/CORSATURによって確認され、その結果、大臣からパサキナの歴史や文化の項目が追記された。

2校目は、高校生用に1校目の小学生対象の内容を改訂・改善し、より適切かつ詳細な内容とした。ただ、モジュールは同様とした。3校目は多少年齢が高くなるも1校目同様、小学校高学年から中学校までが対象年齢のため、1校目のテキストをそのまま使用した。

プログラム

上記テキストのモジュールを元に、下記の日程でプログラムが実施された。

なお、他の2校（INDA/Santa Clara）も同様のモジュール/日程とした。

<Piedras Blancas 校> 2012年

第1回目： 6月29日（金） 観光とは何か、観光文化

第2回目： 7月6日（金） 観光のインパクト（Positive & Negative）、観光の責任

第3回目： 7月13日（金） 観光と環境

第4回目： 7月14日（土） 遠足（第一グループ）

7月15日（日） 遠足（第二グループ）

第5回目： 7月20日（金） まとめとアクションプラン

第6回目： 7月27日（金） アクションプランの実施

6) 活動3-1：活動計画に沿ってプログラムを実施する

6月29日から7月27日にかけて、第1校目のプログラムが実施された。授業は金曜日に実施され、遠足は安全性を考慮し、土、日の2日間で行なった。各授業前日の木曜日には、MEGATECの学生がCATラウニオンに集まり、授業内容の確認及び教え方についての議論を行い、授業の準備を行なった。また、授業後もMEGATECの学生がCATラウニオンに集まり、簡単な反省会を実施した。議論のファシリテートは、CATラウニオン及びJICAプロジェクトチームが行なった。

授業

授業は、前述のプログラムに沿って行なわれた。その他、MEGATECの学生の発案で、生徒によるピエドラスブランカスツアーと、観光に関する寸劇の宿題が出されることになり、それらの実施や発表時間もプログラムに組み込まれた。



授業の様子



Piedras Blancas ツアー



寸劇

遠足

遠足先はインティブカで、カヤック体験、ボートによるマングローブツアー及び環境の授業（インティブカ海辺の動植物）の 3 つのプログラムで構成された。遠足に不慣れな生徒の安全を確保することから、7月14、15日の二日間（土、日）にて、半分ずつでの実施となった。



アクションプラン実施

7月27日のアクションプランの実施には、植林が選定された。（別途授業外に自主的に清掃活動が行なわれた。）

その理由としては、「地名であるピエドラスブランカス（白い石）は名前の通り、土が固く、木を大きく育てるためには十分な管理が必要である。従って、生徒が自分の手で木を植え、管理をすることによって、責任感を持ち、自然や生き物のことを意識するようになる。さらに、継続的に木の管理をすることによって、今回のプロジェクトで学んだことを継続的に思い出すことができる」という先生方の強い希望があったからである。

植林に利用した苗は、Nacional de El Salvador 大学 から 70 本寄付していただき、パサキナの Elgar 氏から 50 本購入すると共に、同氏から 50 本寄付していただいた。



引き続き、上記、日程・活動計画にもとづき 2 校にてプログラムが実施された。

1 校目（午前授業）とは異なり、2 校目は放課後の午後実施したのも出席率が若干下げる結果をもたらした。改めて放課後まで残るといふには生徒には参加する熱意が必要となる。ただ、これは MEGATEC の学生が授業期間であるため（午後なら可能）、やむを得ない措置でもあったが今後は出来る限り避けるべきである。

3 校目も午後の実施となったが、高学年は通常でも学校の 2 部制から午後の授業開

始であり、出席率も高く授業に支障はなかった。MEGATEC の学生も冬季休暇中のために午後の指導が可能となった。

授業

授業は、前述のプログラムに沿って行なわれた。その他、MEGATEC の学生の発案で、観光に関する寸劇の宿題 (Santa Clara)が出されることになり、それらの実施や発表時間もプログラムに組み込まれた。



課外授業 (遠足)

訪問先は以前同様にインティプカとし、カヤック体験、ボートによるマングローブツアー及び環境の授業 (ウミガメとその産卵や保護など) の 3 つのプログラムで構成された。市のバス提供の関係及び、父兄の参加を促進するため 2 校とも二日間 (土、日) に学生を分けて実施した。



アクションプラン

アクションプランは、全ての授業の復習とまとめの後に、自分達で何ができるかを一人ずつ発表する形で行なった。

アクションプラン実施

< INDA >

2012 年 11 月 16 日のアクションプランの実施には、マングローブの清掃が選定された。その理由としては、マングローブはパサキナの重要な観光資源にもかかわらず、その保全・清掃がほとんど顧みられることなく、他のマングローブ林 (インティプカやヒキリスコ湾など) に比べて極めてゴミが多い。

今後、マングローブツアーの企画や実施にはまずそのクリーンアップが喫急の課題であると生徒が認識し、アクションプランとしてその清掃を実施した。学生の一部にはマングローブ林周辺に居住し通学するものの多く、将来の雇用先

としてもマングローブの観光資源化は望むべきところでもある。

< Santa Clara >

Santa Clara 校は国境の側近にあり、国境を流れる河川(比較的透明度は高い)を今後の観光資源としてとられ、その清掃、ならびにアクセス道路脇のゴミの処理をアクションプラン実施に取り入れた。

河川は今後、パサキナ市や木の小舟やゴムボートでの遊覧を企画立案する計画もあり、今後の観光資源として有望と考えた。



アクションプランの実施・マングローブ林清掃 (INDA)



川の清掃(Santa Clara)

その他

INDA の修了証書授与は折しも MITUR/CORSATUR のプロジェクト研修団の日程に合わせて、観光副大臣、JICA 所長、パサキナ市長の出席のもと 11 月 18 日(日)に実施された。

副大臣と JICA 所長両名の署名入り修了証書が生徒代表に手渡され、INDA からはダンスによる歓迎の意が披露された。併せて、式典には 1 校目の Piedras Blancas の生徒 100 名も招待され、校長の感謝の辞とともに、授業内で実施した生徒による寸劇も披露された。



修了証書の授与(INDA)



修了式典(INDA)



修了式典(Piedras Blancas)

7) 活動 3-2 : 定期的に子供たちへの教育成果を確かめる

< Piedaras Blancas >

授業の出席

毎回、生徒の出席を確認した。対象学年の生徒は名簿上 105 名とのことであるが、1 回以上参加した生徒数は 96 名である。6 回全部参加した生徒は 54 名。対象学年外の生徒も、希望者の参加を許可した。卒業生も何人が参加していたが、後半は教室外活動が多かったこともあり、正確な人数は把握できていない。一回以上授業に参加したピエドラスブランカス関係者は(CDT、教師、MEGATEC 学生、プロジェクト関係者を除く) 156 名である。

授業でのレビュー

授業の最初には毎回レビューの時間を設け、ゲームをしながら行なわれた。(アイスブレーキングも兼ねる。)

宿題

ピエドラスブランカスツアー：生徒達が20分のツアーを企画し、MEGATECの学生を案内するという宿題を与えた。7月13日の授業内で実施された。

寸劇：今までの授業の内容や、遠足の経験を踏まえ、1チーム5分程度の寸劇を準備する宿題を与え、7月20日の授業内で実施された。

遠足の感想文：遠足に参加した生徒は、感想文を書いて提出した。

アンケート：全てのプログラムが終わった後に、子供達、先生方、MEGATEC学生へのアンケートを行い、成果の確認を行った。

アクションプラン

7月20日の授業では、今までの授業内容や遠足の経験を踏まえ、今後、何が自分に出来るかを、一人ひとりポストイットに記入し、発表した。

< INDA/Santa Clara >

授業でのレビュー

授業の最初には毎回レビューの時間を設け、ゲームをしながら行なわれた。

宿題

寸劇：Santa Claraでは今までの授業の内容や、遠足の経験を踏まえ、1チーム15分程度の寸劇を準備する宿題を与え、2月15日の授業内で実施された。INDAは時間の制約から実施できなかった。

アンケート：全てのプログラムが終わった後に、子供達、先生方、MEGATEC学生へのアンケートを行い、成果の確認を行った。

アクションプラン

Santa Claraでは2月15日の授業にて、今までの授業内容や遠足の経験を踏まえ、今後、何が自分に出来るかを、一人ひとりポストイットに記入し、発表した。意見の集約として、身の回りの観光資源の清掃と決まり、学校近くの川の清掃と決定した。

INDAでは生徒の期末と重なり、アクションプランの実施の期限が限定されていたため、当初より学校側の強い要望である「マングローブ林の清掃」を選定し、先行して実行した。生徒個々のアクションプランのアイデアについてはまとめやアンケートなどにより個別に発表した。

8) 活動 3-3：子供たちへの成果を各家庭に伝え、家庭での理解度を確かめる

このプログラムへの興味と理解を促すため、遠足には生徒の親も参加した。(子供の安全管理という理由もあった。)参加した親は2日間で50名(生徒の参加数に対し

て 65% ; 生徒参加数 77 名)。前述の感想文を親にも提出するよう依頼した。

INDA/Santa Clara 両校のも参加した。参加した親は両校とも 2 日間で約 40 名。

9) 活動 4-1 : 定期的に活動計画・プログラムの内容をモニタリングする

第 1 校目実施後に、生徒、先生、MEGATEC の学生へアンケートを実施。同時に、MEGATEC (7 月 30 日)、学校 (8 月 10 日)、CDT (8 月 13 日) の反省会を行い、今回実施状況についてモニタリングを行った。

2 校目(INDA) 実施後に、生徒へのアンケートを実施し、記述をもとに 3 校目実施に向けての参考とした。

3 校目(Santa Clara) 実施後は、生徒、教員、MEGATEC 学生からのアンケートを実施し、今後に向けての課題の整理と MEGATEC への継続的な協力の方法を検討した

10) 活動 4-2 : 定期的に活動計画・プログラムを改善する

本プロジェクトは東部地域のみならずエルサルバド全域においても初めての活動であり先例がないために試験的要素が多分にあった。従って、一校ごとに課題を改善するというよりも、対象学年 (小学校・高校・中学校) を違えて同じプログラムを期間をずらして実施し、その評価を今後のモデルとするよう当初より計画した為、中途での計画・プログラムの改訂・改善は実施しなかった。

11) 活動 4-3 : プロジェクトからの教訓を整理し、プロジェクトの仕組みを検証する

3 校を終了し今後の継続に向けては多く教訓を得、今後のプロジェクトの仕組みをモデル化し、普及活動において提案する。但し、大きな仕組みの基軸として考えるのは以下となる。

実施時期

MEGATEC の学生を講師とすることを念頭におけば学生の休暇時期に設定は限定される。

実施期間

6 週間 6 回は受講生の集中力を考慮すれば最大値と思え、5 週間 6 回も可能といえる。6 回は内容的にこれ以下では効果が薄れる。

活動主体

この活動のコーディネートを主導するのは CORSATUR(CAT)/市(CDT)との連携によるものとする。市長の全面的協力も不可避である。

協力者の確保

協力者とりわけ MEGATEC の学生のボランティアは必須である。今後、学校教員への観光教育の順次展開しつつも当面は学生による講師を推進する。

活動資金

活動資金の確保が課題であるが、一方で複数の協賛者からの現物支給やボランテ

ィアの形式にて活動費用を限りなくゼロに近づけることは可能でもある。

(2) 遭遇した問題とその解決

1) CDT の関与

CDT の関与の低さが当初よりたびたび指摘されていたが、2 校目終了時前より大幅に改善され、6~7 名ではあるがほぼ活動する CDT 全員の協力が寄せられた。

三校目(Santa Clara)はほぼ CDT 主導で行われ、プロジェクトチームは最小限の支援にとどめた。今後、パサキナでは活動資金さえ確保されれば CDT のみにて活動が可能である。一部のメンバーは MEGATEC 学生ではなく自らも講師が可能であると言及している。しかし、今後全面的な活動資金が援助される可能性は乏しく、また、パサキナ市長の全面的協力のうえに成り立つ活動であることを明言しているため、市長の交替があっても活動できる基盤整備が必要となる。

2) MEGATEC 学生講師

MEGATEC 学生講師は必ずしも受講生側のみに利点があるのではない。日本の支援を受けた MEGATEC 観光学部として今後エルサル観光産業を担う中核として観光の教育実習は学生にとっても将来に向けて掛け替えのない貴重な経験であることは間違いない。

MEGATEC 教授・理事は今後も継続的な学生の講師経験を切望しており、次回以降、ボランティアであるとも厭わないと明言している。但し、学生たちの学校までの交通手段の確保が課題であり、実施学校や市などによる便宜供与が期待される。

2. 指標の達成度

(1) 指標 1-1 : 委員会が機能する

12月8日のキックオフミーティングによって CDT パサキナによるこのパイロットプロジェクトの委員会が結成されたものの、その後、委員会が十分機能しているとは言い難い状況であったが、前述のように 2 校目以降は著しく改善され、委員会は十分に機能した。(達成度 100%)

(2) 指標 1-2 : 委員会の活動計画をまとめる

前述のように、学校の活動計画に変更がなかったため、前例を踏襲するという形式にて CDT が学校やその他関係機関とのスケジュール調整を行った。(達成度 90%)

(3) 指標 1-3 : 適切な学校と生徒が選定される

既に適切な学校が選定された。(達成度 100%)

(4) 指標 2-1 : 関係機関からの支援が得られる

既に MEGATEC の協力の下、三校の全てで授業準備及び実施が完了した。また、パサキナ市長からの全面的支援により市のバスの遠足への供与が実現した。(達成度 100%)

(5) 指標 2-2 : 教育プログラムができる

3校同一のプログラムにて実施できた。(達成度 100%)

(6) 指標 3-1 : プログラムが実施される

3校同一のプログラムにて実施できた。(達成度 100%)

(7) 指標 3-2 : 子供がプログラムを理解する

1) 授業でのレビュー

MEGATEC 学生からの反省会での聞きとりでは、前回の授業の内容は大体覚えていたとの報告を受けている。また、授業も Santa Clara では比較的集中して聞いていたが、INDA は年齢が近いこともあり、時に授業に集中しない生徒も多かったとの評価であった。

2) 宿題

寸劇(1チーム15分) Santa Clara : 全クラスが広場に集まって発表を行なった。内容は、今までの授業で学んだことが、観客に分かり易く、インパクトのある形で表現されており、授業内容をしっかり身につけたことが確認された。また、他のクラスの寸劇を見ることによって、観客となった生徒は復習の機会になった。そのことから、全てのグループの寸劇を総合すると、殆どの内容が含まれていたことから、生徒全体としては概ね内容を理解したと言える。

3) アクションプランと実施

アクションプランの発表では、ゴミに関わる活動が多く見られた。ゴミを道に捨てない、掃除する、ゴミによって川を汚染しない、ゴミを燃やして大気を汚染しないなど。また、ゴミも不燃ごみと可燃ごみの区別が概ねできており、不燃ごみは半永久にゴミとして残ることも理解している。ただ、実際には水のビニール袋などは校内だけでなく、どこでも平気で投げ捨てる習慣との矛盾に気づき始めた。

また、アクション(活動)自体は INDA はマングローブ林の清掃、Santa Clara は河川敷の清掃であり、一部、何もしない生徒も見つけられたが、多くが積極的にゴミ収集を実施した。また、清掃作業(特に Santa Clara)では父兄の多くが清掃作業に参加したのは特筆に値する。

上記のような生徒達の行動から、概ねこの教育内容は生徒達に正しく理解されていると捕らえることができる。(達成度 80%)

(8) 指標 3-3 : 各家庭でプログラムを理解する

このプロジェクトのキックオフイベントには、生徒達の親も参加した(15~20名程度)。また、このプログラムを理解してもらうために、親にも遠足に参加してもらった。一校目の状況を考慮し、2校目以降も親に感想文の記入は要請しなかった。

1) 出席人数

通常の授業への参加は平日のため仕事の関係上、期待はできなかった。土日の遠足時

には各回 20 名前後の父兄枠を設け、親の参加希望も多く、概ね毎回多くの父兄が遠足に参加した。

2) 親の行動

親達は、子供がプールや海で遊んでいる間、主に荷物を監視していたがゴミを集めたり、集めたゴミが飛ばないように管理したりしていた。また、親達が子供達にゴミを拾うように促す場面もあった。

これらの状況を総合すると、生徒や親が遠足に参加した家庭では、このプログラムに対する理解度は相当高いと考えられる。(達成度 70%)

(9) 指標 4-1: 活動計画・プログラムの見直しが行われる

活動計画は当初より、大幅な見直しを予定せず、むしろその定着を図るものとしたが、反対に不都合やトラブルもなく生徒の評価も高かったことから新しい試みとして活動が広く受け入れられたと理解する。(達成度 100%)

(10) 指標 4-2: 活動計画・プログラムの改善策が立てられる

前述等から改善策は講じてはこなかったが、今後、実施がプロジェクトチームから移管された後、資金的支援や人的支援の過多により実施できうる活動の可否により改善の必要性が立てられることとなる。(達成度 100%)

(11) 指標 4-3: プロジェクトからの教訓が得られる

プロジェクト実施から目標とする成果や想定外の効果と多くの教訓が得られた。

観光への目覚め

観光への気づきや観光者への配慮、観光の効果など生徒にとっては初めて聞く言葉ばかりであったが、自らの街も努力次第で観光地となりうる可能性に気づいたことがもっとも大きな成果・教訓といえる

環境への配慮

観光地整備の第一歩として自ら選び得たものが植林やマングローブ林 / 河川敷の清掃など身の回りの清掃から学び得たものは自然環境への配慮・維持である。自然景観整備は自ら行動を起こさねばなにも変化しないことを自覚したことが大きな教訓となる。

また、ウミガメやその卵の保護など人間の積極的な関与なくして自然保護が成り立たないことも学び得たことも大きい。

遠足の効果

エルサルバドルでは親の支援もないことから遠足の習慣はほとんどない。山の生徒たちは海を見るのも初めてであった。遠足は観光の初歩であり、今後、この習慣が各校に広がり、小さいころから他の地域への興味に目覚めることこそ観光の第一歩である。

MEGATEC 学生の教育実習

当初より MEGATEC の学生に講師を依頼したが、学生にとっても教えることにより、観光の影響・効果等改めて整理できたものと思われる。今後、予定校の教員の観光教育という側面を持ちながら、MEGATEC 本校も含め、観光の教育の一端を担うことは学生にとり大きな進歩となった。

マイナスの教訓

INDA の高校生のプロジェクトを通し、やはり年齢層の低い生徒の方が素直であるだけ、教育の効果が大きなことが認識された。今後は特別な要請がない限り、小学校高学年周辺を対象とする。

3. 終了時評価

(1) 妥当性：高

観光大臣のイニシアティブが大きいとは言え、13市の観光開発コンセプト発表においても多くの市が興味を持っているプロジェクトであることが判明した。観光に対する教育（意識）は年少のころより施されることが将来の観光客の可能性や観光開発に対する意識付け・動機付けとなることは明らかであるため、このプログラムの妥当性は十分に高いと判断する。

(2) 有効性：高

前述のように、将来の国内旅行のポテンシャルを上げることや、観光地開拓の可能性を広げるという意味において、多くの学校でこのプログラムが実施されることが期待され、また、観光における環境の重要性が認識されることにより身の回りの環境整備が推進されるであろうことから、有効性は高い、とする。まずは「楽しい旅行」の経験を持つことが観光開発の将来的なポテンシャルをあげるために重要であり、その意味では旅行に慣れていない子供たち（大人も含め）に対し、遠足経験の機会を与えるこのプログラムの意味においても有効性は高い。

(3) 効率性：中

「エ」国においても前例がないことから、試行錯誤の繰り返しから効率性においては中といえる。しかし、校数を重ねるごとに経験値から円滑かつに効率的な活動が推進された。今後、MEGATEC や担当市、該当校や CDT など多くの関係者が活動に参画するにあたり、コーディネーションの役割をどこが担うか大きな課題があり、効率的実施にはその仕組みづくりが課題となる。

(4) インパクト：高

観光の授業を行なっている学校は殆どなく、また、生徒、先生、親も含め、旅行の経験が殆ど無いことから、インパクトはかなり高い。特に遠足は、初めて海を見た人が多く、強烈な印象を与えたことが、教師からのコメントや生徒の感想文で確認された。さらに、観光を学ぶことによって、環境問題と自分達の生活の具体的な接点が見出せるため、環境問題の理解に対しても新しい視点を与えることが出来る。従って、インパクトは非常に高いと言える。

(5) 自立発展性：中

持続的継続に体制づくりとマニュアル化等の課題は少ないが資金的支援には多くの課題を残す。実施にはそれぞれの組織がわずかな援助で実施が可能ではあるがそれをリードする主体がどこであるかが重要となる。資金的には各部署がボランティア的な熱意のもとでの最小限の資金にて実施できる仕組みづくりも必要となる。

(6) 総合評価：高

三校を通じて、教師達の熱意、協力度も高く、CDTと市役所、学校、父兄が連携して実施された自主的な清掃活動等はこのパイロットプロジェクトの地域ヘインパクトは相当高いと言える。しかし、このプロジェクトが成功するためには学校と市の協力が不可欠である。

東部開発において観光が今後とも重要な開発手段であることは誰もが認識するところであるが、まずは将来の地元を担う生徒が“観光”とは何であるか、観光資源には何がありうるかを認識することが第一歩である。また、自ら体験することにより、清潔な観光地や自然環境がどれだけ観光発展に重要であり、それに向けて実施できるもの（清掃等）から取りかかることが将来の発展を約束するものである。

4. 教訓と提言

(1) 観光への目覚め

「観光」というものをあらためて意識することは学校教育や通常の生活ではない。一方で、経済的資源に乏しく、今後の東部地域の発展において観光の占める位置が重要であることは論を待たない。観光の発展は一長一短には難しい視点からすれば年少の時期より「観光」や「観光客」を意識することが長期的な視野での発展には不可欠である。

(2) 環境への配慮

自然環境の保護なくして観光の持続的発展はない。それは単に自然観光資源を保全するのみでなく、“劣化”させないことも重要な配慮である。エルサルバドルに観光地整備の第一歩として自ら選び得たものが植林やマングローブ林/河川敷の清掃など身の回りの清掃から学びえたものは自然環境への配慮・維持である。自然景観整備は自ら行動を起こさねば何も変化しないことを自覚したことが大きな教訓となる。

(3) 遠足の効果

日本の観光発展の一因に「遠足（課外活動）」や「修学旅行」の経験があり、若き日の集団での行動は規律を学び、集団意識を高める。観光にはこのような経済発展だけでなく、社会的・文化的な意味もあり、そのような効果を認識できることも副次効果と言える。

(4) MEGATECの学生や教員の意識改革

授業を受ける側のみでなく、教える側にも多くの教訓や効果をもたらすプログラムであり、観光や環境は教育する側の再認識の手段となり、今後、普及する側の要員養成という視点から多くの大学生や教員が指導した経験は将来の持続発展性に大きな糧

となった。

(5) 提言

日本には“住んでよし、訪ねてよし街づくり”という標語があるが、清潔な環境が自らだけでなく、訪れる人（観光客）にもどのような気持ちにさせるかの想像力が働くことこそ、観光発展には必須のところがけである。

ゴミを平気で学校や家の周りに捨てたり、バスの窓からゴミを捨てるような住民やその土地に経済発展の可能性は少なく、ますます人が離反していくだけとも思える。観光環境教育を通して、そのようなマナーの向上や意識改革が地域発展（観光発展）の基礎となり、そのために観光環境教育は必須と考える。

V：フォンセカ湾島巡りツアー

1. 活動内容

(1) パイロットプロジェクト開始後の活動内容

1) 活動 1-1：島々の調査と既存ツアーの見直しをする

- a. CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT と共に、本パイロットプロジェクトの基本内容を決め、それを基に PDM を作成するための打合せを実施した。また、その中では、それぞれの投入内容について協議し、PDM が整理された。

表 V-1 「エ」国および日本側の投入内容

投 入	
「エ」国側	日本側
<p>人材：</p> <ul style="list-style-type: none"> - CORSATUR / CAT ラウニオン - CDT メンバー - 関連する旅行会社、ボートの船頭 <p>機材：</p> <ul style="list-style-type: none"> - ボート <p>施設：</p> <ul style="list-style-type: none"> - CORSATUR 事務所、CAT ラウニオン事務所、インターネットカフェ <p>費用：</p> <ul style="list-style-type: none"> - ツアーに必要な費用 	<p>人材：</p> <ul style="list-style-type: none"> - JICA 専門家 <p>費用：</p> <ul style="list-style-type: none"> - ファムトリップ費用 - パンフレット作成費

関係する島民、CDT、JICA プロジェクトチームと共に、島の観光資源およびツアーを実施する運営母体を確認し、ツアー実施に必要な条件を整理した。



- b. CORSATUR、ホテルの宿泊客（ホテルコンフォートイン：ラウニオン市）、地元企業関係者等へ島に関する聞き取り調査を実施した。その結果、島の知名度は低かったが、島へ行ってみたいという回答が多くあった。
- c. CORSATUR のカウンターパートと共に大手旅行会社のいくつかのパンフレットを分析したが、中米諸国の観光ルートを見ると「エ」国は含まれているが、国内の数あるツアーの中にはフォンセカ湾の島巡りツアーは存在していないことがわかった。

地域住民、MITUR-CORSATUR-JICA、CAT、CDT、地元および国内のツアーオペレータの協力のもと、現況調査を実施した。

2) 活動 1-2：島巡りツアーに関わる人材と観光資源の調査をする

- a. CAT ラウニオン、CDT、旅行者、漁師、MEGATEC の講師や学生と共に、本パイロットプロジェクトの実施支援の可能性について、打合せを実施した。



- b. 島巡りツアーで訪問可能な観光資源は、次のとおり。
 - メアングーラデルゴルフォ島、サカティージョ島、コンチャグィータ島、マルティンペレス島（遊覧のみ）、プエプロビエホのビーチ、チキリン岬のビーチ、プラジータスのビーチ
- c. 上記の観光資源を利用して、次のような観光カテゴリーを楽しめることが確認された。
 - 自然と景色： 島の山頂からの眺望、イルカ・ホエールウォッチング（期間限定）、島内トレッキング。
 - 文化： 貝殻や流木による民芸品、シーフード料理、地元漁師体験。
 - アドベンチャー： 海水浴、シュノーケリング、トレッキング。

- d. CDT の調整の下、地元コミュニティによる島巡りツアーの商品開発をした。
- コンチャグィータ島：3つのオプションのあるツアーを開発した。山頂の遺跡（教会）と石刻を見るトレッキング、ブラバビーチでのキャンプ、地元住民とのビーチでのランチ。
 - チキリンビーチ：アルコールを提供しない（宗教上の理由）家族向け、若者向けビーチというコンセプトのもとに商品開発をおこなった。ビーチサッカーの大きな大会を計画し、地元コミュニティが地元料理（ランチ）を提供する。
 - メアングーラデルゴルフォ島：3つのオプションのあるツアーを開発した。マハグアルビーチでの散策、地元料理、民芸品。CDT とツアーオペレータと共にこれらを強化している。
 - ピリガジョ島：バードウォッチングツアー。メアングーラ島やコンチャグィータ島からアクセスし、バードウォッチングをする。
 - ペリコ島、ペリキート島（サンアレホとパサキナのマングローム）：地元ガイド付きでバードウォッチングができるマングロームツアー。
 - サカティージョ島：ファミリー向けのツアー。レストラン。
 - プエプロビエホ：観光客が船旅中に小休憩するために立ち寄る。
- e. 島巡りツアーの充実を図るため、観光ガイド研修をおこなった。
- ラウニオンとメアングーラデルゴルフォ島の漁師と船頭総勢 14 名が観光ガイド研修に参加した。これは MITUR/CORSATUR では初めてのケースであり、今後他地域に普及する上で参考にしたいというコメントがあった。



- グルメ改善プログラムに約 60 名の飲食業関係者が参加した。このプログラムは、準備や飾りつけなどをシュミレーションした。
 - 民芸品改良プログラムの実施：ラウニオン、コンチャグィータ島、チキリンビーチ、メアングーラデルゴルフォ島の関係者に裨益するプログラムとなっている。
- f. 地元のツアーオペレータのガイド能力の向上とサービスの標準化のためのマニュアルを準備し、シミュレーションを実施した。
- g. 約 100 名が島やビーチで観光関連サービスへの参加に関心を表明した。調査中も

湾内の観光資源の発見・評価を継続した。

3) 活動 2-1：島巡りツアーのルートと商品の開発をする

- a. ラウニオンの旅行会社、CDT ラウニオン、関係する市役所などが集まり、島巡りツアーのプロモーションに関するパンフレットを作成し、MITUR/CORSATUR が主催する Pueblos Vivos のイベントやラウニオンで行われた CORSATUR 主催の旅行業者セミナーにて、このパンフレットが配布された。このプロモーションで様々なネットワークを築いた結果、2012 年 1 月、島巡りツアーに 40 名のグループが参加した。



Pueblos Vivos のイベントで紹介された初版のパンフレット

- b. MEGATEC 観光学科と連携し島巡りツアーのオプションとして夜釣りツアーの内容を検討した。その中ではサービスと安全についての意見が出たため、それらに関するマニュアルの作成も検討した。



- c. CORSATUR、CAT ラウニオン、CDT と共にサカティージョ島に行き、島巡りツアーの開発のために地元レストランを訪れ、料理の出し方、衛生や品質の改善についてアドバイスを行った。
- d. これらの結果として、日帰りツアー10種類、宿泊ツアー4種類を提案した。

フィールド調査を実施し、いくつかのオプションがデザインされた。すでに、地元住民が CDT と連携して、販売・運用を開始している。CORSATUR の支援を受けて国内のツアーオペレータを募集して以下の商品のシミュレーションと強化プログラムに参加した。

- コンチャグィータ島：1)山頂の遺跡（教会）と石刻を見るトレッキング、2)ブラバビーチでのキャンプ、3)地元住民とのビーチでのランチ。

- チキリンビーチ：1) アルコール・フリーのビーチ、2)ビーチサッカー等のスポーツ大会、3)週末にビーチでのランチやゲームの開催、4)若者向けツアー（ボート等）、5)専門ツアーオペレータによるパラグライダー。
- メアングーラデルゴルフォ島：1) マハグアルビーチでの散策、2)栈橋近くの海岸でのランチ、3)地元の女性工芸家によるツアーデスク、4)60名まで対応。
- ピリガジョ島 2：1) バードウォッチングツアー（既存）、2)希望者にはメアングーラ島やコンチャグイータ島からボートやカヤックを使ったバードウォッチング。
- ペリコ島、ペリキート島：1) 地元ガイド付きでバードウォッチングができるマングローブツアー、2)海岸での貝拾いを含むスタディ・ツアー
- サカティージョ島 5：1)グルメ、2) チューピング、3)スノーケリング、4)トレッキング、5)バレーボール。
- プエプロビエホ：低予算または短時間の express Tour、ボートでプエプロビエホを訪れる。
- コンチャグア：1) 火山・島・村を巡る海と陸のツアー、2)火山でのキャンプ、3)火山でのコーヒーツアー、4) 市内観光
- 湾内のクルージング

開発されたツアーは CORSATUR のスタッフ、市の職員、およびメディアに紹介された。

- 2012年8月の休暇期間にホテルコンフォートイン（地域の主要な宿泊施）にフェリア期間のラウニオン港と同じように、地域案内のためのテーブルが設けられた。このプログラムは CDT、CAT および観光者を島々に案内するツアーの訓練を受けた漁師達と一緒に実現したもので、今後は週末毎にこれを運用することとし、インティプカのマングローブツアー、地域特有の村々、海岸など、地域の他のツアーとの協調を可能とするものである。
- 島々を巡るツアーを盤石化し、島民やその他関係者に利益配分するために、以下のとおり研修やトレーニングが行われた。
- ラウニオン、チキリンビーチ、コンチャグイータ島、メアングーラデルゴルフォ島、ペリコ島、ペリキート島、サカティージョ島の漁師・船頭 32 名がツアーガイドとしての第 2 回目のトレーニングを受けた。最初に研修を受けた漁師がこの訓練を支援しており、このトレーニングは国内初の試みで、観光大臣が同様のプロジェクトを他の地域でも実施したいと記者会見で発表している。

		
<p>グルメツアーに関するワークショップ (サカティージョ島、2月6-7日)</p>	<p>グループ・マネジメントに関するワーク ショップ(コンチャグア火山、1月29日)</p>	<p>漁師ガイドの卒業式 (チキリンビーチ、2月20日)</p>

- グルメ・民芸品改善プログラムを実施し、約 100 名が参加した。プログラムには、調理、盛りつけ、地元の食材を使った郷土料理の試食会やワークショップも含まれた。実施場所：ラウニオン、コンチャグア、サカティージョ島、ペリコ島、チキリンビーチ、メアンゲーラデルゴルフォ島、コンチャグイータ島。
- 地域のツアーオペレータとさまざまなシミュレーションをおこない、品質の改善や標準化を実現するためのマニュアルを作成した。

4) 活動 2-2：CDT と島の住民に対するルートおよび商品の紹介をする

- a. CORSATUR、市役所、ツアーオペレータ、メディア関係者に島巡りツアーを紹介した。開発したツアーを CORSATUR、市役所、ツアーオペレータ、マスメディアに紹介した。
- b. バケーション中にはホテルコンフォートイン（地域の主要ホテル）にツアーデスクを設置した。
- c. 同様に、フェリア期間にはラウニオン桟橋およびメアンゲーラデルゴルフォ島に桟橋建設を予定している。このプログラムは、観光客に島々を巡るツアーを紹介する目的で CAT、各 CDT、およびトレーニングを受けた船主が連携して実施するもので、毎週末開催する予定である。島々を巡るツアーだけでなく他のツアーの紹介をおこなうことも考えられる。

5) 活動 2-3：パンフレットのデザインと製作をする

バケーション中のツアーデスク用に、島巡りツアーのプロモーションをベースにアクティビティのメニューを載せたパンフレットをデザインし、活用した。メニューは、CORSATUR マーケティング部、CAT、各 CDT、市役所、および島民と協力して作製した。

カリフォルニア州立大学海事学校演習船の学生をターゲットに島々を巡るツアーのパンフレットを作成し、宣伝・販売をおこなった。

案内人用のガイドブック、島巡りツアーマニュアルと、説明カードを印刷・配布した。これらは通訳、PR、新商品の取り入れに必要な資材である。



国際市場向け商品を掲載したパンフレット

「水上のルート」の地図

説明カードの試作品

グラフィック宣伝ツールの制作にあたって、漁師、零細企業家、CDT とのミーティングがおこなわれた。

6) 活動 3-1 : CDT によるマーケティング&プロモーション計画の策定をする

CORSATUR のマーケティング部の支援を受けてプロモーション計画を策定し、実施している。

- a. ローカルの旅行業者に国際フェアに参加するよう促した。
- b. フォンセカ湾のツアーが CORSATUR の様々なプロモーションに追加された。
- c. 定期的にファムトリップを実施した。
- d. ローカルの観光業者は、国内の観光業者と交流するための自分たちのプロモーションの仕方、および基本データをもっている。

7) 活動 3-2 : パンフレットの紹介と島巡りツアーのファムトリップを実施する

a. ファムトリップ

CORSATUR 長官を含むスタッフ、CDT、ASOTUR と共に島巡りツアーのファムトリップを計画し、実施した。

日時	工 程
土曜日	
7:00- 10:30	ラウニオンへ移動 (CORSATUR 出発)
10:00-10:30	チェックイン：ホテルコンフォートイン
10:30-14:30	コンチャグア火山見晴らし台からのフォンセカ湾眺望 (昼食付)
14:30-16:00	ホテル帰館、市内レストラン
16:30-19:30	日没と湾内での夜釣り
19:30-21:30	CDT、CAT および地元の観光業者との夕食と会談
日曜日	
7:30-8:00	朝食
8:00-15:30	サカティージョ島とメアングーラデルゴルフォ島へのツアー (昼食付)
15:30-16:00	チェックアウト
16:00- 20:30	サンサルバドルへの戻り(オプション：インティブカでのマングローブツアー)

11 月から 2 月にかけて合計 10 回のファムトリップを実施し、CORSATUR マーケティング部、商品開発、投資、中小企業・インフラ開発関係者、ツアーオペレーターおよびマスメディアが参加した。このほか学校の教諭も招待し、島巡りツアーのプロモーションを行った。ラウニオン、コンチャグア、チキリンビーチ、コンチャグイータ島、ペリコ島、ペリキート島、メアングーラデルゴルフォ島、サカティージョ島など各地の地元住民 100 名以上がファムトリップの対応にあたっ

た。

b. パンフレットの紹介

ファムトリップおよび FITUR フェア(マドリード)において、CORSATUR のマーケティング部の協力で作製したパンフレットをツアーオペレータに紹介した。2013 年も CORSATUR やツアーオペレータが参加する国際フェアで紹介する予定である。



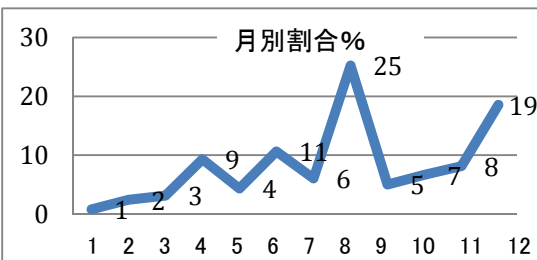
8) 活動 3-3: CDT による島々を巡るツアーのモニタリングと関係事業者へのフィードバックをする

地域 CDT はプロジェクト関係者と共同で需要分析および旅行客のモニタリングを開始した。参加したインフォマントの情報によれば、ツーリストの数は前年比で指数関数的に伸びている。2012 年の結果を以下に示す。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
%	1%	2%	3%	9%	4%	11%	6%	25%	5%	7%	8%	19%
Pax	31	97	126	377	175	432	245	1026	203	270	330	754

2012 年のビジターの 4 分の 1 は 8 月に集中した。

ハイシーズンは、4 月、7 月、8 月、12 月の 4 ヶ月で合計 65% を占める。残り 8 ヶ月は合わせて 35% である。前半よりも後半の方がビジターは多い。



(2) 遭遇した問題とその解決

島々を巡るツアーに参加する地域住民のトレーニングを継続的に実施するために、またツアーの PR を行うために、CORSATUR の各部門が、ツアーの開始、ツアーオペレータや投資家を対象にしたファムトリップ、各種トレーニングなどを運用計画に取り入れた。また、CONAMYPE および専門学校 ETI-K の人材を対象にルール・ツーリズムに関するトレーナーズトレーニングを実施した。今後彼らがエルサルバドル東部で人材育成を担うことになる。

2. 指標の達成度

(1) 指標 1-1: フォンセカ湾の島々を巡るツアーに関する情報リスト

計画通りに実施された。

(2) 指標 2-1: 島々を巡るツアー商品が少なくとも 4 種類開発される

島巡りツアーに関連して、2-1「島巡りツアーのルートと商品開発」にリストアップしたもののなかから組み合わせ自由な 25 種類のアクティビティが開発された。

(3) 指標 3-1: ツアーのプロモーションを目的としたパンフレットと WEB サイトを CDT と地元アクターにより製作される

ツアーのプロモーションを目的としたパンフレット 6 種類以上が作成された。また、WEB サイトが開設され、地域 CDT がツアーに関する情報のアップデートや追加等、管理にあたっている。

(4) 指標 3-2: ツアーのプロモーションを目的とした関係者の体験ツアーを 3 回以上実施する

CORSATUR、地元業者、地域 CDT、地元 CDT の協力を得て、目標値の 3 倍の成果をあげることができた。

3. 終了時評価

(1) 妥当性：高

競争力の高い豊かな観光資源の多い地域で CORSATUR が選択したパイロットプロジェクトであること、中米を旅行する長距離ツーリストや、新たな観光地を求める国内や域内のツーリストを引き寄せるためにも競争力強化が不可欠であること、これらを観光活用することにより、地域住民に利益がもたらされていることから、本パイロットプロジェクトの実施は妥当である。

(2) 有効性：高

本パイロットプロジェクトの目的である「フォンセカ湾の島々を巡るツアーの開発に向けて CDT およびその他のアクターの人材育成がなされる」に対し、プロジェクトの高い成果の評判が広まり、期待していたよりも多くの関係者が参加した。また、地域 CDT や CDT ラウニオン、CDT メアングーラデルゴルフォなどの協力を得られた。

(3) 効率性：高

多くの関係者が本プロジェクトに参加しており、盤石かつ熱心な地域ネットワークが構築された。CORSATUR の本パイロットプロジェクト担当者は、大半の漁師研修や住民研修に参加し、本プロジェクト参加への意欲をみせている。第 1 回研修を終了した漁師は、第 2 回の研修員を支援しており、今後もプロジェクトに関心を持っている他の漁師に自分達のノウハウを伝達し、支援する意欲を持っている。

(4) インパクト：高

海洋資源を活用した観光商品の開発はほぼ目標達成している。プロモーションやマー

ケティングに関しては徐々に効果を上げ始めている。地域の船頭やホテルによると前年と比べツアーリストが増加しているとのことである。飲食や工芸品など、島々での補足的な観光商品の開発はビジターの満足度が徐々に改善されており、支出も増加し地域にお金が落ちるようになった。

(5) 自立発展性：高

地元業者のネットワークは、中長期計画を持ち、盤石かつ自立発展的である。トレーニングを終了したガイドが他のガイドのトレーニングを支援している。CORSATUR、Conamype、Eti-k（専門学校）、市役所、フォンセカ湾観光開発組合が今後も継続して改善に取り組むことを約束している。CORSATUR は、2013 年第 2 四半期にこの商品の販売を開始する予定であり、漁師らは 2 月 20 日をフォンセカ湾観光の日に定めた。毎年この日を祝って、それまでの成果を発表した。

(6) アンケート調査の概要

地域関係者による本プロジェクトの評価はきわめて高く、特に、異文化間コミュニケーション、商品開発、応急手当、団体への対応、連携体制の構築等に関してノウハウを習得できたことの評価が高かった。

ファミトリップに参加したツアーオペレータやマスメディアは、このツアー商品のポテンシャルの高さを評価している。数年前にも同じ地域を訪れたが、その時に比べるとよい方向に変化し、ビジターを迎える地域関係者側の準備もできていると判断している。ツアーオペレータは、地域業者との契約を締結し始め、徐々にこの地域にツアー利用者を案内する頻度が増えている。

(7) 総合評価：

島々を巡るツアーの商品開発は、参加型メソッドという点でも、また地元関係者の熱意、CORSATUR カウンターパート、特に商品開発部スタッフの参加という点からも、高い成果が得られた。

4. 教訓と提言

(1) 島々を巡るツアーのポジションを高め、商品化するためには、CORSATUR と市役所、ツアーオペレータ、コミュニティ、CDT、地域 CDT が、定期的かつ継続してキャンペーンを展開していく必要があり、地域委員会の設立と組織強化が不可欠である。というのも、この種のプロジェクトは、市の境界を越えた広域的な取り組みと、ローカル CDT の連携した参加が必要となるからである。CORSATUR マーケティング部は、彼らの国際 PR プログラムのなかにローカルオペレータを巻き込んで、見本市などに参加している。

(2) 地域住民間でより公平に利益配分をおこなうためには、民芸品やグルメ関連のコミュニティ・プロジェクトの強化に取り組むことが必要である。そのため、ガイドを含む関係者 100 人以上が参加するコミュニティ・ネットワークが構築されたほか、さまざまなレベルや種類のトレーニングが実施されている。

(3) ツアーの実現に不可欠な存在である船頭や漁師の競争力強化をはかるために、トレー

ニング・プログラムを継続して実施し、新たな参加者を増員すると共に、船舶機材の改善に取り組む必要がある。ルート毎にマスターガイド兼代表 8 名を任命し、ネットワークの盤石化とトレーニングのフォローアップがおこなわれている。

- (4) 施設容量の増強をはかるため、CORSATUR カウンターパート、CDT、コミュニティ、および調査団の調査結果にもとづく提案にしたがって戦略的ビジネスエリアへの投資強化プログラムを策定・実施することが必要である。CORSTUR は、プロジェクト対象地域での投資促進計画を発表し、2013 年に実施予定である。

3.3. 成果3：パイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会の能力が向上する

3.3.1. 活動3-1：観光委員会/観光協会やその関係者の研修ニーズを調査し、研修を実施する

(1) 研修のニーズ調査

研修内容は、カウンターパートであるCATラウニオンスタッフと共に以下のプロセスを経て決定した。

問題分析、目的分析ワークショップ：

第一年次にて問題分析、目的分析ワークショップを行い、CDT およびその関係者の意見を汲み取り、研修のニーズの分析を行なった。

再調査によるニーズの明確化：

2011年6月、7月に各市を訪れ、CDT およびその関係者とミーティングを行った。ミーティングにて、研修に関する意見交換を行い、研修に関するニーズをより明確にし、研修の計画について再度検討した。

研修参加予定者を集めたミーティング：

2011年8月から9月初旬、研修の実施に向け、CATラウニオンと共に研修対象地区を訪れ、研修を告知するとともに参加予定者とのミーティングを行い、参加予定者の興味、意見を広く汲み取った。

研修の講師候補者とのミーティング：

2011年8月、第二年次の研修の実施に向けて各講師候補者と面談を行った。面談を通じて、各研修の内容について議論を行い、その研修内容を具体化した。研修の選定基準は、(1)各市の観光開発の課題対策となっていること、(2)地域資源を十分活用できること、(3)研修参加者の学ぶ意欲が存分にあること、である。

(2) 研修案の決定

上記のニーズ調査をもとに、以下のとおり各市における研修案が決定され実施された。

a) 起業セミナー

起業セミナーの概要と成果を以下に示す。

表 3.3-2 起業セミナー（観光関連）の概要と成果（第二年度）

	No.1 ユクァイキン	No.2 インティブカ	No.3 パサキナ、サンタロサデリマ、ボ リバル、サンホセデラフエンテ			
研修目的	地域の観光の発展に向けた研修参加者による起業のプランを作成する。					
研修内容	起業のコンセプト、経営、投資コストなどについて講義					
研修場所	ユクァイキン市教会・ミ ーティングスペース	インティブカ市役所・所 有広場	パサキナ市役所・別館 3F（11月 4日）、サンタロサデリマ市役 所・会議室（11月11日）			
参加市	ユクァイキン（研修を要 請した市）	インティブカ（研修を要 請した市）	パサキナ（研修を要請した市）、 サンタロサデリマ、ボリバル、サ ンホセデラフエンテ（上記3市 研修に招待された市）計4市			
期間と回数	2011年11月5日および 11月12日、2日間	2011年11月9日および 11月10日、2日間	2011年11月4日および11月 11日、2日間			
研修時間	8:00-12:00 13:00-17:00 計8時間					
研修員	参加者計28名、うち2 日間参加したもの12名	参加者計25名、うち2 日間参加したもの17名	参加者計30名、うち2日間参加 したもの5名			
CDTメンバ ー参加者	研修員のうち3名、研修 コーディネート・進捗管 理1名	研修員のうち6名、研修 コーディネート・進捗管 理2名	研修員のうち9名、研修コーデ ィネート・進捗管理3名			
講師	Juan Moises Flores					
役割分担	1) 研修プログラム・内容の作成、JICA Project Team および講師を中心に CAT ラウニ オンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を JICA Project Team と共に CAT ラウ ニオンが実施。					
成果	参加者は起業のコンセプト、経営、投資コスト等、起業のための基礎的知識を習得した。 また、2日間出席した参加者は、ワークショップを通じて起業における目標達成のための 活動計画（2012年6月、12月までの達成目標・活動）である起業のプランを作成するこ とを達成した。					
						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center;">起業セミナー講義</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">ワークショップの様子1</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">ワークショップの様子2</td> </tr> </table>				起業セミナー講義	ワークショップの様子1	ワークショップの様子2
起業セミナー講義	ワークショップの様子1	ワークショップの様子2				

b) 接客サービス（レストラン）

接客サービス（レストラン）の概要と成果を以下に示す。

表 3.3-3 接客サービス（レストラン）研修の概要と成果

	No.4 ラウニオン、コンチャグア、 サンタロサデリマ	No.5 サンタロサデリマ、 サンホセデラフエンテ
研修目的	地域のサービス向上に向けた良い接客サービス（レストラン）の方法を学ぶ。	
研修内容	レストラン、飲食業経営者に顧客の分析、接客サービスの仕方について講義	
研修場所	ラウニオン市レストラン・ミーティングスペース	サンタロサデリマ市役所・会議室
参加市	ラウニオン（研修を要請した市）、コンチャグア（研修に招待された市）、サンタロサデリマ（同上）	サンタロサデリマ（研修を要請した市）、サンホセデラフエンテ（研修に招待された市）
期間と回数	2011年11月23日および11月28日、2日間	2011年11月24日および11月29日、2日間
研修時間	8:00-12:00 13:00-17:00 -計8時間	
研修員	参加者計27名、うち2日間参加したもの7名	参加者計18名、うち2日間参加したもの4名
CDTのメンバー参加者	研修員のうち6名、研修コーディネート・進捗管理2名	研修員のうち3名、研修コーディネート・進捗管理2名
講師	Juan Moises Flores	
役割分担	1) 研修プログラム・内容の作成、JICA Project Team および講師を中心に CAT ラウニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を JICA Project Team と共に CAT ラウニオンが実施。	
成果	参加者はレストラン顧客の分析、従業員のマナー等の知識、より良い接客方法の演習を通じた接客サービスの仕方を学んだ。また、2日間出席した参加者は、従業員が顧客のために効率的に働いているか、清潔感があるか、接客を2分以内に行なっているか等、参加者による自己評価を研修期間中に行うことを達成した。	

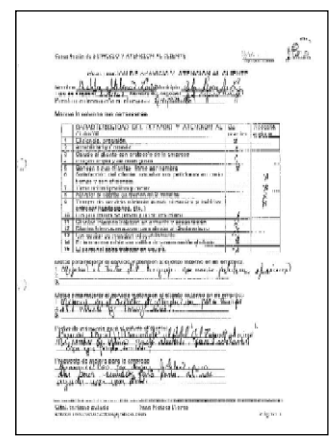

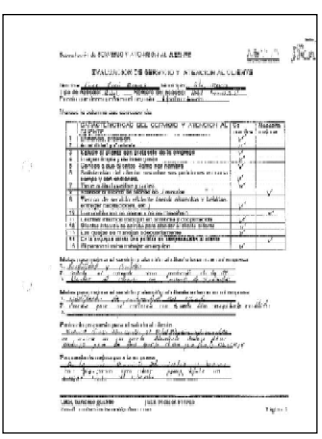


c) 接客サービス（ホテル）

接客サービス（ホテル）の概要と成果を以下に示す。

表 3.3-4 接客サービス（ホテル）研修の概要と成果

	No.6 サンタロサデリマ	
研修目的	地域のサービス向上に向けた良い接客サービス（ホテル）の方法を学ぶ	
研修内容	ホテル経営者・従業員に顧客の分析、接客サービスの仕方について講義	
研修場所	サンタロサデリマ市役所・会議室	
参加市	サンタロサデリマ（研修を要請した市）	
期間と回数	2011年11月25日および2011年11月30日、2日間	
研修時間	8:00-12:00 13:00-17:00 -計8時間	
研修員	参加者計9名、うち2日間参加したもの1名	
CDTメンバー参加者	研修員のうち1名、研修コーディネート・進捗管理1名	
講師	Juan Moises Flores	

No.6 サンタロサデリマ		
役割分担	1) 研修プログラム・内容の作成、JICA Project Team および講師を中心に CAT ラウニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を JICA Project Team と共に CAT ラウニオンが実施。	
成果	参加者はホテル顧客の分析、従業員のマナー等の知識、より良い接客方法の演習を通じた接客サービスの仕方を学んだ。また、2日間出席した参加者は、レストランにおける接客サービスの研修と同様、従業員が顧客のために効率的に働いているか、清潔感があるか、接客を2分以内に行なっているか等、参加者による自己評価を研修期間中に行うことを達成した。	
		
作成された自己評価表 1	CAT ラウニオンと共にホテル経営者へのインタビュー	作成された自己評価表 2

d) 手工芸・民芸品（貝）

手工芸・民芸品（貝）の概要と成果を以下に示す。

表 3.3-5 手工芸・民芸品（貝）研修の概要と成果（第二年次）

	No.7 ラウニオン・コンチャグア	No.8 インティブカ
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、地域資源（貝）を活用した民芸品作りの技能を習得する。	
研修内容	当市のビーチにある貝殻を使用した民芸品作りに関する講義・実習、販売活動（バザー参加）	
研修場所	ラウニオン CAT ラウニオンオフィス内研修スペース	インティブカ市役所・所有広場
参加市	ラウニオン（研修を要請した市）、コンチャグア（研修に招待された市）	インティブカ（研修を要請した市）
期間と回数	2011年10月19日～2011年12月14日まで計17回	2011年10月24日～2011年12月13日まで計16回
研修時間	火曜日 12:30-16:30 -4時間、 水曜日 8:00-12:00 13:00-17:00 -計8時間	月曜日 8:00-12:00 13:00-17:00 -8時間、 火曜日 8:00-12:00 -4時間
研修員	参加者 21名、うち全17回の研修修了生10名（修了：全工程の6割以上参加者）	参加者 22名うち、全16回の研修修了生18名（修了：全工程の6割以上参加者）
CDTメンバー参加者	研修員のうち2名、研修コーディネート・進捗管理2名	研修員としての参加はなく、研修コーディネート・進捗管理3名
講師	Karen Elena González Mayorga	
役割分担	1) 研修プログラム・民芸品デザインの検討、JICA Project Team と講師を中心に CAT ラウニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を JICA Project Team と共に CAT ラウニオンが実施。	

	No.7 ラウニオン・コンチャグア	No.8 インティプカ
成果	参加者が地域資源である貝殻を活用した民芸品作りの技術を習得した。研修では、研修員の感性・アイデアを大事にして、研修員自らのデザインによるサンダル作りが行われた。また、研修期間中に民芸品ブランドの立ち上げ、研修修了者による民芸民グループの形成、ラウニオン市におけるバザーへの参加・出展による販売活動を達成した。	
		
	ビーチにて貝を拾う	貝を使った民芸品
		
	手工芸・民芸品（貝）の研修の様子	

e) 手工芸・民芸品（水葦）

手工芸・民芸品（水葦）の概要と成果を以下に示す。

表 3.3-6 手工芸・民芸品（水葦）研修の概要と成果

No.9 エルカルメン			
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、地域資源(水葦)を活用した民芸品作りの技能を習得する。		
研修内容	水葦・民芸品の講義・研修、水葦のとり方・扱い方、販売活動（バザー参加）		
研修場所	エルカルメン市オロメガ湖近くの CDT メンバー家の空きスペース（2F）		
参加市	エルカルメン（研修を要請した市）		
期間と回数	2011年10月21日～2012年1月15日まで計36回		
研修時間	8:00-12:00、13:00-17:00 -計8時間		
研修員	参加者17名うち、全36回の研修修了生6名（修了：全工程の6割以上参加者）		
CDT メンバー参加者	研修員2名、研修コーディネーター・進捗管理2名		
講師	Juan Carlos Chavez（スチット市）		
役割分担	1) 研修プログラム・民芸品デザインの検討、JICA Project Team と講師を中心に CAT ラウニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を JICA Project Team と共に CAT ラウニオンが実施。		
成果	参加者が地域資源であるオロメガ湖の水葦を活用した民芸品作りの技術を習得した。研修を通じて、計21種類の水葦を使用した民芸品の作り方を身につけた。研修期間中に、オロメガ湖をモチーフにしたロゴを作製した。また、facebook に登録し、研修で作った水葦民芸品のインターネットによる広報・宣伝を行ってきただけでなく、オロメガ湖におけるバザーにて当民芸品の販売を自ら行うことも達成した。		
			
	作製された水葦の民芸品	手工芸・民芸品（水葦）の研修の様子	オロメガ湖をモチーフにしたロゴ

f) 手工芸・民芸品（ヒカロ）

手工芸・民芸品（ヒカロ）の概要と成果を以下に示す。

表 3.3-7 手工芸・民芸品（ヒカロ）研修の概要と成果

No.10 コンチャグア・ラウニオン		
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、地域資源（ヒカロ：木の実）を活用した民芸品作りの技術を習得する。	
研修内容	ヒカロの実を活用した民芸品作りに関する講義・研修、販売活動（バザー参加）	
研修場所	ラウニオン市 CAT ラウニオンオフィス内研修スペース	
参加市	コンチャグア（研修を要請した市）、ラウニオン（研修に招待された市）	
期間と回数	2011年11月17日～2011年12月8日まで計4回（計4週間・週1回）	
研修時間	8:00-12:00、13:00-17:00 計8時間	
研修員	参加者18名うち、全4回の研修修了生9名（修了：全工程の6割以上参加者）	
CDTメンバー参加者	研修員のうち5名（コンチャグア4名、ラウニオン1名）、研修コーディネート・進捗監理1名	
講師	Juan Carlos Chavez（スチトト市）	
役割分担	1) 研修プログラム・民芸品デザインの検討、JICA Project Team と講師を中心に CAT ラウニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を JICA Project Team と共に CAT ラウニオンが実施。	
成果	参加者が地域資源であるヒカロ（木の実）を活用した民芸品作りの技術を習得した。研修を通じて、計4種類のヒカロを使用した民芸品の作り方を身につけた。また、ラウニオン市におけるバザーへの参加・出展による販売活動を達成した。	
		
手工芸・民芸品（ヒカロ）の研修の様子1	手工芸・民芸品（ヒカロ）の研修の様子2	手工芸・民芸品（ヒカロ）の研修の様子3

(4) 第三年次における研修の概要および成果

第三年次に実施された研修の実績を以下に示す。第三年次において2012年9月より7種9コースの研修が計58回実施され、計12市・計176名が参加した。




No.1 ラウニオン		
		
料理研修の様子1	シーフード・パスタ	料理研修の様子2

b) リーダー育成

リーダー育成研修の概要と成果を以下に示す。

表 3.3-9 リーダー育成研修の概要と成果

No.2 13市リーダー対象	
研修目的	地域の観光発展に向けた CDT による観光パッケージプラン作成能力が向上する
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ CDT 活動の実践例より事例の紹介および講義 ・ ラウニオンにおける CDT リーダーによる活動紹介 ・ 観光パッケージプラン作成における演習
研修場所	ラウニオン市旧駅舎 (エスタシオン)
参加市	ポリバル、サンホセ・ラ・フエンテ、パサキナ、サンタロサデリマ、インティブカ、ラウニオン、エルカルメン、コンチャグア、メアングーラデルゴルフォ、チリラグア 計 10 市
期間と回数	2012 年 11 月 7 日
研修時間	8 : 00 - 16:00 1 日 8 時間
研修員	41 名
CDT メンバー参加者	17 名
講師	Juan Moises Flores, Osiris Salazar (Tour Operator, La Palma) Masamichi Sunada (JICA Project Team)
役割分担	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研修プログラム・内容の作成、JICA Project Team および講師を中心に CAT ラウニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を CAT ラウニオンが実施。
成果	ワークショップでは参加者は市ごとにグループに分かれ、各市の参加者による討議・協議を行い、各市による観光パッケージプランが作成された。ワークショップ後、各市によるプランの発表を行い、そのプランに対して、専門家、講師、他の参加者による、プランの妥当性の検証・問題点・改善点などのフィードバックが行われた。これらことから、期待される成果である「観光パッケージプラン作成能力が向上する」は達成された。

		
リーダー育成講義の様子	ワークショップの様子	観光パッケージのプラン

c) 手工芸・民芸品（貝）

手工芸・民芸品（貝）の概要と成果を以下に示す。

表 3.3-10 手工芸・民芸品（貝）研修の概要と成果（第三年次）


No.3 チリラグア	
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、地域資源（貝）を活用した民芸品作りの技術・技能を身につける。
研修内容	当市のビーチにある貝殻を使用した民芸品作りに関する講義・実習 研修で作製した民芸品：ネックレス 5 種類、プレスレット 5 種類、イヤリング 2 種類、キーホルダー 1 種類、髪飾り 1 種類、計 14 種類
研修場所	当市の市役所会議室 2F
参加市	チリラグア
期間と回数	2012 年 9 月 29 日～2012 年 12 月 2 日 週 1 回、計 9 回
研修時間	8:00 - 16:00 1 日 8 時間
研修員	22 名、うち全 9 回の研修の修了生 18 名（修了：全工程の 6 割以上参加者）
CDT メンバー参加者	1 名（研修受講生であり、かつ研修コーディネートをを行う）
講師	Claudia Rodriguez
役割分担	1) 研修プログラム・デザインの検討、JICA Project Team および講師を中心に CAT ラウニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を JICA Project Team と共に CAT ラウニオンが実施。
成果	研修を通じて、18 名の参加者が全 9 回の工程を修了した。これにより参加者が、計 14 種類の当民芸品の作り方を身につけることができた。研修生からは大変よく学べた、またこれからも民芸品作りを続けていきたいという声があがった。これらのことから本研修の目指した「貝を使った民芸品作りの技術・技能を身につける」は達成された。
	
<p>貝・民芸品研修の様子 1</p> <p>作製された民芸品</p> <p>貝・民芸品研修の様子 2</p>	

d) 手工芸・民芸品（竹）

手工芸・民芸品（竹）の概要と成果を以下に示す。

表 3.3-11 手工芸・民芸品（竹）研修の概要と成果

No.4 コンチャグア	
研修目的	地域の産業発展に向けて、竹を活用した民芸品作りの技術・技能を身につける
研修内容	当市にある竹を活用した民芸品作りに関する講義・実習 研修で作製した民芸品：ワインホルダー 2 種類（通常 1、絵入り 1）、ジョッキ 2 種類（通常 1、絵入り 1）、ティッシュ入れ 2 種類（通常 1、絵入り 1）、鉛筆立て 3 種類（通常 1、絵入り 2）、ロウソク立て 3 種類、キーホルダー 2 種類、フルーツ入れ、竹飛行機、ランプ、小物入れ、車輪つきワインホルダー、プレスレット、計 20 種類
研修場所	当市の観光センター（Centro Turistico de Conchagua）
参加市	コンチャグア

No.4 コンチャグア				
期間と回数	2012年9月24日～2012年12月4日 週2回、計22回			
研修時間	8:00～16:00 1日8時間			
研修員	14名、うち全22回の研修の修了生12名（修了：全工程の6割以上参加者）			
CDTメンバー参加者	2名（研修受講者2名、受講生以外でコーディネートを行ったCDT1名）			
講師	Juan Carlos Chavez			
役割分担	1) 研修プログラム・民芸品デザインの検討、JICA Project Teamと講師を中心にCATラウンニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務をJICA Project Teamと共にCATラウンニオンが実施。			
成果	研修を通じて、12名の参加者が全22回の工程を修了した。これにより参加者が、計20種類の当民芸品の作り方を身につけることができた。また講師は、参加者の多くは大変良く学べたと述べており、参加者からも大変良く学べたという声が多かった。これらのことから本研修の目指した「竹を使った民芸品作りの技術・技能を身につける」は達成された。			
				
<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:33%;">竹・民芸品研修の様子1</td> <td style="width:33%;">作製された民芸品</td> <td style="width:33%;">研修の様子2</td> </tr> </table>		竹・民芸品研修の様子1	作製された民芸品	研修の様子2
竹・民芸品研修の様子1	作製された民芸品	研修の様子2		

e) 手工芸・民芸品（アルミ細工）

手工芸・民芸品（アルミ細工）の概要と成果を以下に示す。

表 3.3-12 手工芸・民芸品（アルミ細工）研修の概要と成果

No.5 エルカルメン	
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、アルミを使った民芸品作りの技術・技能を身につける
研修内容	民芸品適用に向けたアルミの扱い方・染色の仕方についての講義・実習 研修で作製した民芸品：キーホルダー、花型マグネット、ハート型マグネット、クロス（十字架）、ボトル、小物入れ4種類、計9種類
研修場所	当市・研修参加者の家 (Iliana Lourdes Vasquez)
参加市	エルカルメン
期間と回数	2012年9月21日～2012年10月7日 週3回、計9回
研修時間	8:00～16:00 1日8時間
研修員	14名、うち全9回の研修の修了生13名（修了：全工程の6割以上参加者）
CDTメンバー参加者	2名（研修受講者であり、かつコーディネートを行う）
講師	Juan Carlos Chavez
役割分担	1) 研修プログラム・民芸品デザインの検討、JICA Project Teamと講師を中心にCATラウンニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務をJICA Project Teamと共にCATラウンニオンが実施。
成果	研修を通じて、13名の参加者が全9回の工程を修了した。これにより参加者が、計9種類の当民芸品の作り方を身につけることができた。また講師は、参加者の多くは大変良く学べたと述べており、参加者からも大変良く学べたという声が多かった。これらのことから本研修の目指した「アルミを使った民芸品作りの技術・技能を身につける」は達成された。

No.5 エルカルメン		
		
アルミ・民芸品研修の様子1	研修で作製された民芸品	アルミ・民芸品研修の様子2

f) 起業セミナー（観光関連）

起業セミナーの概要と成果を以下に示す。

表 3.3-13 起業セミナー（観光関連）の概要と成果（第三年次）

	No.6 メアングーラ・デル・ゴルフオ	No.7 サンアレホ
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、研修参加者による起業プランの作成能力が向上する。	
研修内容	起業のコンセプト、経営、投資コスト、会計・資金管理などについて講義	
研修場所	当市の小・中学校（Complejo Educativo）の教室スペース	当市・金融機関（CAJA de CREDITO）の多目的スペース
参加市	メアングーラデルゴルフオ	サンアレホ
期間と回数	2012年10月4日、5日（2日間）	2012年10月9日、10日（2日間）
研修時間	8:00 - 16:00 1日8時間	
研修員	参加者計14名、うち2日間参加したものの9名	参加者計18名、うち2日間参加したものの9名
CDTのメンバー参加者	4名（研修受講生4名、うち1名が研修コーディネート）	3名（研修受講生3名、うち1名が研修コーディネート）
講師	Juan Moises Flores, Masamichi Sunada (JICA Project Team)	
役割分担	1) 研修プログラム・内容の作成、JICA Project Team および講師を中心に CAT ラウニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を JICA Project Team と共に CAT ラウニオンが実施。	
成果	研修を通じて、メアングーラデルゴルフオおよびサンアレホ共に9名の参加者が2日間にわたったセミナーに参加し、起業のプランを作成した。作成されたプランでは、今後自分達が行っていく活動、必要とされる資金等を記載することができた。これらことから本研修の目指した「起業プランの作成能力が向上する」は達成された。	
		
	起業セミナー講義の様子	ワークショップの様子
		
		作成されたプラン

g) 観光開発基礎セミナー

観光開発基礎セミナーの概要を以下に示す。

表 3.3-14 観光開発基礎セミナーの概要と成果

	No.8 チリラグア	No.9 ヤヤンティケ	
研修目的	地域の観光の発展に向けて、研修参加者のイベント開催のプランの作成能力が向上する。		
研修内容	1.観光基礎知識向上における講義（観光と経済、社会、環境の関連性等） 2.観光に関するイベント開催における講義		
研修場所	当市の市役所会議室 2F	当市の市役所会議室	
参加市	チリラグア	ヤヤンティケ	
期間と回数	2012年10月20日、21日（2日間）	2012年10月11日、12日（2日間）	
研修時間	8:00 - 16:00 1日8時間		
研修員	参加者計17名、うち2日間参加・4名	参加者17名、うち2日間参加・17名	
CDTのメンバー参加者	2名（研修受講生であり、かつコーディネートをを行う）	4名（研修受講生4名、うち1名が研修コーディネーター）	
講師	Juan Moises Flores, Raul Torres (CAT La Union), Masamichi Sunada (JICA Project Team)		
役割分担	1) 研修プログラム・内容の作成、JICA Project Team および講師を中心に CAT ラウニオンを含めて実施。 2) 各市の参加者召集、場所確保などのロジ業務を JICA Project Team と共に CAT ラウニオンが実施。		
成果	研修を通じて、ヤヤンティケで17名およびチリラグアで4名の参加者が2日間にわたったセミナーに参加し、イベントの開催プランを作成した。プランでは、イベントのプログラムの検討に加え、他団体とのコーディネーション、ロジスティックなどのグループごとの役割を決定することができた。また、研修ではイベント開催の中心的な役割となる CDT メンバーを必ず入れ、イベントの実現に向けてフォローがなされるように配慮した。これらのことから本研修の目指した「イベント開催のプランの作成能力が向上する」は達成された。		
			
	イベント開催の講義 1	イベント開催の講義 2	作成されたプラン

(5) 第二年次および第三年次における成果

第二年次において2011年10月より6種10コースの研修が計85回実施され、計9市・計216名が参加した。第三年次において2012年9月より7種9コースの研修が計58回実施され、計12市・計176名が参加した。第二年次及び第三年次を通じてフォンセカ湾13市にて研修が実施され、活動3.1の指標である「パイロットプロジェクト地域における

すべての観光委員会/観光協会でニーズに基づく研修が最低 1 研修実施される」が達成された。

起業セミナーやイベント開催に関するセミナーでは参加者による今後の活動プランが作成され、民芸品研修については多くの参加者が研修の工程を通じてその作り方を身につけた。また、研修の実施を通じて、民芸品や研修者の様子が全国に報道され、効果的な広報に努めた。

(6) 教訓・提言

<関係者との密なコミュニケーション>

- ・ CAT ラウニオンの研修実施方法として、研修支援団体の CONAMYPE からの紹介による講師の提案によって研修の内容を任せる傾向があることと、研修実施予定のコミュニティにおいて CDT を含めてあまり研修内容を議論してこなかったことが挙げられる。これらの関係者と密にコミュニケーションをとり、地元観光関係者(CDT、観光業者)の意見をうまく取り込み、また CAT ラウニオン自身の観光の知見・経験を講師に伝えていくことで、観光の視点やコミュニティの意見を十分に含んだ研修内容となることが可能と考える。
- ・ よって、研修を実施する前に、コミュニティにて CDT を含めてミーティングを持ち、研修実施に必要な情報を確認し、その情報をもとに講師や関係者と共に研修内容を検討していくことが求められる。

<目標・研修回数の設定>

- ・ 研修では、目標を設定し、それを達成するために必要な研修回数を入念に検討することが重要である。セミナー形式の研修の場合、成果物としてワークショップを通じたプランの作成(起業プラン、イベント開催プランの作成等)が求められることが多いことから、1日もしくは2日間の研修回数で目標を達成できるかもしれないが、民芸品研修の場合、研修の回数が少なすぎると参加者はその民芸品作製の技術を身につけることができない。民芸品研修の場合、最低 15 回、可能ならば 30 回程度の研修回数を設定することが望まれる。研修の目標を定め、それを達成するために必要な研修回数を計画段階にてしっかりと考えていく必要がある。

<参加者の選定>

- ・ 研修の参加者は研修が行なわれる市の CDT 代表もしくは CAT ラウニオンから呼びかけられ召集される。セミナー形式の研修では 20 - 25 名、民芸品の研修では 15 - 20 名が召集される。
- ・ 研修開始前に、研修参加予定者とミーティングを持ち、そこで、学ぶ意欲があり研修を修了までやり遂げる意思があるかどうかの確認が行なわれるが、召集された人々は、主に興味で参加し、もしくは召集されたことが理由でミーティングに来たという場合が多々あり、現金収入向上を通じて自身の生活をよくしようと考え参加する人はごく少数

である。研修に参加する人々の多くは、研修に参加するのが初めてであり（民芸品研修の場合は特に）、初めての分、技術を身につけ、活動・販売を行えるようになるのに時間がかかる。これらの人々に研修を行うことは、彼らにとって何か活動をはじめめる動機付けとなることで有効であると考えられるが、他方で、観光に関する技術と経験をすでに持ち、それらを伸ばしていく意欲がある人々に焦点をあてて研修を行うことも有効かと考えられる。例えば、各市のそういった技術・意欲を持つ2、3人を選定し、彼らに集中的に研修を行うことが挙げられる。この方法を通じて、少人数ではあるが、技術が集中的に磨かれ、それらの人々を通じて、各市の観光が発展・開発されていくことも考えられる。

3.3.2. 活動3-2：各観光委員会や観光協会において規約や定款の作成もしくは改善を行う

CDT 設立は、CORSATUR（あるいは CAT 事務所）が CDT 設立のための会議を持った時の場所と日時、CORSATUR からの参加者名、役員会のリストなどを記した宣誓記録（ACTA JURAMENTACIÓN JUNTA DIRECTIVA）の作成をもって確定する。このとき CDT の役割・内容などの確認は行われるが、規約の作成は行われていない。

パイロットプロジェクト対象 13 市の CDT は、プロジェクト開始時点では、いずれの CDT も規約を有していなかった。法人化すれば内部規約を所有する必要があるが、法人化した 5 つの CDT はこれを作成していなかった。規約を必要とするような活動はしてこなかった、という背景がある。

その後 2012 年にインティプカと地域 CDT において規約が作成された。そこで 2013 年 1 月に各 CDT に適応可能な規約のモデルを作成し、CORSATUR と各 CDT に配布し、これを参考にして夫々の CDT に相応しい規約を作成するように依頼した。

以下に支援結果を記載する。

CDT	規約作成状況	主な事項
ラウニオン	規約が作成され、総会での承認待ち	会費は 3 ドル / 月
コンチャグア	規約が作成され、総会での承認待ち	会費は 5 ドル / 月、規約は CDT 独自で作成。
バサキナ	規約が作成された。	会費なし
エルカルメン	規約が作成された。	会費は 2 ドル / 月。事業内容に環境保護に関する事項を追加。
インティプカ	規約が作成された。	規約は CDT 独自で作成。会費は無し。協同組合に 5 ドル / 月納めている。
サンタロサデリマ	規約が作成された。	会費は 10 ドル / 年
ヤンティケ	規約が作成された。	会費は 5 ドル / 月
メアンゲーラデルゴルフ	規約が作成された。	会費は 5 ドル / 年
サンホセ	回答なし	
ポリバル	回答なし	
サンアレホ	回答なし	
ユクァイキン	回答なし	
チリラグア	回答なし	

最終的に 8 つの CDT がこのモデルを参考にして規約/定款を作成することができた。作成

できなかった主な市の理由は以下のとおりである。

- ボリバル：CDT が崩壊状態にある。
- サンホセ：CDT の再構築中で、規約の検討はその後になる
- ユクアイキン：CDT の再構築中で、規約の検討はその後になる

3.3.3. 活動 3-3：大学や NGO、観光業者、行政機関などの関連機関と観光委員会 / 観光協会のネットワークを強化する

本活動における実績として、パイロットプロジェクトや研修、国内研修などの場を通じて CDT を支援する関連機関との接点は多くあった。以下にその主要なものを上げる。

CONAMYPE

経済省の下部機関で、中小企業の支援をしており、全国に 12 の事務所があり、ラウニオン市周辺地域を管轄する事務所はサンミゲル市にある。

パイロットプロジェクト「マングローブツアー」では CDT インティプカの法人化手続きで大きな支援を受け、「観光地図（WEB）」ではワークショップのファシリテータ確保のために支援を受けた。

MEGATEC ラウニオン校

MEGATEC には観光学科があり、MEGATEC では本プロジェクトとの接点を求めており、CAT ラウニオンに 2 名の学生をインターンとして派遣していた。

具体的な関係としては、パイロットプロジェクト「観光環境教育」では、MEGATEC からはテキスト作成に関する資料提供および講師派遣の支援を受けた。また、観光に関するコンセプトの作成においてもいくつかの CDT は MEGATEC の学生の支援を受けた。また、MEGATEC で例年行われている卒業のためのイベントに専門家が招待され、これらの活動の中から MEGATEC とのネットワークを広げた。

INSAFOCOOP(エルサルバドル協同組合促進機関)

インティプカとヤヤンティケが協同組合の結成に関して INSAFOCOOP の支援を受けた。インティプカでは引き続き、組合の管理・運用マニュアルの作成のための支援も受けた。

CDMYPE(中小企業開発センター)

インティプカは、ビジネスプラン作りにおいて CDMYPE の支援を受けた。

その他の関係機関との接点として、以下のようなものがある。

- ・ 地域 CDT および各 CDT と ASOTUR による相互の交流を支援した。
- ・ NGO(Amigos de la Tierra)と環境保護地域およびマングローブの実態について打合せを行い、マングローブツアーに関するネットワークを築いた。
- ・ 東部地域 Andrés Bello 大学の観光プロジェクト計画会議に出席した。
- ・ 2012 年 2 月 10 日～12 日に実施した、「フォンセカ湾島巡りツアーファムトリップ」には首都サンサルバドルの旅行業者も参加した。

このように関係機関との接点は多いが、接触する人が限定的であること、継続性がないこと、が課題である。

3.3.4. 活動 3-4：観光委員会 / 観光協会相互の交流（第三国研修を含む）を強化する

第三国研修は第一年次と第三年次に実施された。その詳細は第 4 章投入実績で記述する。

第一年次：グアテマラ国への第三国研修

第三年次：ホンジュラス・ニカラグア国への第三国研修

CDT 相互の交流として行われた主な活動には以下のものがある。

CDT 全国大会(MITUR/CORSATUR 主催)

1 年に 2 回 MITUR/CORSATUR が全国の CDT を招集し、能力強化を図るための研修を実施している。各 CDT から 2, 3 名が参加し、全体としては 300 名を超える規模となる。参加者間の交流が活発に行われ、CDT の活動の事例などの発表もあり、CDT の活動に必要な知見を得る貴重な場となっている。

西部地域への国内研修

背景

MITUR/CORSATUR による CDT 能力強化に向けて、第一年次では MITUR/CORSATUR 主導によるグアテマラへの第三国研修を実施し、JICA グアテマラ国観光自治管理委員会強化プロジェクトにより強化された観光自治管理委員会の成功事例を学び、今後の強化策の参考とした。

第二年次においては外国の先行事例を学ぶだけでなく、「エ」国内（特に観光開発において先行する西部地域）の事例を参照することの重要性も MITUR/CORSATUR より推奨され、第二年次においては西部観光地域を訪問する国内研修を実施した。

目的

CDT の能力強化を目的とした「エ」国西部地域への研修は、MITUR/CORSATUR 主導で実施された。

この研修は下記の目的で行なわれる：

- 「エ」国西部地域の観光における成功事例を学ぶ。
- 「エ」国西部地域の観光市場について学ぶ。
- 一村一品運動がどのように実施されているかを学ぶ。

この研修の参加者は、本プロジェクトに関係する 13 市の CDT メンバーを中心とする。参加者は各 CDT からのメンバーを中心に MITUR/CORSATUR および JICA プロジェクトチームを含め、40～50 名のグループとなる。

この研修は、ラウニオンから下記の観光地や市の CDT を訪れながら、実施する：

スチトト、コアテペケ湖（エルコンゴ）、アパネカ、サンロレンソ、フアユア

訪問した市の CDT、CAT が実施している活動について、その経験や経緯、実施中の業

務について説明を受け意見交換を行う。併せて、現地視察を実施する。

スチトとコアテペケ湖（エルコンゴ）、アパネカとファユアの観光セクターとの意見交換会を行なう。

日 程

<1日目：2012年2月17日（金）>

旅 程	内 容
6:00 スチトに向けてラウニオンを出発	車中にてオリエンテーション
8:30 途中休憩	
11:00 スチト到着 市内視察、スチト湖、John Coto 博物館見学	スチト市長表敬訪問 CDT スチト・CAT メンバー同行
12:00 スチト CDT によるプレゼンテーションおよび意見交換	スチトの国内外客誘致、景観整備、CDT 活動などについての意見交換
14:00 コアテペケ湖にて出発	エルコンゴ市長表敬訪問
16:00 コアテペケ湖に到着、CDT エルコンゴメンバーとともにコアテペケ湖視察	他プロジェクト活動視察、展望台視察
17:00 CDT エルコンゴ CDT メンバーとの会合	CDT エルコンゴによるプレゼンテーション
19:30 アパネカに向けて出発	
20:45 アパネカに到着、 21:00 アタコへ出発（希望者のみ）	アタコ市内視察
23:00 ホテルへ到着	

<2日目：2012年2月18日（土）>

旅 程	内 容
7:00 サンロレンソに向けて出発	
8:30 サンロレンソ到着、 一村一品運動（ホコテレッドパロン）の活動視察	市役所表敬訪問 CDT サンロレンソのプレゼンテーション
12:00 ファユアに向けてサンロレンソを出発	
13:30 ファユア到着、地域“食祭り”視察（通常は日曜日に開催）視察（CDT ファユアメンバーとともに）	CDT ファユアメンバー同行
17:00 ラウニオンにむけてファユアを出発	バスの中で各自の体験について意見交換
21:00 ラウニオン到着	

研修の結果

2012年2月17日、18日の二日間に渡り、総勢45名が参加した。

主な研修目的は MITUR/CORSATUR の支援による東部地区各 CDT の能力強化であり、観光先進地区である西部地域の各 CDT の活動を参照することにより、今後の東部地域 CDT の活動促進に資するものとした。

西部地域各 CDT の活動報告は以下のように行われた。

スチト

「工」国内唯一の“歴史文化都市”として15年前に国から指定を受けた。その維持と発展に下記のような工夫と活動が行われ、「工」国内の観光都市としての名声を得てきた。観光促進の主な重点活動は以下に集約される。

- (1) 街の美観整備（清掃）

- (2) 建築物の景観整備
- (3) 文化活動
- (4) 観光客の安全確保

一方、CDT の活動の歴史も古く、CAT スチト内の CDT 間に多少の格差はあるものの週一回の定期的な会合を開き、広く官民の連携を保つ CDT もある。その活動内容と実績は東部地域 CDT の今後の活動に大いに模範となるものが多かった。



エルコンゴ

エルコンゴは CONAMYPE の支援のもとに一村一品運動として観光を取り上げた「エ」国では初めての自治体であり、これまで一定の成果を挙げてきた。

その特徴的な活動は以下に集約される。

- (1) 青少年の観光への重点的取り組み
- (2) 活動のイメージキャラクター(TABUTO)の製作



サンロレンソ

日本の支援による一村一品運動は「エ」国において数多く実施されているが、その中での成功例の一つである。ホコテ（農産物）を活用した長年の取り組み（ホコテレッドバロン）により、村おこし、地域開発が行われている。

ワークショップではその長年の取り組み方や様々な課題も紹介され、東部地域においても観光に限らず一村一品運動への取り組み方が学習された。併せて、CONAMYPE との連携についての理解も深まった。



フアユア

土日・祝日に歩行者天国にて各種食べ物の屋台などによる縁日（祭り）を実施し、近郊各地や遠くグアテマラ・ホンジュラスからも観光客が訪れている。長年に渡る経験と実績・課題が紹介され、東部地域においても同様な企画を実施する際の模範例として参照するところがあった。また、祭りにおける CDT の役割についても学ぶべき点が数多く伝えられた。



パイロットプロジェクトの立ち上げ式

2011年9月22日、MEGATEC ラウニオン校にて観光大臣、CORSATUR 長官、JICA 代表者、カウンターパート、各 CDT 参加の下、CORSATUR にて最終的に確定されたパイロットプロジェクト 5 件の内容説明などの開始式典が盛大に開催された。

大臣が当プロジェクトでラウニオンを訪れたのは 2 回目、また 13 市の CDT 関係者が直接大臣に会う機会は初めてのケースで、当プロジェクト関係者に与えたインパクトは大きかった。



プレゼン資料の手渡し

中間レビュー時の CDT 会合

中間レビュー調査団ができるだけ多くの CDT メンバーからのヒアリングを希望していたことから、2012年6月19日に13市のCDTに参加を呼びかけてCDT会合を催した。午前中にはCATラウニオン、地域CDT代表からCDTの強化に関するプレゼンテーション、JICAプロジェクトチームからは観光開発コンセプト策定についての説明があり、午後には中間レビュー調査団を交えてCDTメンバー間の意見交換も行われた。



日本大使館および観光省のプロジェクト視察時の CDT 会合

日本大使館(参事官)、MITUR(観光副大臣)、JICA事務所(所長)によるプロジェクト視察が2012年11月17日、18日の2日間行われ、17日には13市のCDTメンバーがホテルコンフォートイン(ラウニオン市)の会議室に参集した。CDTの各担当者が5つのパイロットプロジェクトと研修についてのプレゼンテーションを実施し、その後質疑応答が行われ、CDT相互の交流が強化された。



13市の観光開発に関するコンセプトの発表会

2013年2月21日、サンミゲル、ウスルタン、およびモラサン県のCDTメンバーを招待し、ホテルコンフォートイン(ラウニオン市)において「観光開発に関するコンセプト」の発表会が開かれた。13市全てのCDTがコンセプトを発表し、東部地域4県におけるCDT相互の交流が強化された。



3.3.5. 活動3-5: 関係する観光委員会 / 観光協会ごとに観光開発に関するコンセプトを作成する

観光開発に関するコンセプトは、市の将来における観光開発の方向性を定めるものであり、この策定にあたっては、CDTおよび市としての観光開発のビジョンを定め、それに向けての活動計画を作成し、関係者間の共通認識を形成する。また、対外的に自分達CDTを知ってもらおうと同時に市の観光についてプロモーションできる材料となる。このような作業を通じて、CDTおよび市の目標が定まると同時に、観光開発能力が高まり、一緒になって地域の観光資源の再認識ができる。

観光開発コンセプトの策定プロセスについては、まず、CORSAUR/CAT、CDT、地域CDT、市の関係者などと観光開発コンセプト策定のための参加者と委員会を結成する。その委員

会を中心に市の観光開発における現状を整理し、既存の観光開発計画のレビューおよび東部地域の観光開発計画の指針を確認する。次に観光開発ビジョンを作成し、その達成に必要で具体的な観光開発プロジェクトを検討し、短中長期計画に整理することとした。

コンセプトの策定は2012年7月から開始し、同年の11月末には終了することを目標とし、コンセプト策定の概要とスケジュールについては2012年6月19日に行われたCDT集会の場で説明したが、この集会に不参加のCDTもあり、また参加したCDTも人数が少なかつたことから、各CDTを訪問して観光開発コンセプトづくりについて説明した。

実際には予定通り進まないCDTも多くあったことから、2013年2月21日に各市のコンセプトの発表会を実施するスケジュールを定め、この日をターゲットとして作成することとした。この方針のもと2013年1月初めにMEGATECに支援を求め、観光学科の学生を動員して、進捗の遅いCDTのコンセプトづくりを支援した。

2013年2月21日には、終了時評価ミッション、ウスルタン、サンミゲル、およびモラサン県のCDT参加のもとに13市全てのCDTがコンセプトを発表した。指標としては、少なくとも8つのCDT/ADTにおいてコンセプトが作成されるとしていたが、13市全てで作成されたことになる。

(添付資料-17: 13市の観光開発に関するコンセプト)

3.3.6. 活動3-6: 観光委員会 / 観光協会のドナー機関やNGOに対する資金協力を含む支援依頼にかかるプロポーザル作成能力を強化する

観光開発に関するコンセプトの策定のプロセスにおいて、代表的な観光開発プロジェクトを抽出し、プロポーザルを作成することとする。

表 3.3-15 観光開発コンセプトにおける13市の優先プロジェクトと支援実績

市	優先プロジェクト	支援実績	
ポリバル	市の観光を促進する活動の組織化	×	
チリラグア	中央公園の再建	×	
コンチャグア	タマリンド海岸開発		CORSATUR、MOPと連携し作成
エルカルメン	駅舎における工芸品観光列車とイメージの改善プロジェクト		
インティブカ	マングローブとカヤックツアーのシステムに基づいたインティブカ市観光開発のためのメカニズム構築		
ラウニオン	旧駅舎 ・設備として博物館、食堂、民芸品売り場および観光者のための案内所を設置する。		
メアングーラデルゴルフ	船着場の生きた博物館への転換		
バサキナ	観光環境教育 ・バサキナの全ての学校に普及する		道路整備のプロポーザルを作成
サンアレホ	公園建設	×	
サンホセ	ギジェルモコルテス大尉を称えるエコ公園の創設	×	
サンタロサデリマ	シナイ総合公園プロジェクト		
ヤヤンティケ	観光情報のためのキオスク建設	×	
ユカイキン	スバサルトオスクロの改善計画		

プロポーザル作成にあたっては、サンプルを提示し、その作成をフォローする、という方法で実施した。

優先プロジェクトと実際に作成したプロポーザルの内容が異なった市にはパサキナがある。プロポーザルのタイトルは、サンセバスティアンまでの道路整備となった。

13市のうち実際にプロポーザルを作成することができたのは8市であり、5市は作成することができなかった。できなかった主な理由としては、CDTが崩壊状態にある(ポリバル)、CDTの再構築中で、プロポーザルの作成などはその後になる(サンホセ)などの理由が上がっている。

3.4. 成果4:MITUR 及び CORSATUR におけるパイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会支援能力が向上する (MITUR/CORSATUR の能力向上)

3.4.1. 活動4-1:MITUR 及び CORSATUR の観光委員会 / 観光協会とのコミュニケーション能力を強化する

パイロットプロジェクト・研修の実施を通じて、また「活動3-4」の諸活動を通じて、MITUR/CORSATURの観光委員会/観光協会とのコミュニケーション能力は強化された。

3.4.2. 活動4-2:MITUR 及び CORSATUR による、他ドナーやNGOからの資金提供を受けるために必要な観光委員会 / 観光協会のプロポーザル作成及びプロジェクトの企画・運営等の能力強化にかかる支援を実施する。(本邦研修を含む)

本邦研修は第二年次(参加者1名)と第三年次(参加者4名)に実施された。これらの詳細については、第4章投入実績、「4.2. 研修員受入実績」で記述する。

本活動で実施された、その他の活動は以下のとおりである。

パンフレットの作成:

(1) フォンセカ湾岸地域周辺の観光パンフレットの作成(第一年次)

グアテマラへの第3国研修を計画したときに、フォンセカ湾岸地域周辺の観光宣伝をするのに必要な観光パンフレットがなかったため、プロジェクトチームとカウンターパートチームがCORSATURのマーケティング部とかけあって、研修旅行の出発に間に合うようにパンフレットをデザイン、印刷した。



(2) 米国カリフォルニア州大学の海事学校のラウニオン訪問(第二年次)

2012年6月中旬、米国カリフォルニア州大学の海事学校の約350名を越える学生がラウニオンを訪問し、4日間滞在した。この大勢のお客人を地域で受け入れ、観光ツアー商品(17種類)を販売するためのパンフレットを製作した。CORSATUR、地域CDTが中心となり、ラウニオン市や各CDTと連携しながら対応した。ワードソフトを利用することで誰でも作成しやすいものとした。



We recommend you to stay around our tourism area between La Estación and Central Park.

Places to eat in La Unión: Dragón. *Chinese* (100 maximum person) / Amanecer Marino *Seafood* (120 max) / Comfort inn *Buffet* (100 max) / Oasis Luna *Seafood* (100 max) / Bahías bear. *Seafood* (100 max) / Miramar *Seafood* (60 max) / Cappuccino *Sandwiches & gourmet coffee* (20 max) / Casa Jardín *Sandwiches & fresh fruit juice* (20 max) / Pollo Campero *chicken* (120 max) / Pollo Campesino. *Chicken* (20 max) / El Jacalito *Salvadorian food* (50 max) / La Posada de Osmin *Salvadorian food* (50 max) / Super Mondongo. *Desayuno y almuerzo* (75 max) / Pupusas El Puerto. *Pupusas* (30 max)

Places to eat in Conchagua: Villa central

Salvadorian food (100 max) / Posada de Diocelin *Salvadorian food* (50 max) / Pupudromo (350 max)
To buy souvenir in La Unión: Artacoronal
To buy souvenir in Conchagua: Bazar Xochil / Artesanías Ponce
To dance and sing at night in La Unión: Renatos / Bahía Beer / Las Lunas
Pharmacy from 8:00 to 11:00. Nueva San Francisco in front of the City Hall
Doctor Erick Flores 7861-0598
CAT La Unión (Centro de Amigos del Turista) 2604-0470



Our Tourism Committee is here to give you information and support at: **the deck, at "La Estación", at CAT.**

TUESDAY, WEDNESDAY & THURSDAY

* All our tours include transportation and bilingual guide!

1. Transportation to La Estación Cultural Festival 18:00 to 21:00 (minimum 10 persons)
\$ 2.00
2. Walking Tour from La Estación 15:00 to 19:00 (maximum 15 persons)
\$ 1.00 (without transportation)
3. Express Conchagua town 18:00, 19:00, 20:00 (minimum 8 persons)
\$ 6.00
\$ 15.00 (with gastronomy show)
4. Transportation to Playitas beach 12:00, 14:00, 16:00 (minimum 8 persons)
\$ 7.00
5. Traditional fishing lesson 17:00 - 22:00 (maximum 6 persons/each night)
\$ 25.00 (included boat ride, fishing lesson with material needed, snack and non alcoholic drinks)
6. City Tour in La Unión from La Estación with bus 16:00, 17:00, 18:00 - 22:00 (minimum 10 maximum 50 persons)
\$ 10.00

SPECIAL HALF DAY FOR TUESDAY

* All our tours include transportation and bilingual guide!

1. Island tour 13:00-17:00 (minimum 7 maximum 40 persons)
\$ 17.00
\$25.00 (with lunch)
2. Conchagua volcano tour 12:30-18:00 (minimum 7 maximum 25 persons)
\$ 35.00 (included lunch)



WEDNESDAY & THURSDAY

* All our tours include transportation and bilingual guide!

1. Island tour 9:00-16:00 (minimum 7 maximum 60 persons/each day)
\$25.00
\$ 35.00 (included lunch)
2. Conchagua Volcano, trekking and little canopy (minimum 7 maximum 25 persons/each day)
\$25.00 (8:00- 12:00 with snack)
\$35.00 (12:30- 18:00 included lunch)
3. Town and Country in Pasaquina, Water park, Santa Rosa de Lima, trekking, 8.30 - 16:30 (minimum 5 / maximum 50 persons/each day)
\$33.00 (included lunch)

4. Beach day at Eco-place Tortuga Verde 9:00 - 17:00 (minimum 7/maximum 100 persons/each day)
\$25.00
\$35.00 (with lunch)
\$15.00 (Optional surf class)
\$15.00 (Optional kayak class, only evening)
5. Mangrove Forest in Intipucá and Las Tunas beach 8:30 - 17:00 (minimum 7/maximum 20 persons/each day)
\$38 (included kayak lesson and lunch at Las Tunas beach)
6. Alegria Lagoon, trekking, hiking and coffee tour 8:00 to 17:00 (minimum 7 / maximum 50 persons/each day)
\$ 36.00 (included lunch)
\$8.00 (Option: "High Rope Canopy")
7. Tour to San Miguel for shopping and Night life 16:00 - 23:00 (minimum 10/maximum 50 persons/each day)
\$ 15.00

8. Tour "Ruta de Paz" in Perkin for home of the museum of history of civil war, you can enjoy nature and history 7:00 to 17:00 (minimum 10 / maximum 50 persons/each day)
\$ 40.00
9. City tour and Shopping in San Miguel 8:00 to 15:00 (minimum 10 / maximum 50 persons/each day)
\$ 15.00




If you join our tour, you can support our tourism association in this region. We appreciate your participation.


- (3) 2012年9月30日から10月7日にクラサオ(カリブ海の島)にて行われた FCCA (Florida-Caribbean Cruise Association) に参加するため、CORSATUR、地域 CDT と協働し、ラウニオン港を中心としたフォンセカ湾の観光に関するパンフレットを作成した。

Tourist Information


Places to eat in La Unión: Dragón Chinese (100 maximum person) / Amanecer Marino Seafood (180 max) / Hotel Comfort inn Buffet (100 max) / Oasis Luna Seafood (100 max) / Bahías beer. Seafood (100 max) / Miramar Seafood (60 max) / Cappuccino Sandwiches & gourmet coffee (20 max) / Casa Jardín Sandwiches & fresh fruit juice (80 max) / Pollo Campero chicken (180 max) / Pollo Compieste, Chicken (80 max) / El Jacalito Salvadorian food (50 max) / La Posada de Osmín Salvadorian food (50 max) / Super Monseñor Salvatorian food (75 max) / Pupusas El Puerto, Pupusas (30 max) Places to eat in Conchagua: Villa central Salvadorian food (100 max) / Posada de Diocelin Salvadorian food (50 max) / Pupusodromo (350 max) To buy souvenir in La Unión: Arte Colonial To buy souvenir in Conchagua: Bazar Xochil / Artesanías Panice To dance and sing at night in La Unión: Renatos / Bahías Beer / Las Lunas Pharmacy: from 7:00 to 9:00 Nueva San Francisco in front of the City Hall CAT La Unión (Centro de Amigos del Turista) Tourist Information Office: +(503)2604-0470 cat.launion@gmail.com



If you need more information you can visit Our Website www.visitaelgolfo.com cdtregionalgolfo@elgolfo.com




Port of "La Unión Centroamericana"




Golden Bear from California, USA
12 Jun, 2012

www.elsalvador.travel



Welcome to GOLFO de FONSECA

- Island tours
- Volcano tours
- Mangrove tours
- Beach tours
- Towns tours
- Traditional fishing classes
- Adventure
- & more



Adventure in Golfo de Fonseca



Perfect waves, Surfing in Las Flores Beach



Keyaking/Mangrove Tour, El Esterón Beach, Intipucá (www.intipucacatours.com)



Second oldest Antique Colonial Church In El Salvador at Conchagua



Trekking Tour at Conchagua Volcano



Islands Tour at...



Golfo de Fonseca

See the places you've only dreamed about or have seen in pictures. We make it easy to have your travel dreams come true, with expert planning and the best resources in Golfo de Fonseca! Yes, now you can travel worry-free and have the adventure of a lifetime!

Gastronomy



MARISCADA, Shrimp, Oyster (Seafood) And typical food PUPUSAS.



Culture

Traditional Dress and Dance



Olomega Lagoon/Handicraft/Accessories





また、CORSATUR や地域 CDT が参加したスペインでの国際観光フェアや第三国研修（ニカラグア、ホンジュラス）にも上記のパンフレットを配布した他、以下の島巡りツアーのパンフレットも利用した。

3.4.3. 活動 4-3: MITUR 及び CORSATUR は、パイロットプロジェクト地域において法人格を持たない観光委員会の法人化を行う

CDT の設立への動き

フォンセカ湾岸地域 13 市の中で最後まで CDT の無かったメアンゲーラデルゴルフォ、チリラグアおよびヤンティケの 3 市に CDT が設立し（2012 年）、13 市全てに CDT が設立されたことになった。

CDT の法人化への動き

13 市のうち法人格を持たない 8 つの CDT の中から、少なくとも 3 つの CDT を法人化することを目標としたが、具体的な法人化の手続きに入ったのは 2 市であり、2013 年 6 月時点でこれらの CDT は法人化されていない。但し、法人化するかどうかは CDT の意志であり、CORSATUR としては特別な支援はしない、という方針を確認した。

CDT インティプカは、当初 CORSATUR 法務部の支援を受けて法人化の手続きを開始していたが、定款の修正などで時間を要したこと、またメンバーが費用の負担を拒否したことから、2012 年 12 月に各市にある ADESCO（コミュニティ開発協会）に申請する方針に変更して進めているが、要件の最低 25 名のメンバーを集めることが困難となっている。その

一方で青年組合と CDT が共同で結成した協同組合の法人化については 2013 年 5 月末に承認された。

CDT ヤヤンティケは、観光のための協同組合”Yayantor”の設立を目指して、Insafocoop に支援を仰いでいる。

サンアレホ、ユクァイキン、およびサンホセが法人化に興味を示している。

以下に CDT/ADT、協同組合に関し整理した。

表 3.4-1 CDT / ADT の種類

観光委員会/協会の種類	申請先	法人化支援機関	特色	備考
観光委員会 /Comite de Desarrollo Turistico	CORSATUR/CAT	-	<ul style="list-style-type: none"> 地域の観光活動を行う基本的な組織。各種プロジェクト・プログラムを通じて市の観光開発を促進する。 法人化されていないので、他団体より資金の供与を受けることができない。 非営利組織なので、営利活動（観光パッケージ・商品の販売等）を行なえない。 	CAT 経由で設立。メンバーは 15 名以上が必要。非営利活動
観光協会 /Asociación de Desarrollo Turístico (ADETUR)	Gobernación (内務省)	CONAMYPE (所管：経済省)	<ul style="list-style-type: none"> 対外的に観光委員会の認知度を高めるときに法人化する。法人化の認可は新聞で官報として発表される。 法人化されているので、他団体より資金の供与を受けられる。 非営利組織なので、営利活動（観光パッケージ・商品の販売等）を行なえない。 	初期費用（\$300-400）と時間（1 年半程度）がかかる。非営利活動。メンバーは 25 名以上が必要。
コミュニティ開発協会 /Asociación de Desarrollo Comunitario (ADESCO)	市	市(Sindico, Consejo)	<ul style="list-style-type: none"> 市の中で法人組織として認知される。但し、会員を 25 人以上募る必要があり、小さな組織では法人化が難しい。 法人化されているので、他団体より資金の供与を受けられる。 非営利組織なので、営利活動（観光パッケージ・商品の販売等）を行なえない。 	手続きが簡易。費用も時間も少なく済む（\$100 - \$150）。非営利活動。約 1 か月
協同組合 /Cooperativa	INSAFOCOOP	INSAFOCOOP (所管：経済省)	<ul style="list-style-type: none"> 観光委員会のメンバーが資金を出して、観光に関する営利活動を行う時に団体を結成するものである。CDT とは別組織であるが、CDT メンバーが揃って協同組合のメンバーとなるケースがある。 法人化されているので、他団体より資金の供与を受けられる。 営利団体なので、営利活動（観光パッケージ・商品の販売等）を行なえる。 	営利活動。約 3 か月。

3.5. 成果 5：観光委員会/観光協会の活動モデルが開発され、東部地域に普及される

3.5.1. 活動 5-1: 成果 1 から 4 を通じて、観光委員会/観光協会能力強化のための提言をまとめ、モデルを構築する

本活動モデルは、実施されたプロジェクトの活動内容を分析、整理し、その成果を、観光資源を持つ他地域で活用できるようにモデル化したものであり、地域の観光開発を推進する上で、MITUR/CORSATUR が観光委員会（CDT）や市と共に活用できるものを意図した。本活動モデルの適用範囲は、第一義的には東部地域 4 県であるが、その他の地域に活用する場合は、その地域の観光資源の特性に応じて本活動モデルをアレンジしながら適宜活用することが可能である。

また、このモデルは地域の観光開発の実務において中心的な役割を担う CDT を中心とし、関係機関の役割を含めて記述したものである。現在、CDT の無い市においては、先ず CDT の設立を目指し、既に CDT が設立されている市においては、CDT の組織強化を図っていくことが期待される。

次に活動モデルの枠組みを示す。地域の観光開発の振興には、MITUR/CORSATUR より支援を受けて CDT を設立し、CDT が地域の中心となり活動を推進していくことになる。活動を通じて CDT の組織強化を図ると同時に、地域の観光開発コンセプトの策定、観光開発プロジェクトの実施、また、開発された観光商品のプロモーション/マーケティング活動を実施し、これらの活動で得られた知見を当該活動モデルの該当項目にフィードバックすることが一連の枠組みとしている。

この活動モデルは初版として整えられたものであり、今後本活動モデルを活用しながら、新たな知見を加えて、改定されていくことが望ましい。

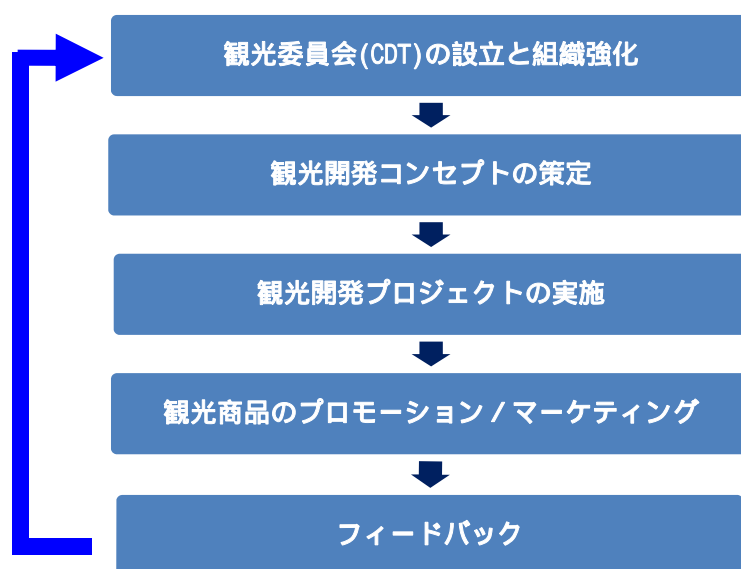


図 3.5-1 活動モデルの枠組み

本活動モデルの内容は以下のとおりであり、全容は資料編に記載する。

・ 序論	1. 本活動モデルの目的・概論 2. 観光開発の必要性 3. 東部地域における観光開発のポテンシャルの高い地域 4. 観光開発の推進体制
・ 観光委員会（CDT） 設立に向けて	1. 観光委員会について 2. 地域観光委員会について 3. CORSATUR/CAT について 4. 市との連携の必要性 5. CDT の発展段階と官民連携の質的变化
・ 観光委員会の組織 体制と活動内容	1. CDT の組織体制 2. CDT の活動内容 3. CDT の組織強化
・ 観光開発コンセ プトの策定	1. 観光開発コンセプト策定のプロセス 2. 観光開発コンセプト策定の参加者と委員会の結成 3. 市の観光開発における現状の整理 4. 観光開発計画のレビューおよび東部地域の観光開発計画の指針の確認 5. 観光開発ビジョンの作成 6. 観光開発プロジェクトの選定と短中長期計画の整理 7. 優先される観光開発プロジェクトの選定 8. プロポーザルの作成
・ 観光開発プロジェ クトの実施	1. 観光資源の認識 2. プロジェクト関係者への啓発・研修 3. 観光開発プロジェクトの実施 4. モニタリング・フィードバック
・ 観光商品のプロモ ーション/マーケ ティング計画	1. マーケティング計画 2. プロモーション計画 3. プロモーション活動への参加 4. プロモーションツール作成に関する提言 5. 各市のプロモーション 6. スケジュール
・ フィードバック	1. フィードバック
添付資料	添付資料-1：規約の事例 添付資料-2：東部地域における観光開発指針案（ガイドライン） 添付資料-3：研修のニーズ調査と実施に関する手順書 添付資料-4：観光開発プロジェクトの事例 添付資料-5：パイロットプロジェクトの選定経緯 添付資料-6：パイロットプロジェクトの手順書

3.5.2. 活動 5-2：東部地域に対してモデル普及のためのセミナーを開催する

普及対象地域

モデル普及の対象は東部地域 4 県（サンミゲル、ウスルタン、モラサン、ラウニオン）である。

普及テーマ、材料および参加者

各県の CDT の設立率は特徴的である。サンミゲル県には 2 つの CDT しかなく、CDT の活動はこれからである。ウスルタン県では比較的多くの CDT が設立されているが、地域 CDT はない。これらの 2 県に対してラウニオン県とモラサン県には CAT 事務所があり、地域 CDT もあり、両県は似ている。

これらの特徴を踏まえ、下図に示すような県別普及テーマと普及のための材料を準備した。また、参加者については、CDT の拡大には官民連携が必要であることから、全ての市と CDT の関係者を予定した。

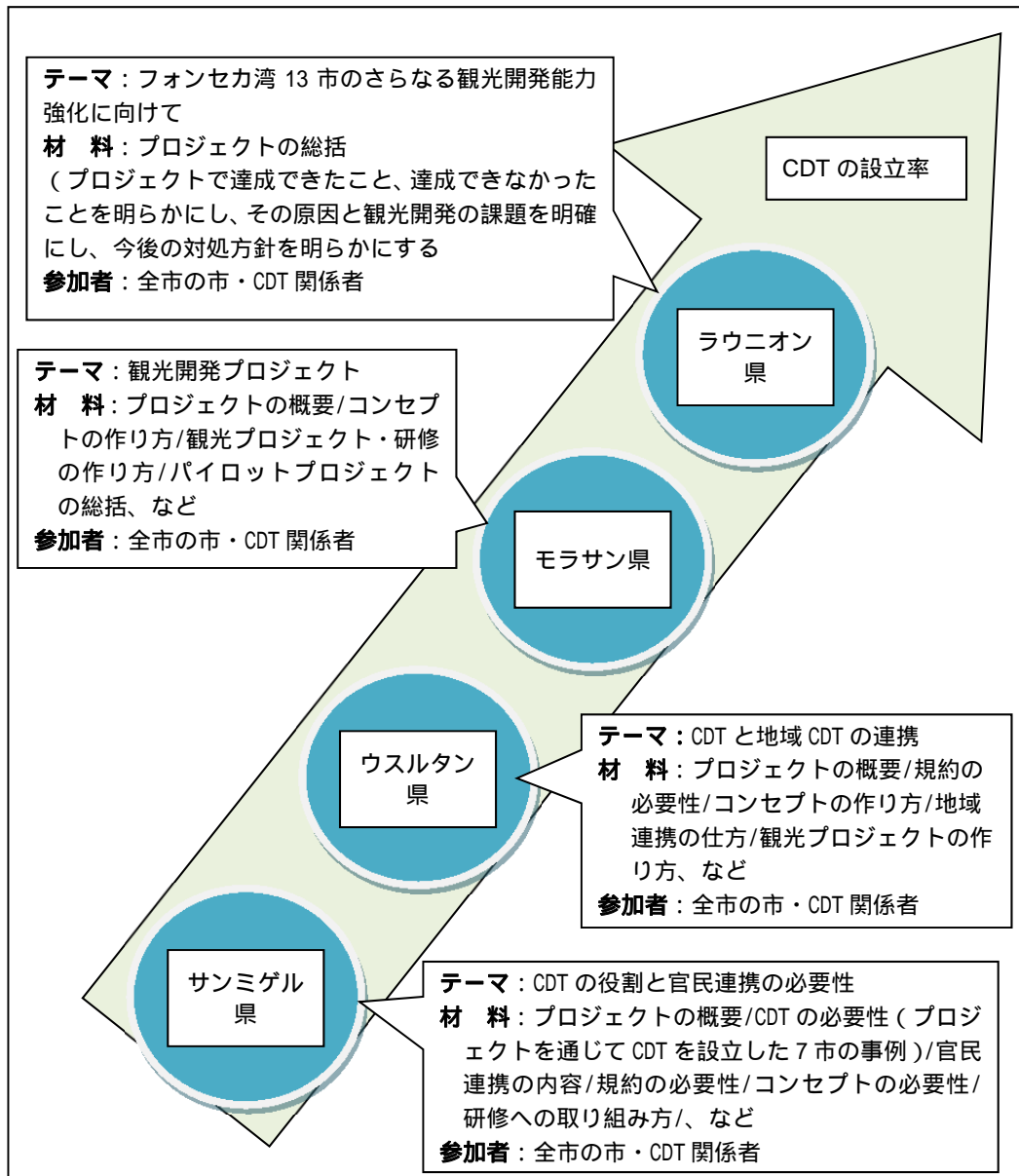


図 3.5-2 県別普及テーマと普及のための材料

普及体制

東部地域には 2 つの CAT 事務所があり、CAT ラウニオンがラウニオン県とウスルタン県を、CAT ルータデパスがモラサン県とサンミゲル県をそれぞれ所管している。これらの CAT 事務所が各県下の各 CDT と向き合いながら普及活動を実施することになる。

プロジェクトの成果を共有しているのは CORSATUR、CAT ラウニオンおよびフォンセカ湾岸地域 13 市の CDT と地域 CDT である。これらプロジェクトの成果を共有する組織が共同して普及活動を支援し、活動モデルを東部の他の地域にも拡大して活用していくことが望まれる。

以下に東部地域における観光開発の体制図を示す。

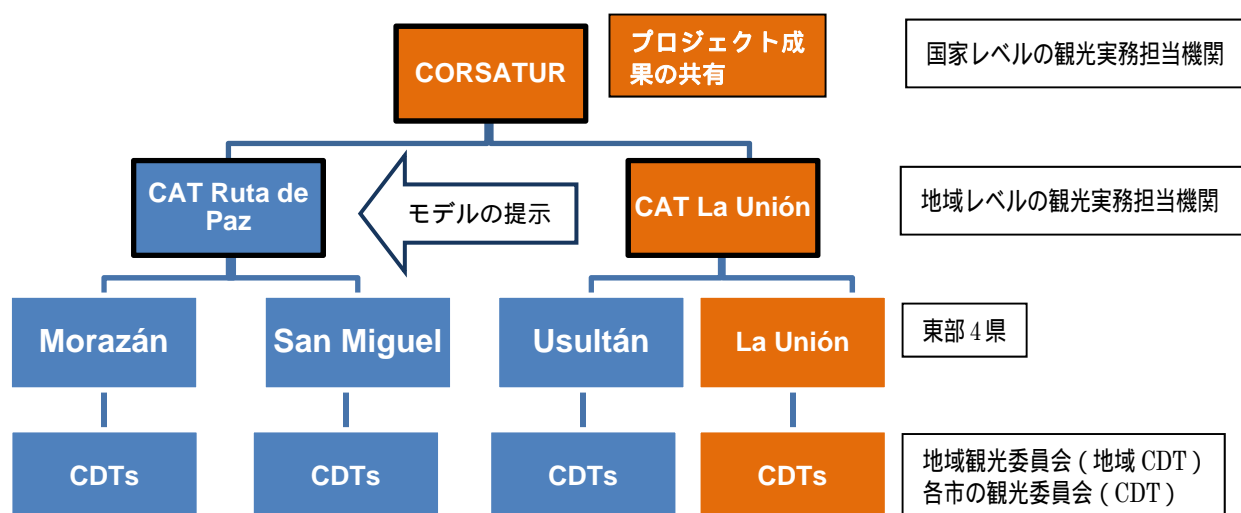


図 3.5-3 東部地域の観光開発の推進体制

従って、セミナーも将来の普及体制に沿って、CAT ラウニオンと CAT ルータデパスが中心となって実施する方針を立てた。

普及セミナーの実績

以下に 4 県にて実施した普及セミナーの実績を記載する。

1) ウスルタン県

日時：2013 年 5 月 30 日

場所：ホテルセビージャ（ウスルタン市）

参加者数：計 78 名(10 市の CDT、市長および市役所職員、CORSAUR/CAT、JICA)

表 3.5-1 セミナープログラム（ウスルタン県）

時間	テーマ	発表者（CORSAUR）
9:00-9:15	CORSAUR の挨拶	Licda. Rita Cartagena
9:15-10:00	パイロットプロジェクト・研修の活動成果	Licda. Eva Mejía Ing. Riquelmy Alvarado, Arq. Marta Calderón, Licda. Elsy Alvarenga, Lic. Roberto Ayala, Ing. Héctor Cardoza, Lic. Raúl Torres
10:00-10:30	CDT・地域 CDT の設立に向けて	Licda. Eva Mejía
10:30-10:45	地域 CDT の現況紹介 (ADT Golfo de Fonseca/ ADETUR Morazán)	Morazán: Licda. Alba Marisol Galindo (ADETUR) . Golfo: Lic. Héctor Melgar
10:45-11:05	休憩	
11:05-12:00	ワークショップ：地域 CDT の確立に向けて	ファシリテータ: Tec. Mérida Argueta, Lic. Raúl Torres
12:00-13:00	昼食	
13:00-13:20	一村一品プロジェクトの紹介ビデオ	JICA
13:20-14:20	観光開発コンセプトの策定方法	Lic. Raúl Torres
14:20-14:25	意見交換	Licda. Eva Mejía
14:25-14:30	閉会	Sr. Takashi Fujita



2) モラサン県

日時：2013年6月3日

場所：ホテルペルキンレンカ（ペルキン市）

参加者数：計96名（14市のCDT、市長および市役所職員、CORSATUR/CAT、JICA）

表 3.5-2 セミナープログラム（モラサン県）

時間	テーマ	発表者（CORSATUR）
9:00-9:15	CORSATURの挨拶	Licda. Rita Cartagena
9:15-10:00	パイロットプロジェクト・研修の活動成果	Licda. Eva Mejía Ing. Riquelmy Alvarado, Arq. Olga Grande Licda. Elsy Alvarenga, Lic. Raúl Torres
10:00-10:30	CDTの組織強化に向けて観光開発プロジェクトについて	Licda. Eva Mejía
10:30-10:45	地域CDT（モラサン）と地域の観光開発プロジェクトについて	Tec. Carminda Rosibel Díaz Tec. Mélida Argueta, Tec. Elsy Villalta.
10:45-11:05	休憩	
11:05-12:00	ワークショップ：観光開発プロジェクトについて	Lic. Raúl Torres Tec. Mélida Argueta
12:00-13:00	昼食	
13:00-13:20	一村一品プロジェクトの紹介ビデオ	Video by JICA
13:20-14:20	観光開発コンセプトの策定方法	Lic. Raúl Torres
14:20-14:25	意見交換	Licda. Eva Mejía
14:25-14:30	閉会	Sr. Takashi Fujita



3) サンミゲル県

日時：2013年6月5日

場所：ホテルトロピコイン（サンミゲル市）

参加者数：計80名（3市のCDT、市長および市役所職員、CONAMYPE、FUNDE、UNIVO、ヘラルドバリオス大学他、CORSAUR/CAT、JICA）

表 3.5-3 セミナープログラム（サンミゲル県）

時間	テーマ	発表者（CORSAUR）
9:00-9:15	CORSAURの挨拶	Ing. Roberto Viera
9:15-10:00	パイロットプロジェクト・研修の活動成果	Licda. Eva Mejía Arq. Marta Calderón, Licda. Elsy Alvarenga, Lic. Raúl Torres
10:00-10:30	CDTの設立に向けて CDTの組織強化	Licda. Eva Mejía
10:30-10:45	CDTの現況について （ラウニオン CDT、コンチャグア CDT、エルカルメン CDT）	ラウニオン: Sr. Luis Díaz(ラウニオン)、Sr. Alex Segovia(コンチャグア)、Sr. Gil Angel Amaya(エルカルメン)
10:45-11:05	休憩	
11:05-12:00	ワークショップ：CDTの設立に向けて、市との連携	ファシリテータ: Licda. Mérida Argueta y Raúl Torres
12:00-13:00	昼食	
13:00-13:20	一村一品プロジェクトの紹介ビデオ	Video by JICA
13:20-14:20	観光開発コンセプトの策定方法	Lic. Raúl Torres
14:20-14:25	意見交換	Licda. Eva Mejía
14:25-14:30	閉会	Sr. Takashi Fujita



普及セミナーの様子



参加者の集合写真

4) ラウニオン県

日時：2013年6月7日

場所：ホテルコンフォートイン（ラウニオン市）

参加者数：計106名（13市のCDT、地域CDT、市役所職員、CONAMYPE/CDMYPE、ADEL La Unión、MEGATEC ラウニオン校、SICA、ラウニオン県庁関係者、ニカラグア・ホンジュラスの観光関係者、CORSAUR/CAT、JICA）

表 3.5-4 セミナープログラム（ラウニオン県）

時間	テーマ	発表者（CORSAUR）
9:00-9:15	CORSAUR の挨拶	Licda. Martha Cristina Morales
9:15-9:45	プロジェクトの総括	Licda. Eva Mejía
9:45-10:45	パイロットプロジェクト・研修の活動成果	Licda. Eva Mejía Licda. Martha Cristina Morales, Licda. Andrea Muñoz Arq. América Villatoro Lic. Roberto Ayala Lic. Raúl Torres
10:45-11:00	プロジェクト目標の達成状況 について	Licda. Eva Mejía
11:00-11:15	休憩	
11:15-12:30	ワークショップ：CDT の評価と今後（に関して）	ファシリテータ: Licda. Mélida Argueta y Raúl Torres
12:30-13:30	昼食	
13:30-15:00	ワークショップ：パイロットプロジェクト・研修の普及に向けて	Licda. Eva Mejía Licda. Martha Cristina Morales, Licda. Andrea Muñoz Arq. América Villatoro Lic. Roberto Ayala Lic. Raúl Torres
15:00-15:05	CORSAUR より連絡事項	Licda. Eva Mejía
15:05-15:10	閉会	Sr. Takashi Fujita



普及セミナーの様子



参加者の集合写真

第4章 投入実績

4.1. 専門家派遣実績

本プロジェクトは以下の6名の専門家によって実施された。また、投入実績は92.07人月であった。

表 4.1-1 専門家チーム派遣実績

担当分野	氏名	第1年次	第2年次	第3年次	合計(M/M)
総括/コミュニティ開発1	平林啓記	4.74			4.74
総括/組織間調整1	藤田 孝		5.56	6.33	11.89
副総括/観光開発1/コミュニティ開発	國玉勝一	3.97	5.74	7.17	16.88
観光開発2	石川晴久	4.67	7.00	7.84	19.51
組織間調整(組織間調整2)	アルハンドラ ソリジャ	4.17	6.20	7.17	17.54
観光プロモーション	秋山 綾	2.50	3.00	3.50	9.00
人材育成	砂田雅道	4.00	3.64	4.00	11.64
本邦研修管理				0.87	0.87
合計(M/M)		24.05	31.14	36.88	92.07

4.2. 研修員受入実績

本プロジェクトでは、本邦研修が第二年次と第三年次に、第3国研修が第一年次と第三年次に実施された。

4.2.1. 本邦研修

(1) 第1次本邦研修

研修概要

本邦での研修を通じて得られる知見を、実施中のプロジェクトに経験を反映させ、「エ」国の官民連携を通じた観光開発に向けて、より良い成果を得ることを目標として本邦研修が行われた。

研修では、プロジェクト対象地域の観光開発の方向性と関連のある日本国内の観光分野の成功事例、模範事例、先進事例を視察し、同時に関係者から背景や経緯などの説明を受け、質疑応答を行った。また、JATA 旅博では「エ」国観光についてのプレゼンテーションを行い、研修の総括として、研修の成果およびアクションプランの発表を行った。

基本方針

本邦研修の基本方針は以下のとおりである。

- (i) 地方観光協会や地域の NGO との官民連携とその運営状況を学習し、今後のフォンセカ湾周辺地域の CDT 発展の参考とする。また、イベント開催や観光振興の独自の方法について学習する。

a. 川越市役所産業観光部観光課

川越市役所産業観光部観光課は川越の観光に係るすべての政策の決定、川越まつりをはじめ、観光客誘致のためのイベントを地域団体と協力し、運営している。

b. NGO 川越蔵の会

NGO 川越蔵の会は、一番街の蔵の町並みの「重要伝統的建造物群保存地区」認定において市役所と共に尽力し、町並み委員会と共に一番街の景観の改善、一番街周辺地域の観光資源の発掘、保全活動を行っている。

c. 由布院温泉観光協会

由布院温泉は、大型温泉旅館による温泉地開発をせず、温泉と地域の自然を活かした整備を行い、少人数グループを魅了する温泉地整備を行った先駆的存在である。由布院温泉観光協会はその中心的な活動母体であり、町ぐるみで文化事業も行っている。

d. 藤沢市観光協会

藤沢市観光協会は、藤沢市の観光宣伝、観光客誘致のために観光客への情報提供などをおこない江ノ島内外に観光案内所を運営している。

- () 大分県における観光振興の成功事例について研修し、フォンセカ湾岸周辺地域での応用を検討する。併せて、衰退した観光地の再活性化についても学ぶ。

a. 大分一村一品国際交流推進協会

大分県において、「ローカルにしてグローバル」とう標語のもとに、全国、世界に通用する商品の製造をおこない、それらを製造できる人づくり、地域づくりを行っている。

b. 一般社団法人ジャパンオンパク

別府温泉は観光客のニーズの変化に伴い、衰退の一途にあったがジャパンオンパク(前身ハットウオンパク)は、イベントの開催や地域資源を活用した新しい別府温泉の楽しみ方を提案することにより、別府温泉を復活させている。

- () 日本の観光行政・観光振興を学習し、今後の「エ」国観光行政の参考とする。

a. JNTO (国際観光振興機構)

日本のPRと訪日観光客への観光案内などインバウンドツーリズムを通して、「観光立国」の実現を目指している。ピジットジャパン・キャンペーンを行っている。

b. 観光庁国際観光政策課

観光庁は観光行政を担当する政府機関であり、訪日観光客数の増加、日本人の外国旅行数の増加などを目標としている。特に国際観光政策課はインバウンドツーリズム事業に取り組んでいる。

c. 社団法人日本観光振興協会

日本の国内観光振興の中核機関として、観光振興を総合的に図るための各種事業を行っている。会員は、地方公共団体、観光協会、観光関連企業などを網羅している。

() 観光開発の参考事例を見学する。

a. 江の島

東京からの日帰り圏にあり、同じく首都サンサルバドルからの日帰りを想定するフォンセカ湾周辺地域と状況が似ている。江の島はけっして南国のビーチを想像するような海岸ではなく、環境もよく似ている。そのような状況から観光客誘致に向けてどのような工夫や努力がなされているかを学習する。

b. 土肥

サンタロサデリマは廃坑となった金山の観光利用を考えているので参考に土肥金山跡を見学する。日本には代表的な金山観光となる尾去沢などがあるが、規模を考えると少しうらさびれた感のある土肥が適している。また、恋人岬などは、ラウニオンでのあらたな名所づくりに最適と言える。

c. 京都

京都という日本最大の観光地において、寺社仏閣の観光利用とそれに付随した門前町のにぎわいの創造が見学できる。また、京都ハンディクラフトセンターでは、伝統工芸品をお土産品に活用する様子やそれらの販売方法が見学できる。JTB Sunrise Tour はこれらを効率的に視察できる。

() JATA 旅博への参加

研修員は「エ」国観光について、資料の配布やプレゼンテーションを行う。他国の観光 PR の状況を見学する事により、今後の国際観光フェアにおける PR の方法を学習する。

研修員

Sandra Natzumi Fuentes Sánchez: CORSATUR/CAT ラウニオン職員

当初 2 名が予定されていたが、内 1 名が体調不良により今回の研修を取り止めた。

研修日程

研修日程は以下の表 4.2-1 のとおりである。

表 4.2-1 本邦研修日程

	月日	時間	工程	宿泊
1	9/27(火)		成田空港着、TICへ移動	東京(TIC)
2	9/28(水)	9:00-14:00	TICでオリエンテーション	東京(TIC)
		15:00-17:00	JATA旅博準備(東京ビックサイト)	
3	9/29(木)	10:00-17:00	JATA旅博参加(旅行業界)/シンポジウム参加	東京(TIC)
4	9/30(金)	9:30-11:00	川越蔵の会:川越市の観光開発の歴史、町並み保全、市役所との連携、町並み委員会の活動に関する講義	東京(TIC)
		11:30-12:30	市役所観光課:市役所の活動、観光課の組織体制、観光資源に関する講義	
		14:00-15:00	川越市立博物館見学	
5	10/1(土)	10:00-16:00	JATA旅博参加(一般):「エ」国の観光についてのプレゼンテーション	東京(TIC)
6	10/2(日)	午前	羽田 大分空港着、大分空港 由布院着	由布院
		13:00-16:30	由布院/見学	
7	10/3(月)	9:00-11:00	由布院温泉観光協会:由布院観光開発の歴史、協会の活動コンセプト、協会の観光事業運に関する講義	別府
		午後	移動:由布院 別府温泉	
		14:00-15:00	一般社団法人ジャパンオンパク:オンパク手法、住民の地域資源に関する認識向上活動、観光資源の評価に関する講義	
8	10/4(火)	9:00-16:00	NPO 法人大分一村一品国際交流推進協会:一村一品運動、地域資源の発掘、アイデアによる商品開発、市町村の農協の活動に関する講義	大阪(OIC)
		午後	移動:大分 大阪(列車)	
9	10/5(水)	8:45-15:00	JTB Sunrise Tours ツアーバス試乗。ツアーのオペレーション、ガイド手法についての研修/京都市内の見学	東京(TIC)
		15:00-16:00	京都ハンディクラフトセンターの設立概要、客層、民芸品の販売方法に関する講義	
		午後	大阪 東京着(列車)	
10	10/6(木)	終日	自由研修	東京(TIC)
11	10/7(金)	10:00-11:00	(独)国際観光振興機構(JNTO):Visit Japan Campaign、国別のプロモーション戦略、ファミトリップによる外国人観光客の誘致に関する講義	東京(TIC)
		14:00-15:00	観光庁国際観光政策課:インバウンド政策、観光統計の整備、国内旅行増加に向けた関係機関との連携に関する講義	
		16:00-17:00	日本観光振興協会:国内旅行の促進、観光交流の活性化、観光協会会員の構成に関する講義	
12	10/8(土)	午前	移動:東京 江ノ島着	土肥
		9:00-10:00	(社)藤沢市観光協会(片瀬江ノ島観光案内所):観光資源、イベントによる観光客誘致、協会会員増加に向けた施策に関する講義	
		11:00-12:00	江ノ島、水族館見学	
		午後	移動:江ノ島 堂ヶ島着	
		16:30-18:30	堂ヶ島:クルーズ船・遊覧船、展望スポット	
		午後	移動:堂ヶ島 土肥	
13	10/9(日)	10:00-11:30	恋人岬の見学	東京(TIC)
		12:00-13:30	土肥金山見学コース・砂金掘り体験	
		午後:	移動:土肥 東京	
14	10/10(祝)	10:00-17:00	研修結果の取り纏め/アクションプランの作成	東京(TIC)
15	10/11(火)	9:30-10:30	アクションプランのプレゼンテーション	
		帰国		

研修の成果

研修員は本邦研修で学んだことを研修最終日にプレゼンテーションの形にまとめ発表を行い、帰国後も CORSATUR の中で研修成果の発表を行った。

また、研修後においては自信をもって CDT の関係者と接触するとともに、より積極的にパイロットプロジェクトや研修の実施に関与している。

	
<p>「エ」国観光についてのプレゼンテーション (2011年9月29日)</p>	<p>大分一村一品国際交流推進協会 (2011年10月4日)</p>
	
<p>修了式(2011年10月11日)</p>	<p>(社)藤沢市観光協会(2011年10月8日)</p>

(2) 第2次本邦研修

2012年11月9日～11月25日(研修実施:11月12日～11月23日)に、第2次本邦研修が実施された。

研修名: エルサルバドル国東部地域観光開発能力強化プロジェクト本邦研修

研修員:

氏名	所属	役職
Ms. Eva Patricia Mejía Flores	観光公団 (CORSATUR)	専門家 / CDT 担当
Ms. Marta Lalyvette Calderón Toledo	観光公団 (CORSATUR)	専門家 / 観光施設・インフラ担当
Mr. Luis Alberto Díaz Vella	ラウニオン市観光委員会 (CDT)	会長
Ms. Elsy Maritza Guevara Zoniga	インティブカ市観光委員会 (CDT)	会長

研修概要は以下のとおりである。

研修項目	具体的内容・時間	想定できる研修希望先
地方観光振興機関の官民連携	地方観光振興機関訪問 (2日間)	国頭ツーリズム協会(集団研修) 東村観光振興協議会(集団研修)
地方自治体の観光行政・観光振興	県庁・村役場訪問 (2日間)	沖縄県庁文化観光スポーツ部 渡嘉敷村役場商工観光課
日本の観光行政・観光振興	官民観光機関への訪問(1日間)	観光庁観光地域振興課/(社)日本観光振興協会
エコツーリズムの概要との参考事例	観光施設・観光地訪問(5日間)	環境省那覇自然環境事務所/今帰仁城(集団研修)/やんばる学びの森(集団研修)/東村慶佐次(集団研修)/カヌチャリゾートホテル(集団研修)
観光開発・観光振興の参考事例	観光施設・観光地訪問(5日間)	南城市(集団研修)/沖縄美ら海水族館(集団研修)/泊ふ頭株式会社/浅草文化観光センター/水上バス乗船/道の駅八王子滝山/東京都高尾山ビジターセンター
意見交換・討議	意見交換会の実施/アクションプラン作成(3日間)	中南米地域と日本・沖縄のエコツーリズムに関する意見交換(集団研修)/中間レビュー/報告会準備会/報告会

JICAによる地域別研修「中南米地域 熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営」が、沖縄を中心に計画されていたことから、基本的にはこの研修に合流することとし、当本邦研修にも有効な活動に参加する方針で日程を計画した。

本邦研修の日程は以下の通りである。

日付	時間	活動	訪問先	目的
11/9 (金)		サンサルバドル(エルサルバドル) 米国		
11/10 (土)		米国		
11/11 (日)		東京(日本) 東京 那覇(沖縄)		
11/12 (月)	午前 午後	・ JICA プリーフィング ・ 集団研修(南城市の民家宿泊体験の取り組み)/講義	OIC 南城市	・ 研修の日程と内容を理解し、この研修で何を学ぶかを整理する。 ・ 日本における民泊および民宿について学ぶ。
11/13 (火)	午前 午後	・ 沖縄県文化観光スポーツ部/講義 ・ 環境省那覇自然環境事務所/講義	沖縄県庁 環境省那覇自然環境事務所	・ 沖縄観光における県政の方針、役割などについて学ぶ。 ・ 日本および沖縄におけるエコツーリズムの推進について学ぶ。
11/14 (水)	午前 午後	・ 集団研修(世界文化遺産見学)/見学 ・ 集団研修(国頭ツーリズム協会の取り組み)/講義	今帰仁城跡 国頭ツーリズム協会(やんばる学びの森)	・ 世界遺産の観光利用方法について学ぶ。 ・ 協会の概要、役割について学ぶ。
11/15 (木)	午前 午後 夜間	・ 集団研修(エコツーリズム概論)/講義 ・ 集団研修(やんばるの森トレッキング)/実習 ・ 集団研修(野鳥観察のガイド技術とモニタリング手法)/講義	やんばる学びの森 やんばるの森 やんばる学びの森 やんばる学びの森	・ エコツーリズムについて学ぶ。 ・ トレッキングコースの設定および運営について学ぶ。 ・ 野鳥観察の観光利用について学ぶ。

日付	時間	活動	訪問先	目的
		・ 集団研修（ヤンバルクイナの観察）／実習		・ 野鳥の観察方法について、実習を通して学ぶ。
11/16 （金）	午前 午後	・ 集団研修（東村観光推進協議会の取り組み）／講義 ・ 集団研修（沖縄美ら海水族館）／見学	エコつつじパーク 沖縄美ら海水族館	・ 協会の概要と活動について学ぶ ・ 海洋資源を活用した観光施設の運営について見学する。
11/17 （土）	午前 午後	・ 集団研修（マングローブ域を利用したカヌープログラム）／実習 ・ 集団研修（カヌチャリゾートホテルの地元食材を利用した取り組み）／見学	東村慶佐次 カヌチャリゾートホテル	・ カヌープログラムの運営について学ぶ。 ・ 地域食材を利用したグルメ開発について学ぶ。
11/18 （日）	終日	休日		
11/19 （月）	午前 午後 夜間	泊（那覇） 渡嘉敷島 渡嘉敷村商工観光課／講義 渡嘉敷島 泊（那覇） ・ 泊ふ頭株式会社／見学 ・ 中間レビューおよびアクションプラン作成	渡嘉敷村役場 泊ふ頭「とまりん」 JICA 沖縄	・ 渡嘉敷島の観光における村政の方針、役割について学ぶ。 ・ ふ頭の開発と付属施設の運営について学ぶ。 ・ これまでの研修をまとめ、アクションプランを作成する。
11/20 （火）	午前 午後	・ 集団研修（中南米地域と日本・沖縄のエコツーリズムに関する意見交換）／討議 那覇 東京	JICA 沖縄	・ これまでの経験をもとに、エコツーリズムに関し、集団研修参加者と意見交換をする。
11/21 （水）	午前 午後 夜間	・ 観光庁観光地域振興部／講義 ・ （社）日本観光振興協会／講義 ・ 報告会準備（研修のまとめとアクションプラン作成）／討議	観光庁 （社）日本観光振興協会 （株）オリエンタルコンサルタンツ	・ 日本の観光行政について学ぶ。 ・ 協会の概要と役割について学ぶ。 ・ 報告会の準備をし、研修のまとめとアクションプランについてブラッシュアップをおこなう。
11/22 （木）	午前 午後	・ 報告会 ・ 浅草文化観光センター／見学 ・ 水上バス乗船（浅草～台場）／実習	JICA 本部 浅草文化センター 浅草乗船場～日の出 棧橋～台場	・ これまでの研修のまとめとアクションプランについて発表する。 ・ 観光案内所を見学し、情報発信の方法について学ぶ。 ・ 水上バスに乗船し、定期船の観光利用について学ぶ。
11/23 （金）	午前	・ 道の駅八王子滝山／見学 ・ 高尾山ビジターセンター／見学	道の駅八王子滝山 高尾山ビジターセンター	・ 地域産品を活かした道の駅の運営について学ぶ。 ・ 高尾山観光におけるビジターセンターの役割について学ぶ。
11/24 （土）		東京 米国		
11/25 （日）		米国 エルサルバドル		

		
<p>沖縄県文化観光スポーツ部 / 講義 11/13(沖縄県庁)</p>	<p>やんばるの森トレッキング / 実習 11/15 (やんばるの森)</p>	<p>地域食材によるグルメ開発 / 見学 11/17 (カヌチャリゾートホテル)</p>
		
<p>渡嘉敷村商工観光課 / 講義 11/19 (渡嘉敷村博物館)</p>	<p>(社)日本観光振興協会 / 講義 11/21 (社)日本観光振興協会)</p>	<p>報告会 / 発表・討議 11/22 (JICA 本部)</p>

4.2.2. 第三国研修

(1) 第1次第三国研修(グアテマラ)

第一年次にはグアテマラへの第三国研修を実施し、広範な成果が得られた。「グアテマラ国観光自治管理委員会強化プロジェクト」はグアテマラの観光関係者の組織である観光自治管理委員会(CAT)を対象とした技術協力プロジェクトで、本プロジェクトとの類似性が高く、今後の活動の参考となるという観点から、グアテマラでのJICAプロジェクトの対象地域を訪れる9日間の研修旅行を2月12日から2月20日にかけて実施した。参加者は総勢40名であった。バスツアーによって費用を抑え、MITUR/CORSATURの職員だけでなく、CDTのメンバーである民間の観光事業者も参加できるようにした。また当事者意識を醸成する観点から、参加者には一定の費用負担(宿泊費160ドルー3人1室利用ーと食費)を求めた。

研修旅行の目的と行程

研修旅行の目的は以下の4項目に集約される。

- ・ 観光開発の先進事例の視察
- ・ グアテマラ観光市場の調査学習
- ・ フォンセカ湾岸地域のグアテマラにおける宣伝、およびそのOJT
- ・ 「グアテマラ観光自治管理委員会強化プロジェクト」の成果を実感し、JICA観光技プロのコンセプトを理解する。

上記の目的を達成するため、グアテマラのふたつの世界遺産アンティグア・グアテマラとティカル遺跡を結ぶケツァルの道(Ruta de Quetzales)沿いの観光地、観光施設を視察し、

グアテマラのホテル、レストラン、観光委員会のリーダー等観光関係者と意見と情報の交換を行ない、旅行会社が集積するアンティグアにおいて、またグアテマラ北部地域の観光委員会(CAT)の大会である COMPETUR に参加して、エルサルバドルとフォンセカ湾岸地域の観光宣伝を行った。表 4.2-2 に研修旅行の行程を示した。

表 4.2-2 グアテマラ研修旅行の行程

日次	行程	宿泊
第1日：2月12日 7:00 11:00 17:00 19:00- 21:00	ラウニオン発 サンサルバドル発 アンティグア・グアテマラ着 アンティグア観光施設視察ウォーキングツアー	Las Farolas Antigua Guatemala
第2日：2月13日 8:00 -10:00 10:00 - 18:00	アンティグアでのエルサルバドル観光セミナー アンティグア近郊観光地視察	(同上)
第3日：2月14日 8:00 12:00 - 16:00 17:00	アンティグア発 ラムツル民間保護区でのセミナーと昼食 サンタクルス着	Park Hotel Santa Cruz, Alta Verapaz
第4日：2月15日 8:00 10:00 - 13:00 15:30 - 17:30 18:00	サンタクルス発 セムックチャンペイ視察 コバンの工芸品と農村観光の視察 サンタクルス着	(同上)
第5日：2月16日 8:00 17:00 - 19:00	サンタクルス発 レマテ着、レマテ周辺観光施設の視察	Casa de Don David El Remate, El Petén
第6日：2月17日 8:00 9:30 - 14:00 15:30- 17:30	レマテ発 ティカル遺跡の視察 フローレスの観光施設視察	(同上)
第7日：2月18日 7:00 8:00 - 20:00	レマテ発 ポプトゥン着、COMPETUR 参加	Finca Ixóbel Poptún, El Petén
第8日：2月19日 8:00 - 10:00 10:00 - 16:00 18:00	エルサルバドル観光セミナー COMPETUR 参加 リオドゥルセ着	Hacienda Tijax Rio Dulce, Izabal
第9日：2月20日 8:00 14:30 18:00	リオドゥルセ発 サンサルバドル着 ラウニオン着	



(2) 第2次第三国研修(ニカラグア / ホンジュラス)

2013年1月27日から2月1日までの6日間で、ホンジュラス・ニカラグアへの第三国研修をおこない、38名の参加があった。

研修目的は、以下の通りである。

- (1) ホンジュラス及びニカラグアにてワークショップを開催し、民芸品などの展示即売や、新規観光商品(マングローブツアーや島巡りツアー)の紹介・案内などにより、エルサルバドルへの訪問を促進する。
- (2) ホンジュラス、ニカラグア観光客の動向・形態・嗜好などを理解し、今後のプロモーション施策に資する。
- (3) ホンジュラス、ニカラグア観光省を含む、各市観光関係者との密なる関係を構築し、今後、双方向の交流に資する。
- (4) エルサルバドルのCDTに相応する、ニカラグアのGabinete de Turismo (Tourism

Board)、ホンジュラスの Camara Nacional de Turismo (観光商工会議所)との意見交換により、国や市と観光関連者との連携や課題などを学ぶ。

日程は以下の通りである。

	月日	時	訪問箇所	研修内容
1	1月27日 (日)	06:00 07:15 09:30 11:00 13:30 15:00 17:00 19:00	ラウニオン港出発 アマバラ(ホンジュラス)到着 アマバラ港出発 ボトシ(ホンジュラス)到着 入国審査後、チナンデガに移動 チナンデガに到着 チナンデガ出発 レオン着 ホテルコンベント	アマバラ港棧橋施設視察 歴史的建造物の再利用視察 チナンデガ市観光関係者とのセミナー レオン市観光関係者とのセミナー
2	1月28日 (月)	08:00 10:00 11:00 13:00 17:00 18:30	レオン出発 マサヤ到着 マサヤ出発 サン・ファン・デ・スール到着 サン・ファン・デ・スール出発 グラナダ到着	マサヤ中央公園・手工芸市場視察 棧橋(クルーズ乗船客施設)見学、及び 観光関係者・港湾関係者との意見交換
3	1月29日 (火)	08:00 11:00 13:00 15:00	グラナダホテル グラナダ市内 グラナダ市出発 マナグア市到着	グラナダ市観光関係者とのセミナー グラナダ市歴史保存地区視察 教会・歩行者天国など ニカラグア観光省及び、マナグア市観光 関係者とのセミナー(19:00)
4	1月30日 (水)	08:00 10:00 13:00 18:30	ニカラグア湖(マナグア市) マナグア市出発 ニカラグア/ホンジュラス国境通過 チョルテカ経由 テグシガルパ着	遊覧船からの湖岸施設及び湾内視察、及び サルバドル・アレンデ港プロジェクト(湖岸遊歩道施設)視察
5	1月31日 (木)	08:00 11:00 12:00 15:00 16:30 17:30 19:00	インターコンチネンタルホテル テグシガルパ市内 テグシガルパ市出発 アンヘル谷(村)到着 アンヘル村出発 テグシガルパ市内着 ホテルロス	ホンジュラス観光省及びテグシガルパ 市観光関係者とのセミナー コバン文化遺跡博物館(含む、JICA 支援ビデオルーム)視察 アンヘル民芸品村視察、及び 市長・商工会議所とのミーティング 研修旅行評価会・意見発表
6	2月1日 (金)	08:00 11:30 13:30 14:15 16:30	テグシガルパ市出発 サンロレンツオ市到着 サンロレンツオ市出発 テグシガルパ近郊経由 ホンドゥラス/エルサルバドル国境 通過 ラウニオン着	マングローブ林隣接サンロレンツオ市 川岸施設、彫像公園視察 商工会議所の意見交換

		
<p>グラナダ観光業者と研修参加者による 名刺交換が行われる (グラナダ、1/29)</p>	<p>グラナダの観光業者より観光客受け入 れ体制について説明をうける (グラナダ、1/29)</p>	<p>研修評価会の実施。成果発表、及び 意見交換 (テグシガルパ、1/31)</p>

4.3. 供与機材実績

供与機材の実績を以下の表に示す

No	登録日	名称	仕様	数量	管理場所	状態
1	Sep. 2010	車輛		1	CORSATUR/ CAT ラ ウニオン	良
2	Mar. 2011	ノートパソコン	HP Mod.DM4-1190LA, Core i5, 4GB de Memoria Ram, Disco Duro de 500GB, Windows 7 Home Premium 64 bits, Licencia de MICROSOFT OFFICE Home and Student	5	CORSATUR / CAT ラ ウニオン	良
3	Mar. 2011	プロジェクター	VPLEX7C	2	CORSATUR / CAT ラ ウニオン	良
4	Mar. 2011	スクリーン	Pantalla Tripode KLIP Xtreme KPS-102B	2	CORSATUR / CAT ラ ウニオン	良
5	Mar. 2011	コピー機	XEROX WorkCenter 5225, Equipo Multifunción	1	CAT ラウニオン	良
6	Mar. 2011	レーザープリン ター	HP 2035	1	CORSATUR	良
7	Mar. 2011	インクジェット プリンター	HP Pro K8600	1	CAT ラウニオン	良

4.4. 現地業務費実績

単位：千円

	傭人費	消耗品費	旅費・ 交通費	通信 運搬費	資料等 作成費	借料損料	現地 研修費	合計
第1年次	1,353	386	-	73	65	777	1,363	4,017
第2年次	4,306	893	-	172	209	1,218	3,921	10,719
第3年次(予定)	7,704	2,270	71	400	851	3,533	10,815	25,644
合計	13,363	3,549	71	645	1,125	5,528	16,099	40,380

第5章 プロジェクト実施運営上の工夫、教訓

5.1. PDM の解釈 - セミナーの開催地域とプロジェクト対象地域 -

2012年6月に実施された中間レビュー調査の時点まで以下の点に関して関係者間で確認することはなく、それぞれの考えで活動をしていたことは、プロジェクトの方向性を決めるうえで、混乱をもたらした。

- (i) 活動 5-2 の「他地域に対して普及のためのセミナーを開催する」における「他地域」が、具体的にどの地域を示すのか。
- (ii) プロジェクト対象地域は具体的に何処なのか。

普及セミナーの開催地域

プロジェクト対象地域についての認識の流れは以下の通りであった。

- (a) 第一年次：CAT 事務所を通じた活動を普及することとし、CAT 事務所が設置されている、ラウニオン県以外の以下の 4 県。
 - ・ ソンソナテ(Sonsonate)県
 - ・ ラ・リベルタ(La Libertad)県
 - ・ クスカトラン(Cuscatlan)県
 - ・ チャテナンゴ(Chalatenango)県
- (b) 第二年次：フォンセカ湾岸地域 13 市を核とした東部地域。特に新しく CAT 事務所のできたモラサン県を重視する。
- (c) 第三年次：中間レビュー調査において、東部地域 4 県を普及セミナー対象とすることが確認された。

プロジェクト対象地域

パイロットプロジェクトを実施する 13 市とプロジェクト対象地域の関係が不明瞭であったが、以下の通り定義した。

- プロジェクト対象地域** : 東部地域
- パイロットプロジェクト対象地域** : CAT ラウニオンが現在管轄している 13 市

観光委員会と観光協会の明確化

観光委員会 (CDT) と観光協会 (ADT) の用語の使用に混乱があったことから、以下の通り定義した。

- 「観光委員会 (CDT)」とは MITUR/CORSATUR によって承認された、地域の観光活動のために組織化された地域の代表者グループ。
- 「観光協会 (ADT)」とは、上記「観光委員会 (CDT)」が法人化された組織のことを示す。

5.2. プロジェクトの実施体制

本プロジェクトの実施主体は C/P 機関である CORSATUR であるが、本部のスタッフに余裕がなく、また本部とプロジェクトサイトが離れていて簡単に移動できないことから、CORSATUR の体制としては CAT ラウニオンのスタッフを中心となった。CAT は 2 名体制であるが、プロジェクトの活動が盛んな時には 2 名では対応が難しく、また 2 名のうち 1 名が CAT ルータデパス立ち上げの支援や産休で長期的に 1 名体制となることもあった。結果として JICA プロジェクトチーム主体となるが多かった。

今後は CAT 事務所が主体で CDT/ADT の支援を実施していくことになるが、事務所から現地への移動手段が限定的であることから、CAT のスタッフの十分な活動を確保するためには移動手段を備える必要がある。

5.3. C/P の拡大

実施体制には問題があるものの、パイロットプロジェクトのスタートに合わせて CORSATUR 内の各部署から C/P が招集され、これによって CORSATUR としての総合力が高まり、また C/P を通じて本プロジェクトの概要が CORSATUR 内に広めることができた。

5.4. CDT/ADT の関心を高める

プロジェクトの活動に含まれていることではあるが、意識的に 13 市の CDT/ADT が一堂に会する場を設定した。このような場を利用して、MITUR/CORSATUR と CDT/ADT の交流を深める工夫をした。

5.5. CDT / ADT の能力

13 市の CDT が設置されてからの歴史は浅く、プロジェクト開始前に実施されていた活動は少なく、本格的な活動は本プロジェクトによって行われたものである。様々な活動の場があり、それぞれの活動は活発であった。しかし、いつも活動するメンバーは限定的で、観光開発コンセプトの策定や規約の作成などの具体的な活動になると、自発的な行動はあまり見られなかった。できるだけ多くの人に参加するように呼びかけ、メンバーへの周知方法なども話し合ったが、未だ機が熟していないと推察される。CDT/ADT の能力向上には長い期間を要するので、継続的に活動することが重要である。

5.6. 地方選挙の影響

2012 年 3 月に実施された地方選挙の結果、市長の交代により、市役所のプロジェクトへの対応が変わり、CDT のメンバー変更を余儀なくされ、プロジェクトの進行も危うい状況になる CDT も出現した。

CORSATUR では、これらの対応として問題となっている市をプロジェクトの責任者が直接訪問し、プロジェクトの内容を説明して、この理解を求め、プロジェクトのスムーズな進行に繋げた。

5.7. 現況調査の重要性

プロジェクト開始前の情報として、プロジェクトサイトであるフォンセカ湾地域周辺 13 市においては、既に地元の企業や観光関連業者による CDT が組織されており、プロジェクトを実施していくための基礎的組織は既に成立していること、これらの CDT が CORSATUR の指導によって法人化されることにより、他ドナーや NGO からの資金提供を受けることが可能となること、となっていた。

第一年次の現況調査において、13 市全てには CDT がいないこと、地元の観光産業が極めて未熟であること、地元住民の観光産業に対する関心が低いこと、などは明確となった。

一方、法人化においても、調査が進むにつれて、各 CDT が自主的に法人化したものではなく、法人化に伴う税金や国への報告などの義務を果たしていないことが明らかとなり、CORSATUR としては法人化を重荷と意識するようになり、プロジェクト終盤においては CORSATUR としては各 CDT の法人化は支援しない、法人化は各 CDT が独自に実施する、という方針を示すようになった。

PDM は現況情報に基づいて作成されており、改めて現況調査の重要性を教訓として得られた。

第6章 PDM の変遷

6.1. PDM 変遷の概要

本プロジェクトのプロジェクトデザインマトリックス (PDM) は、プロジェクト実施期間中に以下のような変更が行われた。

6.1.1. 議事録 (RD) 締結時

最初の PDM は JICA エルサルバドル事務所所長と観光大臣との間で 2010 年 3 月 23 日に締結された。

6.1.2. 第 2 年次における CORSATUR との協議

業務開始時点から懸案事項となっていた「PDM の改訂」について、パイロットプロジェクトと研修の内容が確定し、業務がパイロットプロジェクトの仕組みの検討、それに続くモニタリング・評価のステージに入ったことから、現行 PDM を見直し、これを改訂した。改訂 PDM については 2011 年 12 月 7 日に CORSATUR との間で合意したが、第 3 回 JCC 会議で承認される必要があった。

改訂の主なポイントは以下のとおりである。

活動の実態や対象地域の実情と整合させる

現行 PDM の成果 2 では、「13 市においてパイロットプロジェクトが実施される」となっているが、この前提として、13 市の全てで CDT が設立されているということが

ある。しかし、現実には CDT の設立は 11 市(2012 年 2 月末現在)、法人化終了は 5 市に限定されており、この修正が必要である。また、現在パイロットプロジェクトを実施していない 7 市に対してパイロットプロジェクトを拡大していくことは現実的に困難である。

表 6.1-1 改訂 PDM と現行 PDM の比較

	現行 PDM	改訂 PDM	変更理由
成果 1.	東部地域の観光開発の方向性が導き出される。	東部地域の観光開発の方向性が導き出される。	成果、活動に変更なし。
活動 1-3	・ 観光開発指針案(ガイドライン)の策定	・ 参加型で観光開発指針案(ガイドライン)の策定	ステークホルダーを巻き込んでガイドラインを作成する、ということで「参加型」を付けた。
成果 2.	CAT ラウニオンが管轄する 13 市において、地域独自の資源を活用した観光商品の開発、改善、販促に係るパイロットプロジェクトが実施される。	パイロットプロジェクト実施から地域独自の資源を活用した観光商品の開発、改善、販促にかかる教訓が得られる。(PP からの教訓)	・ 13 市全てでパイロットプロジェクトを実施することは極めて困難である。 ・ パイロットプロジェクトの実施そのものが成果ではなく、そこから教訓が得られることを成果とした。
成果 3.	パイロット地域の観光委員会の能力が向上する。	パイロット地域の観光委員会の能力が向上する。(CDT 能力強化)	簡潔な表現を成果に追記した。活動を一つ追加した。
活動 3-2		・ 観光委員会等の活動規約の作成	CDT の能力向上のために重要な活動なので、これを明示した。
成果 4.	MITUR および CORSATUR における地域の観光委員会支援能力が向上する。	MITUR および CORSATUR における地域の観光委員会支援能力が向上する。(MITUR/CORSATUR 能力強化)	簡潔な表現を成果に追記した。活動を一つ追加した。
活動 4-3		・ 法人格を持たない観光委員会の法人化	CDT の能力向上のために重要な活動なので、これを明示した。
成果 5.	観光委員会の活動モデルが開発され、対象地域に普及される。	観光委員会の活動モデルが開発され、対象地域に普及される。(モデルの開発と普及)	簡潔な表現を成果に追記した。

指標の設定

現行 PDM のいくつかの指標については、JICA プロジェクトチーム着任後に見直しすることを前提にして設定されていた。今回、指標については、入手手段を考慮して、現実的な指標を設定した。

外部要因

外部要因についても見直し、これを改訂した。例えば、CDT のメンバーの中には多くの市役所関係者が入っているが、これらのメンバーが、2012 年 3 月の地方選挙の結果で変更され、プロジェクトの遂行に深刻な影響を与えることが懸念されることから、この内容を追記した。

6.1.3. 第三年次中間レビュー調査

2011 年 12 月 7 日付で CORSATUR と合意した改定 PDM は JCC 会議で正式に承認されていないことから、次の JCC 会議で承認することとしていた。

中間レビュー調査が行われた 2012 年 6 月中旬に、中間レビューミッションがプロジェクトの現状分析を踏まえて改訂 PDM を見直し、これをベースに CORSATUR および JICA チームと協議しながら、さらに修正を加え、改訂 PDM(第 2 版)を作成し、これは第 3 回 JCC 会議で承認された。

主な改訂点は以下の通りである。

- 対象地域の明確化：広域的には東部地域、パイロットプロジェクト地域は CAT ラウニオンが管轄している 13 市、とする。
- ターゲットグループの明確化：MITUR/CORSATUR のスタッフ、およびプロジェクト地域の観光委員会/観光協会（観光委員会が法人化された組織）とする。
- 成果 2：現在の改訂版は、「活動 2-3」と同じ内容となっていることから、この記述を「パイロットプロジェクトの実施を通じて地域独自の資源を活用した観光開発に係る知識が向上する」に改める。
- 指標 2-4 の追加：成果 2 との関連において、指標 2-4「パイロットプロジェクト実施に係る観光委員会/観光協会のメンバーの半分以上において観光開発に対する意識や行動に変化がみられる」を追加した。
- 指標達成目標の数量化：現在の改訂版では目標を 13 市としていたが、現実的にこの実現が困難視されることから、実行可能な数値に変更した。具体的には、
例：「対象地域における」 「少なくとも 6 つの」
- 指標入手手段：いくつかの項目について修正した。「指標 2-4」との関連で、「意識調査」を実施することになる。
- 外部条件：現状にそぐわない表現を削除した。

6.2 PDM

上記の変更に対応する 3 種類の PDM を以下に示す。

（締結された PDM は英語版とスペイン語版であるが、これを日本語に翻訳した）

オリジナルの PDM

エルサルバドル国東部地域観光開発能力強化プロジェクト			
PDM			
プロジェクト要約	指標	指標データ入手手段	外部条件
<スーパーゴール(10年後)> 首都及び地方における経済格差が軽減する。	1. 首都および地方における総生産 2. 首都および地方における平均世帯収入	1. 経済統計	1. 国家の開発政策が継続される。 2. 政権が安定している。
<上位目標 (3年から5年後)> 地域特有の資源を活かしたコミュニティ・ツーリズムが確立される。	1. 地域コミュニティが主体となって観光商品が開発される。 2. プロジェクトサイトにおいて観光産業にかかる新たな雇用と投資が増加する。 3. 観光客の支出が増加する。	1. 観光統計 2. ツアーパンフレット 3. 経済統計	1. 中央政府からのサポートが継続される。 2. 治安と衛生が改善される。 3. 観光マーケットが拡大される。
<プロジェクト目標> 東部地域において地域コミュニティに裨益する官民連携による持続可能な観光開発の体制を構築する。	1. 観光委員会の役割と位置づけを明文化する。 2. 観光商品開発計画が策定される。 3. 観光マーケティング計画が策定される。	1. CORSATUR及び観光委員会からの報告書 2. 地域の観光関連統計	1. 政府のサポートが継続される。 2. CORSATUR及びドナーとの合意のもと、CORSATURを通じた観光開発のためのドナー資金が継続的に割りあてられる。
成果			
1. 東部地域の観光開発の方向性が導き出される。	1-1. 観光開発や観光機関にかかる現状報告書の作成。 1-2. 観光資源調査報告書の作成。 1-3. 住民参加型観光開発に関する指針案の作成。	1. 戦略文書 2. CORSATUR及び観光委員会からの報告書 3. CORSATUR年次報告書 4. CORSATURからの統計 5. プロジェクト報告書	
2. CATラウニオンが管轄する13市において、地域独自の資源を活用した観光商品の開発、改善、販促にかかるパイロット・プロジェクトが実施される。	2-1. パイロット・プロジェクトの選定基準・指針が策定される。 2-2. プロジェクトサイトにおいてパイロット・プロジェクトが5つ実施される。 2-3. プロジェクト活動のモニタリング・評価報告書が作成され、関係者間で共有し、理解される。		
3. 地域の観光委員会の能力が向上する。	3-1. 観光委員会やその関係者のニーズ調査の結果をもとにXつの研修が実施される(以下、「X」については、プロジェクトチームが着任後3ヶ月以内を目処に設定する)。 3-2. 観光委員会を含む観光関連機関が情報共有を行うための定期会議が年にX回開催される。 3-3. 観光委員会相互が交流する定期会議が年にX回開催される。 3-4. 13の観光委員会すべての観光開発にかかるコンセプトが策定される。		
4. MITUR及びCORSATURにおける地域の観光委員会支援能力が向上する。	4-1. CORSATURと観光委員会の定期会議が少なくとも年にX回開催される。 4-2. CORSATURが主体的に管理・運営する研修が年にX回開催される。 4-3. 法人格を持たないXつの観光委員会を法人化させる。		
5. 観光委員会の活動モデルが他地域に普及される。	5-1. 上記指針が「E」国全体の指針としてCORSATURに承認される。 5-2. 観光委員会能力強化のための提言書が策定され、関係者、関係機関に共有される。 5-3. 提言書普及のためのセミナーが少なくともX回開催される。		
活動	投入	外部条件	
1-1. 東部地域における観光開発に関する現状調査を行う。 1-2. 東部地域におけるポテンシャルの高いエリアの分析を行う。 1-3. 東部地域における観光開発の指針案を策定する。	<<日本側>> 1. 人員 (1) 総括/コミュニティ開発1 (2) 副総括/観光開発1/コミュニティ開発2 (3) 観光開発2 (4) 組織間調整 (5) 観光プロモーション (6) 人材育成 2. 機材 (1) 4WD 車両 (2) 5 ラップトップ・コンピューター (3) 2 プロジェクター (4) 2 スクリーン (5) 1 コピー機 (6) 1 レーザープリンター (7) 1 インクジェットプリンター 3. カウンターパート研修 JICAは、本プロジェクトに関係したエルサルバドル人職員を、本邦研修および第三国研修にて受け入れる。	<<エルサルバドル側>> 1. 人員 1) プロジェクトダイレクター 2) プロジェクトマネージャー 3) プロジェクトコーディネーター 4) カウンターパート 5) その他必要な人員 2. 機材 1) 本プロジェクトに必要な機材 3. ファシリティー 1) プロジェクトオフィス 4. 本プロジェクト活動のためのローカルコスト	
2-1. 観光委員会との協議のもと、CORSATURの調整によりパイロット・プロジェクトの選定基準を作成する。 2-2. パイロット・プロジェクトを選定し、実施する。 2-3. パイロット・プロジェクト活動のモニタリング・評価を実施し、教訓を導き出す。			
3-1. 観光委員会やその関係者のニーズを調査し、研修を実施する。 3-2. 大学や、NGO、観光業者、行政機関などの関連機関と観光委員会のネットワークを強化する。 3-3. 観光委員会相互の交流を強化する。 3-4. 観光委員会ごとに観光開発に関するコンセプトを作成する。 3-5. 観光委員会のドナー機関やNGOに対する資金協力を含む支援依頼にかかるプロポーザル作成能力を強化する。			
4-1. MITUR及びCORSATURの、観光委員会とのコミュニケーション能力を強化する。 4-2. MITUR及びCORSATURによる、他ドナーやNGOからの資金提供を受けるために必要な観光委員会のプロポーザル作成及びプロジェクトの企画・運営等の能力強化にかかる支援を実施する。			
5-1. 成果1から4を通じて、観光委員会能力強化のための提言をまとめる。 5-2. 他地域に対して普及のためのセミナーを開催する。			

2年次の改訂 PDM

Project Design Matrix (PDM) (改定案)			
<p>プロジェクト名: エルサルバドル国東部地域観光開発能力強化プロジェクト プロジェクト実施期間: 3年間 (2010年9月～2013年7月) Ver. 2 (2011年12月7日) 対象地域: 東部地域 (パイロット地域: CAT La Unionが現在管轄している13市) ターゲットグループ: MITUR/CORSATUR職員、パイロット地域の観光委員会員 スーパーゴール: 首都及び地方における経済格差が軽減する。</p>			
プロジェクト概要	指標	指標入手手段	外部条件
上位目標			
地域特有の資源を活かしたコミュニティツーリズムが確立される。	1 対象地域において地域コミュニティが主体となって開発された観光商品が増加する。 2 東部地域の観光セクターの雇用が増加する。	1 CORSATURと観光委員会による報告書 2 CORSATURによる観光統計	- 深刻な経済危機に陥らない。 - 深刻な自然災害が発生しない。
プロジェクト目標			
東部地域において地域コミュニティに裨益する官民連携による持続可能な観光開発の体制を構築する。	1 観光委員会と役割と位置づけを明文化する。 2 開発されたモデル (JICA La Union Model) が標準モデルとしてCORSATURに承認される。 3 パイロット地域の観光セクターの雇用が増加する。	1 CORSATURと観光委員会による報告書 2 CORSATURの公式文書 3 CORSATUR/CAT La Unionによる観光統計	- 観光委員会に係る政府の政策が継続する。 - 治安や衛生状況が悪化しない。 - 訓練を受けたカウンターパートが働き続ける。
成果			
1 東部地域の観光開発の方向性が導き出される。(ガイドライン)	1-1 観光開発や観光機関にかかる現状報告書が作成される。 1-2 観光資源調査報告書が作成される 1-3 住民参加型観光開発に関するガイドライン案が作成される	1-1 作成された報告書 1-2 作成された報告書 1-3 作成されたガイドライン案	- 中央政府が東部地域における観光開発の重要性を維持する。 - CORSATURと他ドナーとの合意に基づく観光開発のための観光委員会への資金協力体制が継続する。
2 パイロットプロジェクト実施から地域独自の資源を活用した観光商品の開発、改善、販促にかかる教訓が得られる。(PPからの教訓)	2-1 パイロットプロジェクトの選定基準・指針が策定される。 2-2 パイロット地域において少なくとも5つのパイロットプロジェクトが実施される。 2-3 プロジェクト活動のモニタリング・評価報告書が作成され、関係者間で共有し、理解される。	2-1 プロジェクトによるモニタリング記録 2-2 プロジェクトによるモニタリング記録 2-3 プロジェクトによるモニタリング記録 パイロットプロジェクトのモニタリング記録	
3 パイロット地域の観光委員会能力が向上する。(COT能力強化)	3-1 支援対象となる観光委員会毎に少なくとも1つのニーズに基づく研修が実施される。 3-2 支援対象となる観光委員会毎に活動規約が作成される。 3-3 支援対象となる観光委員会により関係機関と少なくとも月例で情報共有のための定期会議が開催される。 3-4 支援対象となる観光委員会毎に観光開発に関するコンセプトが作成される。 3-5 対象となる観光委員会毎に少なくとも1つの提案書が作成される。	3-1 プロジェクトによるモニタリング記録 プロジェクトによる研修記録 3-2 作成された活動規約 3-3 プロジェクトによるモニタリング記録 観光委員会による会議記録 3-4 対象観光委員会による観光開発コンセプト 3-5 観光委員会が作成した提案書	
4 MITUR及CORSATURにおける地域の観光委員会支援能力が向上する (MITUR/CORSATUR能力強化)	4-1 CORSATURと観光委員会の定期会議が少なくとも月に1回開催される。 4-2 CORSATURが主体的に管理・運営する観光委員会のための研修・セミナーが10回以上開催される。 4-3 パイロット地域において法人格を持たない13つの観光委員会が法人化される。	4-1 プロジェクトによるモニタリング記録 会議記録 4-2 CORSATURによる研修記録 4-3 法人登録書類	
5 観光委員会の活動モデルが開発され、対象地域に普及される。(モデルの開発と普及)	5-1 最終化されたガイドラインを含む、プロジェクトの教訓を基にしたモデルが開発される。 5-2 モデル普及のためのセミナーが少なくとも4回開催される。	5-1 開発されたモデル(文書) 5-2 セミナー記録	
活動	エルサルバドル側投入	日本側投入	
1-1 東部地域における観光開発に関する現状調査を行う。 1-2 東部地域におけるポテンシャルの高いエリアの分析を行う。 1-3 参加型で東部地域における観光開発の指針案を策定する。 2-1 観光委員会との協議のもと、CORSATURの調整によりパイロットプロジェクトの選定基準を作成する。 2-2 パイロットプロジェクトを選定し、実施する。 2-3 パイロットプロジェクト活動のモニタリング・評価を実施し、教訓を導き出す。 3-1 観光委員会やその関係者の研修ニーズを調査し、研修を実施する。 3-2 各観光委員会が活動に係る規約を作成する。 3-3 大学や、NGO、観光業者、行政機関などの関連機関と観光委員会のネットワークを強化する。 3-4 観光委員会相互の交流(第三国研修を含む)を強化する。 3-5 関係する観光委員会ごとに観光開発に関するコンセプトを作成する。 3-6 観光委員会のドナー機関やNGOに対する資金協力を含む支援依頼にかかるプロポーザル作成能力を強化する。 4-1 MITUR及CORSATURの、観光委員会とのコミュニケーション能力を強化する。 4-2 MITUR及CORSATURによる、他ドナーやNGOからの資金提供を受けるために必要な観光委員会のプロポーザル作成及びプロジェクトの企画・運営等の能力強化にかかる支援を実施する。(本邦研修を含む) 4-3 MITUR及CORSATURは、パイロット地域において法人格を持たない観光委員会の法人化を行う。 5-1 成果1から4を通じて、観光委員会能力強化のための提言をまとめ、モデルを構築する。 5-2 対象地域に対してモデル普及のためのセミナーを開催する。	1. 人員 ① プロジェクトダイレクター ② プロジェクトマネージャー ③ プロジェクトコーディネーター ④ カウンターパート ⑤ その他必要人員 2. 機材 ① 本プロジェクトに必要な機材 3. ファシリテーター ① プロジェクトオフィス ② パイロットプロジェクト実施に必要な土地建物 4. 本プロジェクト活動のためのローカルコスト	1. 人員 ① 総括/組織調整1 ② 副総括/観光開発/コミュニティ開発2 ③ 観光開発2 ④ 組織調整2 ⑤ 観光プロモーション ⑥ 人材育成 2. 機材 ① 4WD 車両 ② 5 ラップトップ/コンピュータ ③ 2 プロジェクター ④ 2 スクリーン ⑤ 1 コピー機 ⑥ 1 レーザープリンター ⑦ 1 インクジェットプリンター 3. カウンターパート研修 JICAは、本プロジェクトに関係したエルサルバドル人職員を、本邦研修および第三国研修にて受け入れる。	- 地域コミュニティがプロジェクトに協力する。 - 専門家とカウンターパートの投入計画が大きく変更されない。 - 2012年の地方選挙結果が、対象となる観光委員会の委員構成に深刻な影響を及ぼさない。 監視要件 - 観光委員会からプロジェクトへの理解が得られる。
* : 赤字が改訂された内容			

改定 PDM (第 2 版)

Project Design Matrix (PDM)			
プロジェクト名: エルサルバドル国東部地域観光開発能力強化プロジェクト			
プロジェクト実施期間: 3年間 (2010年6月～2013年7月)		Ver. 2 (2012年6月27日)	
対象地域: 東部地域 (パイロットプロジェクト地域: CAT La Uniónが現在管轄している13市)			
ターゲットグループ: MITUR/CORSATUR職員、パイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会			
スーパーゴール: 首都及び地方における経済格差が軽減する。			
プロジェクト概要	指標	指標入手手段	外部条件
上位目標			
東部地域において地域特有の資源を活かしたコミュニティ・ツーリズムが確立される。	1 東部地域において地域コミュニティが主体となって開発された観光商品が増加する。 2 東部地域の観光セクターの雇用が増加する。	1 CORSATURと観光委員会/観光協会による報告書 2 CORSATURによる観光関連統計 中央銀行による経済統計 経済省による統計 観光業者団体による統計など	
プロジェクト目標			
東部地域において地域コミュニティに裨益する官民連携による持続可能な観光開発の体制を構築する。	1 観光委員会/観光協会の役割と位置づけを明文化する。 2 開発されたモデル (JICA La Unión Model) が標準モデルとしてCORSATURに承認される。 3 パイロットプロジェクト地域 の一部の地域においては観光セクターの雇用が増加する。	1 CORSATURと観光委員会/観光協会による報告書 2 CORSATURの公式文書 3 CORSATURによる観光関連統計 中央銀行による経済統計 経済省による統計 観光業者団体による統計など	観光委員会/観光協会の能力強化に係る政府の政策が継続する。 治安や公衆衛生状況が悪化しない。 訓練を受けたカウンターパートが働き続ける。
成果			
1 東部地域の観光開発の方向性が導き出される。(ガイドライン)	1-1 観光開発や観光機関にかかる現状報告書が作成される。 1-2 観光資源調査報告書が作成される。 1-3 住民参加型観光開発に関するガイドライン案が作成される。	1-1 作成された報告書 1-2 作成された報告書 1-3 作成されたガイドライン案	中央政府が東部地域における観光開発の重要性を維持する。
2 パイロットプロジェクト地域 における パイロットプロジェクト を実施を通じて 地域独自の資源を活用した観光開発 に係る知識が向上する。	2-1 パイロットプロジェクト の選定基準・指針が策定される。 2-2 パイロットプロジェクト地域 において少なくとも5つの パイロットプロジェクト が実施される。 2-3 パイロットプロジェクト 活動から導き出された教訓を含んだモニタリング・評価報告書が作成される。 2-4 パイロットプロジェクト 実施に係る 観光委員会/観光協会 のメンバーの半分以上において 観光開発 に対する意識や行動に変化がみられる。	2-1 プロジェクト進捗報告書 2-2 プロジェクト進捗報告書 2-3 プロジェクト進捗報告書 2-4 観光委員会/観光協会 の パイロットプロジェクト に対する知識・意識調査 プロジェクト進捗報告書	
3 パイロットプロジェクト地域 の 観光委員会/観光協会 の能力が向上する。(観光委員会と観光協会の能力強化)	3-1 パイロットプロジェクト地域 におけるすべての 観光委員会/観光協会 でニーズに基づく研修が最低1研修実施される。 3-2 少なくとも6つの観光委員会/観光協会 において 規約 もしくは 定款 が作成・改善される。 3-3 少なくとも6つの観光委員会/観光協会 において関係機関情報共有のための定例会議が月例で開催される。 3-4 少なくとも6つの観光委員会/観光協会 においては 観光開発 に関する コンセプト が作成される。 3-5 少なくとも6つの観光委員会/観光協会 においては 最低一つの提案書 が作成される。	3-1 プロジェクト進捗報告書 プロジェクトによる研修記録 3-2 作成された活動規約 3-3 プロジェクト進捗報告書 観光委員会/観光協会による会議記録 3-4 観光開発コンセプト (が示された書類) 3-5 観光委員会/観光協会が作成した提案書	
4 MITUR及びCORSATURにおける パイロットプロジェクト地域 の 観光委員会/観光協会 支援能力が向上する。(MITUR/CORSATUR能力強化)	4-1 CORSATURと観光委員会/観光協会の定期会議が少なくとも月に1回開催される。 4-2 CORSATURが主体的に管理・運営する 観光委員会/観光協会 のための研修・セミナーが10回以上開催される。 4-3 パイロットプロジェクト地域 において プロジェクト開始段階 で 法人格 を持たなかった 8つの観光委員会 のうち 3つ が 法人化 される。	4-1 プロジェクト進捗報告書 会議記録 4-2 研修・セミナー参加者リスト 4-3 法人登録書類	
5 観光委員会/観光協会 の活動モデルが開発され、 東部地域 に普及される。(モデルの開発と普及)	5-1 ガイドラインを含む、プロジェクトの教訓を基にした モデル が開発される。 5-2 モデル普及 のための セミナー が少なくとも 4回 開催される。	5-1 開発されたモデル (文書) 5-2 セミナー記録	
活動		エルサルバドル側投入	日本側投入
1-1 東部地域における観光開発に関する現状調査を行う。	1 人員 1) プロジェクトダイレクター 2) プロジェクトマネージャー 3) プロジェクトコーディネーター 4) 3名 カウンターパート 5) 7名 パイロットプロジェクト担当者	1 人員 1) 総務/組織調整1 2) 事務/観光開発/コミュニティ開発2 3) 観光開発2 4) 組織調整2 5) 観光プロモーション 6) 人材育成	地域コミュニティがプロジェクトに協力する。 専門家とカウンターパートの投入計画が大きく変更されない。 2012年の地方選挙結果が、対象となる観光委員会/観光協会の委員構成に深刻な影響を及ぼさない。
1-2 東部地域におけるポテンシャルの高いエリアの分析を行う。	2 機材 1) 本プロジェクトに必要な機材	2 機材 1) 4WD 車両 2) 5 ラップトップ/コンピューター 3) 2 プロジェクター 4) 2 スクリーン 5) 1 コピー機 6) 1 レーザープリンター 7) 1 インクジェットプリンター	
1-3 参加型で東部地域における観光開発の指針案を策定する。	3 ファシリテーター 1) プロジェクトオフィス 2) パイロットプロジェクト実施に必要な土地建物 4 本プロジェクト活動のためのローカルコスト	3 資金 パイロットプロジェクトにかかる費用 4 カウンターパート研修 JICAは、本プロジェクトに関係したエルサルバドル人職員を、本邦研修および第三国研修にて受け入れる。	前提条件 観光委員会/観光協会、地方自治体からプロジェクトへの理解が得られる。
2-1 観光委員会/観光協会との協議のもと、CORSATURの調整により パイロットプロジェクト の選定基準を作成する。			
2-2 パイロットプロジェクト を選定し、実施する。			
2-3 パイロットプロジェクト 活動のモニタリング・評価を実施し、教訓を導き出す。			
3-1 観光委員会/観光協会 やその関係者の研修ニーズを調査し、研修を実施する。			
3-2 各 観光委員会/観光協会 において 規約 や 定款 の作成もしくは改善を行う。			
3-3 大学や、NGO、観光業者、行政機関などの関連機関と 観光委員会/観光協会 のネットワークを強化する。			
3-4 観光委員会/観光協会 相互の交流 (第三国研修を含む) を強化する。			
3-5 関係する 観光委員会/観光協会 ごとに 観光開発 に関する コンセプト を作成する。			
3-6 観光委員会/観光協会 のドナー機関やNGOに対する資金協力を含む支援依頼にかかるプロポーザル作成能力を強化する。			
4-1 MITUR及びCORSATURの、 観光委員会/観光協会 とのコミュニケーション能力を強化する。			
4-2 MITUR及びCORSATURによる、他ドナーやNGOからの資金提供を受けるために必要な 観光委員会/観光協会 のプロポーザル作成及び プロジェクト の企画・運営等の能力強化にかかる支援を実施する。(本邦研修を含む)			
4-3 MITUR及びCORSATURは、 パイロットプロジェクト地域 において 法人格 を持たない 観光委員会 の法人化を行う。			
5-1 成果1から4を通じて、 観光委員会/観光協会 能力強化のための提言をまとめ、モデルを構築する。			
5-2 東部地域に対して モデル普及 のための セミナー を開催する。			
*「観光委員会」とはMITUR/CORSATURによって承認された、地域の観光活動のために組織化された地域の代表者グループ。 「観光協会」とは、上記「観光委員会」が法人化された組織のことを示す。			